

出土建築材資料集

— 繩文・弥生・古墳時代 —

第3分冊

山陰・山陽・四国・九州

2005年

小矢部市教育委員会

目 次

鳥 取 県	1
島 根 県	42
岡 山 県	73
山 口 県	100
四国地区（香川県・愛媛県・高知県）	110
福岡県（筑前・筑後）	116
福岡県東部	137
佐 賀 県	148
長 崎 県	151
大 分 県	157
宮 崎 県	162

例　　言

- 本書は、出土建築材資料集の第3分冊で、山陰・山陽・四国・九州の資料を掲載している。
- 資料集は3分冊からなり、第1分冊は、北海道・東北・関東・中部・北陸の資料を、第2分冊は東海・近畿の資料を掲載している。担当者は、下記のとおりである。

出土建築材集成作業担当者（第3分冊）			
地 区	都道府県・地域	担 当 者	所 属
山 隊	鳥取県	湯村 功	鳥取県教育委員会
	島根県	中川 寧	島根県埋蔵文化財調査センター
山 阳	岡山県	扇崎 由	岡山市埋蔵文化財センター
	山口県	藤本 有紀	北九州市立埋蔵文化財センター
		佐藤 浩司	北九州市立埋蔵文化財センター
四 国	香川県・愛媛県・高知県	山下 平重	香川県歴史博物館
九 州	福岡県（筑前・筑後） 佐賀県・長崎県	山口 讓治	福岡市教育委員会
	福岡県東部 大分県・宮崎県	佐藤 浩司	北九州市立埋蔵文化財センター

鳥取県の概要

湯村 功

鳥取県における建築材の出土例は多くなく、その出土状況も溝の中に溜まっていたり、護岸材などに転用されていたりと、建物の構造材としてどのように使われていたかを知ることのできる例は少ない。したがって仕口のあり方も不明な部分が多い。

それでも近年、低湿地遺跡の調査例が増え、徐々に建築材の類例を増していることに加え、焼失住居の検出例も多く、様々な情報が得られるようになってきた。ここでは、この2点に焦点を当て、鳥取県の様相を概観したい。

(1) 低湿地遺跡出土の建築材

縄文時代のものは桂見遺跡、目久美遺跡、井手脇遺跡で出土しているが、棒材や杭が少数見られるにすぎない。

弥生時代前期から中期では桂見遺跡、青谷上寺地遺跡、目久美遺跡に出土例がある。細かな時期特定はできないものの、この段階から貫穴やほぞ穴の存在が確認できる。

弥生時代中期後葉段階の建築材は桂見遺跡で大型のものが知られていたが、青谷上寺地遺跡の調査により、大型でかつ高い製作技術に裏付けられた例が増えることとなった。211は長さ2m70cmを測る大型の板材であるが、厚さは2cmほどしかない。212の機能は慎重に判断しなければならないが、細かな材をほぞ結合と樹皮緊縛で固定した「窓枠状」のものである。樹皮緊縛のみがあるが似たような形状の213、219~230は、この時期に顕著に見られるもので、島根県にも類例がある（島根県資料、布田遺跡7）。218も棒材を組み合わせるものであるが、2m60cm×1m80cmと大きく、屋根下地の可能性がある。この時期は遺構や出土品全般から見て集落展開の画期と考えられるが、建築材の状況もそれを裏付けている。

弥生時代後期から古墳時代前期は建築材の出土例が最も多い。桂見遺跡出土の355は、長さ9m20cmと超大型で、破風板の可能性が指摘されている。118は端部が本来の形状をとどめているか問題だが、鋸歯状の切り込みを等間隔に入れており、類例として出雲市海上遺跡例（島根県資料、海上遺跡8）がある。報告書では破風板の可能性が考えられている。建築材とは直接関係するものか分からぬが、青谷上寺地遺跡からは組み紐が出土している（217）。建築材相互の緊縛に用いられた可能性もあるので、参考までに掲げておいた。

古墳時代中期以降では岩吉遺跡などで出土しており、ほぞや貫穴の存在が確認されているが、出土例が少なく詳細は不明である。

低湿地遺跡から出土した建築材の樹種については、スギの多用傾向が指摘されている（文献1、2）。

(2) 焼失住居から検出された建築材

鳥取県では焼失住居の検出例が多く、文献3では165例の集成がなされた。今回はその後の追加例も含めて、弥生時代から古墳時代にかけての190例を掲げた。

焼失住居から検出された建築材については、近年樹種鑑定がこまめに行われている。当初はスダジイの多用が指摘されていたが（文献4、5）、クリを盛んに用いていたことも分かってきた（文献6、7）。笠見第3遺跡の古墳時代中期の焼失住居ではクリ、スダジイよりもクスギ類、カシ類、クスノキなど、その他の広葉樹類が見られた。これらは二次林の樹種であるとされ、集落の周りが二次林化していたことが指摘されている。

低湿地遺跡から出土したものを含めて、建築材に用いられた樹木はスギやスダジイ、クリといった特定の樹種に偏る傾向があるとしても、それは遺跡周辺の植生も反映していると理解すべきなのであろう。

以上、雑駁に鳥取県の様相を概観した。今後の類例が増えるとともに、青谷上寺地遺跡から出土した多量の建築材の調査が進めば、さらに様相が明らかとなろう。

仕口總括表

時代	貫穴	渡りあご	相欠き	ほぞ
縄文				
弥生前期				
弥生中期	○		△	○
弥生後期	○			○
古墳	○		△	○
飛鳥				

番号	遺跡名	種別	長さ	最大幅	最大厚	断面	出土位置	時期	調査	文獻	報告書番号
1		柱				クリ	C区遺構外	古墳以降		40-1	
2		柱				クリ	C区遺構外	古墳以降		40-2	
3		柱				クリ	C区遺構外	古墳以降		40-3	
4		柱				クリ	C区遺構外	古墳以降		40-4	
5		柱				カヤ	C区遺構外	古墳以降		40-5	
6		柱子				スギ	C区遺構外	古墳以降		42-4	
7		板材	(44.8)	14.4	2.2	スギ	C区遺構外	古墳以降		42-5	
8		板材	(12.5)	15.2	2.0	スギ	C区遺構外	古墳以降		42-1	
9		板材	124.0	15.0	2.4	スギ	C区遺構外	古墳以降		42-2	
10	柱見遺跡①	柱	66.8	4.9			A区遺構内	鉢付箱型		20-25	
11		柱	(46.3)				A区遺構外	生後中期～古墳前期	西陣カット	29-26	
12		柱	(43.0)				A区遺構外	生後中期～古墳前期	1ヶ所ほどぞれ	29-27	
13	柱見遺跡②	板材	(179.1)	20.3			C区SD-04	生後後期～古墳前期	半圓部分に塗え木を	68-22	
14		板材	71.5	3.9	2.5		C区SD-05	生後後期～古墳前期	てて板皮有頭状	78-22	
15		板材	92.5	4.3	4.1		C区SD-05	生後後期～古墳前期	端部削りだし	75-23	
16		柱太?	(193.7)	9.5	8.8	スギ	第1坑	生後中期後期	端部に抉り	62-4	
17		板材	(191.9)	8.1	3.7		第1坑	生後中期後期		62-5	
18		板材	(194.6)	9.1	4.2		第1坑	生後中期後期	端部が擴くなるよう加工。	62-6	
19		板材	(129.2)	8.9	4.4		第1坑	生後中期後期	机に転用。	62-7	
20		板材	(166.2)	11.6	5.3		第1坑	生後中期後期	机に転用。	62-8	
21		板材	(210.0)	14.3	6.9		第1坑	生後中期後期	机に転用。	62-9	
22		板材	(156.8)	14.7	2.6		第1坑	生後中期後期	1ヶ所ほどぞれ。机に転用。	62-10	
23		板材	(139.2)	14.0	4.6		第1坑	生後中期後期	1ヶ所ほどぞれ?机に転用。	62-11	
24		板材	(156.5)	6.2	5.2		第1坑	生後中期後期	1ヶ所ほどぞれ?机に転用。	62-12	
25		板材	(136.5)	7.0	4.0		第2坑	生後中期後期	机に転用。	64-13	
26		板材	(138.6)	8.2	6.0		第2坑	生後中期後期	端部に抉り	64-14	
27		板材	(109.5)	12.3	9.9		第2坑	生後中期後期	机に転用。	64-15	
28		板材	(163.5)	12.5	7.0		第2坑	生後中期後期	1ヶ所ほどぞれ?	64-16	
29		板材	(166.0)	10.2	8.7	スギ	第2坑	生後中期後期	机に転用。	64-17	
30		板材	(89.6)	8.3	3.8		第3坑	生後中期後期	机に転用。	66-20	
31		板材	255.6	17.2	5.4	スギ	木器溜01	弥生後期	端部を丸く円穴を穿つ。	78-50	
32		板材	401.6	12.6	11.5	スイ	木器溜01	弥生後期	約25mm間隔の方形孔も	78-51	
33		板材	366.4	13.1	3.9	スギ	木器溜01	弥生後期	自然木の一次利用	78-52	
34		棒材	(374.5)	16.7	7.0	スギ	木器溜01	弥生後期	両端部に方孔。	78-53	
35		破壊?	(920.1)	22.4	3.9	スギ	木器溜01	弥生後期	丸太の半継ぎではなく、半円形に加工。	78-49	
36		板材	(50.0)	3.5	3.5		木器溜01	弥生後期	端部を斜めにカットし、20~30cm間隔で	78-45	
37		板材	7.8	3.0	2.5		木器溜01	弥生後期	方孔を穿つ。	78-46	
38		板材	(101.5)	10.0	5.1		木器溜01	弥生後期	端部を尖らせる。	78-47	
39		柱?	(72.8)	11.5	13.1		木器溜01	弥生後期	35mm間隔の小孔も。	78-48	
40		板材	(70.0)	20.0	2.0		木器溜01	弥生後期	丸太の半継ぎではなく、半円形に加工。	80-54	
41	柱見遺跡③	板材	(57.7)	(21.4)	2.5		木器溜01	弥生後期	両端部を削めにカットし、中央に方孔?	80-55	
42		板材	82.4	16.2	1.9		木器溜01	弥生後期	3ヶ所穿孔。	80-56	
43		板材	(170.2)	(12.9)	6.8	スギ	木器溜01	弥生後期	1ヶ所ほど孔?机に転用。	81-57	
44		板材	181.0	21.6	8.9	スギ	木器溜01	弥生後期	1ヶ所ほど孔?机に転用。	81-58	
45		板材	(14.4)	4.3	4.3	スギ	木器溜01	弥生後期	机を有段接合加工。	81-59	
46		板材	(14.0)	5.6	4.0	スギ	木器溜01	弥生後期	2ヶ所に小穿孔。	81-60	
47		板材	148.2	24.0	6.0	スギ	木器溜01	弥生後期	机1つ。	81-61	
48		板材	229.5	25.7	2.8	スギ	木器溜01	弥生後期	肉眼を突出させ孔。	82-62	
49		板材	150.5	28.8	2.4	スギ	木器溜01	弥生後期	端部を尖らせ。4ヶ所穿孔。	82-63	
50		板材	51.8	16.7	2.1		木器溜02	古墳前期	一方に方孔抉り	108-68	
51		板材	63.5	17.0	2.6		木器溜02	古墳前期		108-69	
52		板材	45.4	10.2	1.2		木器溜02	古墳前期	Bヶ所に小穿孔。	109-70	
53		板材	33.6	10.2	3.3		木器溜02	古墳前期		109-71	
54		板材	(66.5)	10.7	1.5		木器溜02	古墳前期		109-72	
55		失却?	(23.5)	23.5	4.5		木器溜02	古墳前期		109-73	
56		板材	57.8	13.5	5.4		木器溜02	古墳前期	おとそ半分を切りだし。	109-74	
57		板材	(60.6)	16.3	5.7		木器溜02	古墳前期	八角形の加工材。	110-76	
58		板材	(51.3)	13.3	4.7		木器溜02	古墳前期	八角形の加工材。	110-80	
59		板材	(60.0)	16.3	5.6		木器溜02	古墳前期	八角形の加工材。	110-81	
60		板材	48.7	6.2	1.9		木器溜02	古墳前期	菱形の加工材。	111-82	
61		板材	63.5	6.2	1.9		木器溜02	古墳前期	菱形の加工材。	111-83	
62		棒材	66.2	7.9	3.9		木器溜02	古墳前期	一端は円形状に作り、他方は尖らず。	111-84	
63		板材	(107.0)	8.2	3.5		木器溜02	古墳前期	一端を円形状に作る。	111-85	
64		柱?	(90.5)	15.0	6.5		木器溜02	古墳前期		111-86	
65		棒材	97.1	9.5	3.4		木器溜02	古墳前期		112-91	
66		板材	(98.5)	9.1	7.5		木器溜02	古墳前期		112-92	
67		失却?	(104.4)	(12.8)	3.8		木器溜02	古墳前期	一端に有頭状の作りだし。	113-93	
68		板材	(95.5)	13.1	6.0		木器溜02	古墳前期		113-94	
69		板材	197.2	10.3	7.1		木器溜02	古墳前期		113-95	
70		板材	128.0	11.8	7.2		木器溜02	古墳前期	端部に抉り	114-96	
71		板材	123.0	20.2	3.2		木器溜02	古墳前期	肉眼削りだし。	114-97	
72		板材	(121.1)	9.8	1.8		木器溜02	古墳前期	ほぞれと方形抉り	114-98	
73		板材	(117.4)	2.0	0.5		木器溜02	古墳前期		115-99	
74		板材	157.5	2.7	2.4		木器溜02	古墳前期		116-100	
75		板材	232.2	19.3	5.5		木器溜02	古墳前期		116-102	
76		板材	219.0	11.1	7.2		木器溜02	古墳前期		116-103	
77		板材	(291.8)	12.1	11.2		木器溜02	古墳前期	自然木を短く加工。	116-104	
78		板材	50.0	4.1	3.0		木器溜外	縄文後期～晩期	一端に有頭状の作りだし。	234-144	
79		板材	(36.6)	2.5	2.1		木器溜外	縄文後期～晩期		234-145	
80		板材	(45.5)	3.1	3.0		木器溜外	縄文後期～晩期		234-146	

鳥取県内出土の建築材一覧(1)

番号	遺跡名	種別	高さ	幅(大)	奥行き	概要	出土位置	時期	備考	文獻	参考書等
82		板材	(91. 4)	9. 8	2. 8	スギ	遺構外	縄文後期～後期		234-147	
83		板材	(126. 0)	3. 7	3. 7	イイイ	遺構外	縄文後期～後期		234-148	
84		杭	(66. 6)	6. 2	6. 2	木のホノキ	遺構外	縄文後期～後期	自然木を加工	235-150	
85		板材	(21. 9)	9. 7	3. 1	スギ	遺構外	縄文後期～後期		239-151	
86		板材	(93. 2)	23. 2	2. 4	スギ	遺構外	縄文後期～後期		239-152	
87		板材	211. 6	4. 5	4. 3	スギ	遺構外	縄文後期～後期	自然木を加工	239-153	
88		板材	242. 1	11. 8	6. 5	スギ	遺構外	縄文後期～後期		236-154	
89		板材	313. 4	23. 0	2. 1	スギ	遺構外	縄文前期～中期	小孔あり	241-193	
90		板材	82. 7	13. 6	3. 8	スギ	遺構外	縄文前期～中期		240-185	
91		板材	(72. 5)	13. 0	2. 4	スギ	遺構外	縄文前期～中期	2ヶ所? 穴孔	241-191	
92		板材	(92. 0)	18. 6	2. 8	スギ	遺構外	縄文前期～中期	3ヶ所穿孔	241-192	
93		縄目	(73. 6)	3. 7	3. 1	スギ	遺構外	縄文前期～中期		240-186	
94		板材	(76. 4)	4. 3	2. 8	スギ	遺構外	縄文前期～中期	一端に有穿孔の作りだし	240-187	
95		板材	84. 6	2. 9	2. 6	スギ	遺構外	縄文前期～中期		240-188	
96		板材	124. 5	4. 6	3. 7	スギ	遺構外	縄文前期～中期		240-189	
97		板材	45. 0	11. 0	8. 1	スギ	遺構外	縄文前期～中期	縫合を設ける	240-190	
98		板材	(45. 5)	8. 2	1. 1	スギ	遺構外	縄文前期～中期	第9号の縫合～古墳前期 小孔が並ぶ	250-254	
99		板材	45. 8	11. 6	1. 4	スギ	遺構外	縄文前期～中期	第9号の縫合～古墳前期 一方を△字状に作り出し	250-255	
100	柱見遺跡③	板材	47. 0	13. 4	2. 7	スギ	遺構外	縄文前期～中期	第9号の縫合～古墳前期	251-256	10
101		板材	(45. 6)	8. 3	1. 3	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		251-257	
102		杭	(63. 0)	4. 5	4. 5	マツ	遺構外	縄文前期～古墳前期		251-258	
103		板材	90. 2	2. 2	2. 0	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		251-259	
104		板材	(81. 1)	4. 6	4. 1	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		251-260	
105		杭	(91. 3)	10. 5	6. 8	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		251-261	
106		板材	(45. 2)	8. 3	2. 1	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	2ヶ所穿孔	251-262	
107		板材	(32. 2)	19. 0	8. 4	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	縫合を設ける	251-263	
108		板材	83. 8	14. 9	4. 0	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		252-264	
109		板材	71. 5	13. 7	1. 8	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	2ヶ所の穿孔と1ヶ所の抜け	252-265	
110		板材	69. 3	(6. 0)	2. 8	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	4ヶ所? 穴孔	252-266	
111		板材	50. 3	16. 1	1. 5	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	2ヶ所の穿孔、各所に抜け	252-267	
112		板材	52. 6	(9. 8)	2. 4	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	3ヶ所? 穴孔	252-270	
113		箆痕?	82. 8	14. 3	2. 5	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	端部斜め突起、	258-271	
114		板材	(98. 6)	12. 9	1. 7	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	先端の穿孔跡	258-272	
115		板材	73. 0	7. 4	3. 1	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	2ヶ所の穿孔	258-273	
116		板材	(61. 3)	6. 4	6. 1	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		258-274	
117		縄子	(51. 4)	11. 0	4. 7	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期		254-277	
118		板材	(257. 3)	18. 2	6. 4	スギ	遺構外	縄文前期～古墳前期	等間隔の切り込み	254-278	
119		柱?	(45. 6)	15. 1	10. 4	A区 SD-02	柱生痕跡～古墳前期	縄文後期		36	
120	柱見遺跡④	板材	158. 2	17. 7	2. 6	スギ	区B区別	古墳前期	縄彌用小孔及び断面残る	56-1	11
121		板材	(182. 1)	13. 2	7. 5	スギ	区B区別	古墳前期	一端を削りだし、既に削除	56-2	
122		板材	54. 0	14. 0	3. 4	スギ	区B区別	古墳前期	縄彌用の孔に断面残る	58-7	
123		板材	52. 0	6. 2	3. 4	スギ	区B区別	古墳前期	1端は削りだし、既に削除	58-8	
124		杭	(57. 8)	6. 0	5. 8	スギ	区B区別	古墳前期	一端多角形状に加工。接着アリ	63-4	
125		板材	(236. 1)	6. 0	6. 0	広葉樹	区B区別	古墳前期	両端多角形状に加工	63-5	
126		板材	(139. 3)	4. 9	4. 0	スギ	区B区別	古墳前期		69-20	
127		杭	(146. 5)	19. 5	5. 6	スギ	区B区別	古墳前期		89-21	
128		杭	(180. 1)	19. 7	19. 7	スギ	区B区別	古墳前期		99-22	
129		縄子	(138. 8)	25. 7	4. 0	B区遺構外	古墳前期以前	足かけ部3段。		90-25	
130		板材	78. 4	13. 6	1. 6	B区遺構外	古墳前期以前	下端は△型に加工。		87-15	
131		縄子	150. 4	13. 8	13. 8	広葉樹	B区遺構外	一端に△形抜き		88-18	
132		板材	248. 5	15. 0	5. 0	B区遺構外	古墳前期以前	2ヶ所抜き		90-23	
133		板材	212. 2	11. 2	3. 5	B区遺構外	古墳前期以前	両端を削りだし、等間隔に穿孔		90-24	
134	柱見遺跡⑤	板材	53. 1	2. 8	1. 3	B区遺構外	古墳前期以前	両端を削りだし、等間隔に穿孔		87-14	12
135		板材	(103. 3)	12. 8	1. 8	C区遺構外	古墳前期	1端にV字形抜き		93-4	
136		板材	(108. 9)	14. 3	3. 8	C区遺構外	古墳前期	等間隔にV字		93-5	
137		板材	(88. 8)	9. 1	2. 2	D区遺構外	既生後期～古墳前期	両頭にV字孔		98-11	
138		板材	88. 8	19. 9	1. 8	D区遺構外	既生後期～古墳前期	小孔あり		98-12	
139		板材	298. 0	11. 3	4. 2	D区遺構外	既生後期～古墳前期	両端にV字形、一端に2孔一对の小孔が等間隔に並ぶ		98-13	
140		板材	(116. 9)	5. 0	4. 1	E区遺構外	古墳?	一端を削りだし、既に削除		101-3	
141		板材	194. 9	17. 7	4. 3	N区遺構外	古墳?	縄彌にV字孔		135-6	
142		板材	77. 9	(10. 9)	9. 0	O区遺構外	古墳?	両端にV字孔等間隔に並ぶ		112-13	
143		板材	(66. 2)	19. 8	7. 3	O区遺構外	古墳?	両端にV字孔		112-14	
144		板材	(204. 1)	12. 0	4. 7	O区遺構外	既生後期～古墳前期	縄彌に△形抜き		115-17	
145		板材	(59. 2)	11. 4	1. 9	区C遺構外	古墳?	はぞれ?		35-15	
146		板材	(71. 5)	5. 9	2. 4	区C遺構外	古墳?			35-16	
147		板材	(105. 6)	10. 7	3. 1	区C遺構外	古墳?			35-17	
148		板材	(84. 2)	13. 3	1. 9	区C遺構外	古墳?			35-18	
149		板材	(96. 3)	18. 0	2. 6	区C遺構外	古墳?			35-19	
150		板材	74. 7	7. 4	2. 1	区C遺構外	古墳?			35-20	
151		板材	150. 3	(19. 1)	4. 8	区C遺構外	古墳?			36-21	
152		板材	(201. 3)	16. 4	2. 6	区C遺構外	古墳?			36-22	
153	東柱見遺跡	板材	154. 5	16. 0	2. 3	1区遺構外	古墳	端部にV字孔?		36-23	13
154		板材	(134. 4)	4. 2	2. 9	1区遺構外	古墳	端部にV字孔?		36-24	
155		板材	(112. 6)	4. 1	4. 1	1区遺構外	古墳			36-25	
156		杭	81. 7	6. 0	2. 1	1区遺構外	古墳			36-26	
157		板材	(166. 0)	10. 2	3. 3	1区遺構外	古墳	断面△字状に加工		37-31	
158		板材	35. 1	17. 4	0. 8	7区遺構外	古墳	端部にV字		61-183	
159		板材	44. 0	9. 6	1. 0	7区遺構外	古墳	端部にV字		61-184	
160		板材	(33. 4)	(4. 9)	0. 8	7区遺構外	古墳	一端は斜めに加工。		61-185	
161		板材	49. 4	12. 7	1. 7	7区遺構外	古墳	端部にV字孔		61-187	
162		板材	(65. 7)	9. 0	3. 7	7区遺構外	古墳	端部にV字孔に加工		61-188	

鳥取県内出土の建築材一覧(2)

番号	遺跡名	種別	長さ	最大幅	最大厚	実積	出土位置	時期	備考	文献	参考書等番号
163		板材	61.2	(12.6)	2.2		7区遺構外	古墳	一辺に2ヶ所抜り、中央に大きな長方形の穿孔。その他2ヶ所穿孔	62-189	
164		板材	69.0	13.6	4.4		7区遺構外	古墳	両端部斜めにカット。一辺抜り	62-190	
165		板材	(86.2)	16.7	2.1		7区遺構外	古墳	両辺相反する抉り。小孔あり	62-191	
166		板材	(118.9)	9.1	3.5		7区遺構外	古墳		62-192	
167		板材	(119.0)	6.4	5.2		7区遺構外	古墳		62-193	
168		板材	(120.2)	21.4	2.4		4区遺構外	古墳	中央と一線に方孔孔	49-19	
169		板材	104.5	(16.5)	1.3		4区遺構外	古墳	2ヶ所×小孔	47-192	
170		板材	100.7	(16.5)	1.3		4区遺構外	古墳	2ヶ所×小孔	47-193	
171		板材	(186.1)	23.2	4.2		4区遺構外	古墳	断面にぼぞ貫？	47-195	
172		板材	81.6	(7.8)	1.8		4区遺構外	古墳	端部に小孔	47-196	
173		板材	198.0	18.5	2.0		4区遺構外	古墳	一辺に方形彫り	47-194	
174		板材	(101.0)	4.1	3.3		4区遺構外	古墳		48-100	
175	真経見遺跡	板材	(100.7)	3.9	3.5		4区遺構外	古墳		48-101	
176		板材	(95.3)	5.5	5.5		4区遺構外	古墳		48-102	
177		板材	(101.8)	6.5	5.1		4区遺構外	古墳		48-103	
178		板材	(119.9)	9.0	3.5		4区遺構外	古墳		48-104	
179		板材	149.8	10.7	4.8		4区遺構外	古墳		48-105	
180		板材	75.3	2.8	2.6		4区遺構外	古墳		49-106	
181		板材	(76.7)	4.2	3.1		4区遺構外	古墳		49-107	
182		板材	77.8	4.4	2.5		4区遺構外	古墳		49-108	
183		板材	(75.3)	2.6	2.3		4区遺構外	古墳		49-109	
184		板材	(76.7)	4.3	4.2		4区遺構外	古墳		49-110	
185		板材	(88.5)	9.3	5.1		4区遺構外	古墳		49-111	
186		板材	88.6	8.8	5.2		4区遺構外	古墳		49-112	
187		棒材	(92.9)	9.9	4.6		4区遺構外	古墳	一面をV字形に抉り。 3ヶ所ほど孔。	50-113	
188		梯子	132.5	15.7	5.5		4区遺構外	古墳	足かけ部4段。 下端は二段で小孔あり	50-114	
189		梯子	(225.0)	17.5	3.5		4区遺構外	古墳	足かけ部6段	50-115	
190		梯子	(53.6)	21.7	21.7		4区遺構外	古墳	ぞれぞれあり	50-116	
191		棒材	357.7	17.0	17.0		SD-10	弥生後期～古墳前期	一端を尖らせたもの	102-206	
192		棒材	(51.8)	3.6	3.6		SD-10	弥生後期～古墳前期	机に転用	103-209	
193		棒材	(106.8)	6.1	3.2		SD-10	弥生後期～古墳前期		103-210	
194		棒材	(131.6)	6.5	3.4		SD-10	弥生後期～古墳前期		103-211	
195		棒材	(58.2)	8.7	7.6		SD-03	古墳中期	横削にぼぞ	80-66	
196		棒材	(44.5)	9.5	8.6		SD-03	古墳中期	横削にぼぞ	80-67	
197	岩吉遺跡	棒材	80.5	5.8	3.2		SD-03	古墳中期	一面を薄状に抉り。 机に転用	81-69	14
198		板材	(31.4)	5.0	2.8		SD-03	古墳中期		81-70	
199		板材	(34.9)	3.9	1.7		SD-03	古墳中期		81-71	
200		板材	43.7	4.3	3.6		SD-03	古墳中期		81-72	
201		梯子	(52.1)	4.9	3.6		SD-02	古墳後期	両端に転用か	69-36	
202		板材	(40.2)	9.5	2.6		SD-02	古墳後期	2ヶ所ほど孔。	69-35	
203		板材	18.7	(12.1)	1.1		SD-02	古墳後期	両辺相反する万形抉り	69-37	
204		梯子	206.4	15.8	1.5	スギ	遺構外	弥生前中期～中葉	足かけ部4段。下端は二段	106-196	
205		梯子	(147.1)	14.9		スギ	遺構外	弥生前中期～中葉	足かけ部4段まで残る。 机の転用。	106-197	
206		板材				スギ	遺構外	弥生前中期～中葉	机の転用。 机所にはぞれ孔。	106-203	
207		板材	121.0	12.7			遺構外	弥生前中期～中葉	削削を回す機に加工。	107-198	
208		板材	85.9	3.0	スギ		遺構外	弥生前中期～中葉	2ヶ所×小孔。	104-191	
209		板材	122.2	4.4	2.8		遺構外	弥生前中期～中葉	ぞれぞれあり	104-192	
210		板材	90.3	25.5			遺構外	弥生前中期～中葉	両端を二段に作り。 ぞれぞれ等を突つ	105-194	
211	青谷上寺地遺跡①	板材	267.3	71.1	1.9	久	SD27	弥生中期後葉	一端に2ヶ所小孔。	106-204	15
212		宮室状	111.8	54.4	6.4		SD27	弥生中期後葉	ぞれぞれを突つ板に29本の 縦棒子を組み合せ。木板を鋸皮で緊締する。	109-206	
213		宮室状	62.8	45.7			SD27	弥生中期後葉	17本の横棒子を木の 棒木と組み合わせ 皮側で緊締する	109-208	
214		板材				久	SD11	弥生後期		107-200	
215		板材				久	SD11	弥生後期		107-201	
216		板材				久	SD33	弥生後期		107-202	
217		組み板	330.0	6.5	1.6		SD36	弥生後期	3本の組を纏んでいた	107-210	
218		板材	260.0	180.0			遺構外	弥生中期後葉	7本×33本の棒子	330-455	
219		板材	85.0	55.0			遺構外	弥生中期後葉		330-456	
220		板材	70.0	55.0			遺構外	弥生中期後葉		330-457	
221		板材	110.0	80.0			遺構外	弥生中期後葉		330-458	
222		板材	85.0	70.0			遺構外	弥生中期後葉		330-459	
223		板材	70.0	50.0			遺構外	弥生中期後葉		330-460	
224		板材	95.0	65.0			遺構外	弥生中期後葉		331-461	
225		板材	85.0	65.0			遺構外	弥生中期後葉		331-462	
226		板材	130.0	80.0			遺構外	弥生中期後葉		331-463	
227		板材	105.0	60.0			遺構外	弥生中期後葉		331-464	
228		板材	80.0	65.0			遺構外	弥生中期後葉		331-465	
229		板材	90.0	65.0			遺構外	弥生中期後葉		331-466	
230		板材	110.0	70.0			遺構外	弥生中期後葉		331-467	
231		板材	14.7	13.7	6.5	P293	弥生後期		328-446		
232		板材	(23.8)	34.1	3.7	P321	弥生後期		328-449		
233		板材	24.9	35.4	2.0	P284	弥生後期	柱の当たった痕跡あり	328-450		
234		板材	22.8	37.0	4.1	P290	弥生後期		328-451		
235		板材	23.8	35.8	5.2	P290	弥生後期		328-452		
236		板材	26.6	32.0	3.7	P336	弥生後期		328-453		

鳥取県内出土の建棊材一覧(3)

番号	遺跡名	種類	長さ	最大幅	最大厚	測理	出土位置	時期	備考	文獻	報告書名
237		板状	21.4	3.6	0.1	P348	弥生後期	柱の裏に刷毛跡?を刻り残す		328-454	
238		板	23.7	3.6	2.1	SA4-6	弥生後期	ぼぞうに別材が組み合つ		327-440	
239	青谷上寺地遺跡②	板	35.5	3.8	2.2	SD11	弥生後期			327-441	
240		板	42.8	5.5	3.7	SD11	弥生後期		16	327-442	
241		板	55.0	5.5	3.3	SD11	弥生後期			327-443	
242		板	16.7	7.5	5.2	SD11	弥生後期			327-445	
243		板状	(16.2)	4.8	4.8	第2水田	弥生後期～中期	柱に有刷毛の作りだし		327-553	
244		板	8.0	4.5	4.5	第2水田	弥生後期	一端に有刷毛の作りだし		327-559	
245		板状	66.2	20.2	1.2	遺構外	弥生中期	中央にはぼぞん		328-551	
246		板	54.5	10.0	2.0	遺構外	弥生中期	2ヶ所穿孔		328-552	
247		板状	57.5	9.8	2.0	第3水田	弥生中期～中期	頭部用対する抜り		328-553	
248	日久美遺跡①	柱	(11.0)	3.0	3.0	遺構外	縄文中期		17	91-85	
249		柱	(22.9)	15.3	15.3	遺構外	弥生中期～中期			91-81	
250		柱	(21.9)	16.0	16.0	遺構外	弥生中期～中期			91-84	
251		柱	(20.8)	15.0	15.0	遺構外	弥生中期～中期			91-80	
252		柱	(33.2)	17.7	17.7	遺構外	弥生中期～中期			91-82	
253		柱	(46.2)	14.0	14.0	遺構外	弥生中期～中期			91-83	
254	日久美遺跡②	柱	(17.7)	21.0	4.0	サカキ	弥生中期	一端に有刷毛の作りだし	18	22-3	
255		板状	(52.0)	15.5	7.0	ブナ/シラシ	木大	ぼぞくあり		22-7	
256		柱	(48.8)	10.6	7.0	ブナ/シラシ	遺構外	弥生中期		54-1	
257	日久美遺跡③	板状	66.4	4.8	2.3	遺構外	弥生中期	一端削りだし	18	54-2	
258		板状	(137.0)	19.0	2.3	遺構外	弥生中期			54-3	
259		様子	228.0	15.5	2.8	遺構外	弥生後期	足かけ6段、下端は二股に加工		23-126	
260		様子	(80.0)	13.5	3.0	遺構外	弥生後期	足かけ2段で残る		23-129	
261		板状	188.0	9.0	8.5	SD11	弥生後期	4ヶ所抜り		23-127	
262		板状	(349.5)	5.0	5.0	遺構外	弥生後期	7ヶ所抜り		23-128	
263		板状	(10.0)	5.0	5.0	遺構外	弥生後期	同上		23-130	
264		板状	(175.0)	5.0	5.0	遺構外	弥生後期	同上		23-131	
265		板状	(206.0)	4.0	4.6	遺構外	弥生後期	同上		24-132	
266		板状	(191.0)	5.2	5.2	遺構外	弥生後期	同上		24-133	
267		板状	174.0	5.0	5.0	遺構外	弥生後期	同上		25-134	
268		板状	169.5	5.0	3.0	遺構外	弥生後期	同上		25-136	
269		板状	(137.0)	5.5	5.5	遺構外	弥生後期	同上		25-136	
270		板状	121.0	4.3	4.3	遺構外	弥生後期	同上		25-137	
271		板状	(226.0)	6.8	6.8	遺構外	弥生後期	同上		24-142	
272		板状	(15.0)	9.5	9.5	遺構外	弥生後期	秋月からの二段式剖面		25-139	
273		板状	(19.8)	4.2	4.2	遺構外	弥生後期	秋月からの二段式剖面		24-139	
274	池ノ内遺跡	板状	87.0	6.4	5.4	遺構外	弥生後期	秋月からの二段式剖面	19	24-140	
275		板状	156.0	5.5	5.5	遺構外	弥生後期	秋月からの二段式剖面		24-141	
276		板状	197.0	5.0	5.0	遺構外	弥生後期	秋月からの二段式剖面		25-143	
277		板状	360.0	10.0	10.0	遺構外	弥生後期	同上		25-144	
278		板状	253.0	7.5	7.5	遺構外	弥生後期	同上		24-146	
279		板状	122.0	0	11.0	遺構外	弥生後期	一端にぼぞく		24-147	
280		板状	174.0	7.8	7.4	遺構外	弥生後期	同上		24-148	
281		板状	(74.7)	13.5	7.4	遺構外	弥生後期	同上		27-149	
282		板状	32.0	4.0	1.6	同上	同上			27-150	
283		板状	(128.0)	7.5	5.4	同上	同上			24-208	
284		板状	71.0	17.0	2.5	遺構外	弥生後期	同上		27-102	
285		板状	123.0	25.0	4.0	遺構外	弥生後期	同上		23-210	
286		板状	391.0	18.0	3.0	遺構外	弥生後期	壁間にぼぞく		25-145	
287		板状	133.5	4.5	4.3	遺構外	弥生後期	そのほか小丸		24-194	
288		板状	94.0	5.0	1.0	遺構外	弥生後期			26-205	
289		板状	52.0	6.0	2.8	遺構外	弥生後期			25-211	
290		板状	(78.0)	11.5	11.6	カシ	旧田畠	弥生中期後葉		10-1	
291		板状	(117.0)	11.5	11.5	ヒノキ	旧田畠	弥生中期後葉		10-2	
292		板状	(62.0)	8.0	8.0	同上	弥生中期後葉			10-3	
293		板状	(130.0)	11.5	11.5	ヒノキ	同上	弥生中期後葉		10-4	
294		板状	(89.0)	7.0	7.0	同上	弥生中期後葉			10-5	
295	長砂2丁遺跡	板状	(250.0)	7.0	7.0	ヒノキ	同上	弥生中期後葉	20	10-6	
296		板状	315.0	16.0	16.0	ヒノキ	同上	弥生中期後葉		10-7	
297		板状	(110.0)	13.0	13.0	ヒノキ	同上	弥生中期後葉		10-8	
298		板状	(121.0)	13.0	13.0	カシ	同上	弥生中期後葉		10-9	
299		板状	(97.0)	11.0	11.0	ヒノキ	同上	弥生中期後葉		10-10	
300		板状	(91.0)	10.0	10.0	ヒノキ	同上	弥生中期後葉		10-12	
301		板状	(138.0)	8.5	8.5	同上	弥生中期後葉			10-11	
302		柱				柱S1	土壤			19-1	
303	古市武田遺跡	柱				柱T1	土壤		21	19-2	
304		柱				柱I1	土壤			19-3	
305		柱				柱I2	土壤			19-4	
306		板状	(47.5)	1.9	1.4	自然洗済	弥生中期～古墳前期			81-14	
307		板状	(69.0)	4.2	4.2	自然洗済	弥生中期～古墳前期			81-15	
308		板状	(17.0)	4.8	3.7	自然洗済	弥生中期～古墳前期	端部に有刷毛の作りだし		80-1	
309		板状	(24.6)	1.9	(0.9)	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-3	
310		板状	(27.6)	(1.8)	1.2	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-6	
311		板状	(18.5)	3.0	2.3	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-7	
312		板状	(17.5)	3.0	2.0	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-8	
313	吉谷中馬場山遺跡	板状	(17.3)	4.8	2.7	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-9	
314		板状	(14.5)			自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-2	
315		板状	(23.3)	(2.6)	1.3	自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-4	
316		板状	(28.0)			自然洗済	弥生中期～古墳前期			80-5	
317		板状	16.2	13.8	4.5	自然洗済	弥生中期～古墳前期	柱を分割したのか		80-10	
318		板状	18.3	12.9	4.4	自然洗済	弥生中期～古墳前期	柱を分割したのか		80-11	
319		板状	17.2	11.5	5.4	自然洗済	弥生中期～古墳前期	柱を分割したのか		80-12	
320		板状	(136.7)	11.9	2.9	自然洗済	弥生中期～古墳前期	柱を分割したのか		81-18	
321		板状	(85.0)	15.0	3.0	SK129	弥生中期	端部にぼぞく		123-13	
322		板状	(25.6)	2.1	6.1	SK12	弥生中期			123-12	
323	福岡遺跡	板状	81.8	8.9	6.0	SK35	弥生中期		23	123-4	
324		板状	81.8	6.5	4.7	SK29	弥生中期			123-39	

鳥取県内出土の建築材一覧(4)

番号	遺跡名	種別	高さ	最大幅	南北延長	座標	出土位置	時期	備考	文献	参考文献番号
325		杭	(45.5)	6.7	6.0	SD-09	編文後期～晚期			63-6	
326		杭	54.1	4.6	3.2	SD-09	編文後期～晚期			63-7	
327		杭	(20.1)	4.1	2.2	SD-10	編文後期～晚期			63-8	
328		杭	27.3	5.8	6.41	SD-10	編文後期～晚期			63-9	
329	井手神遺跡	縄村	210.0	30.0	10.0	モクレン科	SD-03	弥生後期～古墳初期		24	142-58
330		縄村	112.0	13.3	4.8	スギ	SD-01	弥生後期～古墳初期			143-59
331		縄村	(75.5)	2.4	2.3	SD-01	弥生後期～古墳初期			143-60	
332		縄村	106.0	14.8	1.8	SD-03	弥生後期～古墳初期			145-58	
333		縄村	(82.0)	10.1	2.7	SD-05	弥生後期～古墳初期			145-59	
334		縄村	(102.4)	8.9	2.1	SD-05	弥生後期～古墳初期			144-67	
335		板村	41.5	5.3	1.2	土塁外	弥生～古代			149-1	
336		板村	(50.8)	4.0	1.8	土塁外	弥生～古代			149-2	
337	天萬土井前遺跡	板村	(64.2)	9.2	2.7	土塁外	弥生～古代			25	149-3
338		板村	(65.7)	18.7	3.2	土塁外	弥生～古代	頭部にぼぞれ		150-1	
339		板村	(90.3)	6.51	2.5	土塁外	弥生～古代			150-2	
340		神村	(120.0)	9.0	3.51	土塁外	弥生～古代			150-3	

鳥取県内出土の建築材一覧(5)

経見遺跡①は園場整備に伴い1976年に鳥取市教育委員会が発掘調査。所在地: 鳥取市経見
 経見遺跡②は倉見川改良工事に伴い1994年に(財)鳥取市教育文化財団が発掘調査。所在地: 鳥取市経見字下尻原ほか
 経見遺跡③は尻道整備に伴い1993～1995年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 鳥取市経見字八ツ割
 経見遺跡④は尻道整備に伴い1993～1995年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 鳥取市経見字八ツ割
 経見遺跡⑤は(1)出合いの尻道整備に伴い1995～1997年に(財)鳥取市教育文化財団が発掘調査。所在地: 鳥取市経見字水穴ほか
 東莊町遺跡は布勢町全運動公園整備に伴い1991年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 鳥取市東莊町字田畠
 岩吉遺跡は大井川河川改良工事に伴い1988～1990年に(財)鳥取市遺跡調査団が発掘調査。所在地: 鳥取市岩吉字田畠ほか
 青谷上寺地遺跡①は国道改立工事に伴い1998～1999年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 気高郡青谷町青谷
 青谷上寺地遺跡②は県道改立工事に伴い1998～2001年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 気高郡青谷町青谷
 昼久美遺跡①は加茂川改良工事に伴い1982～1984年に(財)米子市教育委員会が発掘調査。所在地: 米子市昼夜町
 昼久美遺跡②は南遷改良工事に伴い2001年に(財)米子市教育文化事業団が発掘調査。所在地: 米子市昼夜町
 池ノ内遺跡は北遷改良工事に伴い2002年に(財)米子市教育文化事業団が発掘調査。所在地: 米子市昼夜町
 先代遺跡は北遷改良工事に伴い1999年に(財)米子市教育文化事業団が発掘調査。所在地: 米子市昼夜町
 古市奥山遺跡は園場改良工事に伴い1989年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 米子市古市字武田
 吉谷今馬塙山遺跡は園場改良工事に伴い2001～2002年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 米子市字中馬塙山
 福岡遺跡は園場改良工事に伴い1990～1991年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 西伯郡淀江町福岡
 并手神遺跡は園場改良工事に伴い1991～1992年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 西伯郡淀江町淀江
 天萬土井前遺跡は住宅団地造成工事に伴い1996年に(財)鳥取県教育文化財団が発掘調査。所在地: 西伯郡金町天万

遺跡名	所在地	住居跡名称	時期	検出した部材等
大柄遺跡	鳥取市字高綱手	S1001	弥生時代後期末	垂木・板・茅、燒土
桂見遺跡(塙谷東地区)	鳥取市桂見字塙谷	S103	弥生時代後期中葉	垂木
桂見遺跡(鷺谷口地区)	鳥取市高住字鷺谷口	S101	弥生時代後期中葉	垂木・柱、燒土
西桂見遺跡(鷺谷奥地区)	鳥取市高住字鷺谷奥	S109	弥生時代後期末	垂木、燒土
柄杓目遺跡	氣高郡廣野町鹿野字柄杓目	CS131	弥生時代後期中葉	炭化材
福庭遺跡	倉吉市福庭字長谷	S102	弥生時代後期後葉	垂木、燒土
		S103	弥生時代後期後葉	垂木・柱、燒土
服部遺跡	倉吉市服部字二塚	2号住居跡	古墳時代中期後葉	炭化材・茅、燒土
		7号住居跡	弥生時代後期中葉	炭化材
観音堂遺跡	倉吉市上福田字観音堂	整穴住居跡A-2号	弥生時代後期中葉	垂木?
		整穴住居跡A-11号	弥生時代後期後葉	垂木・柱、燒土
中臺遺跡	倉吉市国府字中臺	B地区 14号住居跡	弥生時代後期後葉	垂木、燒土
遠藤谷峯遺跡	倉吉市国府字遠藤谷峯	S101	弥生時代後期後葉	垂木、燒土
大仙峯遺跡	倉吉市谷字大仙峯	1号住居跡	弥生時代後期中葉	垂木・茅、燒土
ゴザンコウ遺跡	倉吉市尾原	S101	弥生時代後期後葉	垂木、燒土
頭根後谷遺跡	倉吉市谷字頭根後谷	3号住居跡	古墳時代中期中葉	垂木?・茅、燒土
		7号住居跡	古墳時代中期中葉	炭化材
中尾遺跡	倉吉市大谷字中尾	3号住居跡	弥生時代後期前葉	炭化材、燒土
		5号住居	弥生時代前葉後半	炭化材、燒土
西長谷遺跡	倉吉市国府字西長谷	9号住居	弥生時代後期中葉	炭化材
		1号住居	古墳時代後期後半	垂木・板
		2号住居	古墳時代中期後葉	炭化材
		3号住居	古墳時代中期前葉	炭化材
夏谷遺跡	倉吉市和田字夏谷	4号住居	古墳時代中期前葉	炭化材
		7号住居	古墳時代中期前葉	炭化材
		13号住居	古墳時代中期前葉	炭化材
		18号住居	古墳時代中期後葉	燒土
		41号住居	弥生時代後期後葉	垂木、燒土
		S102	古墳時代中期後葉	炭化材、燒土
小浜ワラ畠遺跡	東伯郡泊村小浜字ワラ畠	S105	古墳時代中期後葉	炭化材、燒土
		S107	古墳時代中期後葉	炭化材、燒土
石窟第1遺跡	東伯郡泊村石窟字野羅	S101	古墳時代中期中葉	炭化材、燒土
石窟第3遺跡(縁り地区)	東伯郡泊村石窟字縁り	S107	古墳時代中期中葉	炭化材、燒土
寺戸第2遺跡	東伯郡泊村石窟字久塚	S103	古墳時代前期前半	炭化材
宇谷第1遺跡	東伯郡泊村宇谷字宇野谷	S105	弥生時代後期後葉	垂木、茅
長瀬高浜遺跡	東伯郡羽合町長瀬字高浜	S1249	古墳時代前期後半	炭化材
		S1259	古墳時代中期前葉	炭化材
		AS101	弥生時代後期中葉	垂木・柱、梁か折、茅
		BS101	弥生時代後期後葉	垂木・柱、梁か折、茅
		BS109	古墳時代中期後葉	垂木、燒土
		BS113	古墳時代中期後葉	炭化材
		BS117	弥生時代後期後葉	垂木
		BS120	古墳時代前期前半	垂木・柱、梁か折、茅、燒土
南谷大山遺跡	東伯郡羽合町南谷字大山	BS130	古墳時代中期後葉	燒土
		BS136	弥生時代後期中葉	炭化材
		CS111	弥生時代後期後葉	炭化材、燒土
		CS112	弥生時代後期末	炭化材
		CS113	弥生時代後期末	炭化材
		CS114	弥生時代後期後葉	炭・灰層
		CS121	古墳時代中期後葉	垂木、燒土
南谷ヒシリ遺跡	東伯郡羽合町南谷字ヒシリ	S105	古墳時代前期前半	垂木、燒土
米里三岩墓跡	東伯郡北条町米里字三岩	S11	弥生時代後期末	炭化材
上種第1遺跡	東伯郡大栄町上種字宮惣	整穴住居跡12号	弥生時代後葉	垂木?・茅
		整穴住居跡36号	弥生時代後期末	炭化材
		整穴住居跡37号	古墳時代中期前葉	炭化材
		整穴住居跡10号	弥生時代後期末	垂木・梁か折?・燒土
上種第5遺跡	東伯郡大栄町上種字杉下山	整穴住居跡14号	古墳時代中期後葉	垂木、燒土
		整穴住居跡15号	弥生時代後期末	垂木、燒土
		整穴住居跡16号	古墳時代中期後葉	垂木、燒土
上種第6遺跡	東伯郡大栄町上種字保闌藪	整穴住居跡5号	古墳時代前期前半	垂木、燒土
青木第4遺跡	東伯郡大栄町妻波字中峯	整穴住居跡12号	弥生時代後期後葉	燒土、炭化物
西高江遺跡	東伯郡大栄町西高江	整穴住居跡16号	弥生時代後期後葉	炭化材
原平/山道跡	東伯郡大栄町原平字平/山	S107	古墳時代前期前半?	炭化材、燒土
西高尾谷奥遺跡	東伯郡大栄町西高尾字谷奥	S106	古墳時代前期前半	垂木、燒土
水溜まり・蘿叢据塙遺跡	東伯郡東伯町城下	S115	不明	炭化材、燒土?
		整穴住居跡1号	弥生時代後期中葉	垂木?
		整穴住居跡4号	弥生時代後期中葉	垂木・柱、燒土

鳥取県内の焼失住居一覧(1)

遺跡名	所在地	住居跡名称	時期	検出した部材等	
水溜まり・窓羅掘場遺跡 大峰遺跡 井因地中ゾネ遺跡	東伯郡東伯町櫛下 東伯郡東伯町田越字井園地中ゾネ	堅六住居跡11号	弥生時代後期中葉	垂木、焼土	
		堅六住居跡12号	弥生時代後期中葉	垂木、焼土	
		堅六住居跡18号	弥生時代後期中葉	垂木、焼土	
		堅六住居跡21号	弥生時代後期中葉	垂木、焼土	
		堅六住居跡22号	弥生時代後期中葉	垂木	
		S103	弥生時代後期後葉以前	垂木・柱・茅	
笠見第3遺跡	東伯郡東伯町田越字屋巣峯	S119	弥生時代後期中葉	垂木・柱?・梁か折・茅	
		S13	古墳時代中期後葉	垂木	
		S130	弥生時代後期末	垂木・柱・梁か折	
		S148	弥生時代後期末	垂木	
		S190	弥生時代後期中葉	垂木	
		S195	弥生時代後期中葉	桿木、垂木	
		S197	弥生時代後期中葉	垂木・茅	
		S1120	弥生時代後期初頭	垂木・柱・梁か折	
		S1153	弥生時代後期初頭	垂木・茅・梁か折	
		S1157	弥生時代後期前葉	垂木・柱・梁か折・檻木	
三林遺跡	東伯郡東伯町田越字新林	S110	古墳時代前期中葉	垂木・茅・壁材	
		S131	弥生時代後期中葉	垂木・柱	
		S133	古墳時代前期前半	垂木・柱・壁材固定材	
久蔵峰北遺跡	東伯郡東伯町八橋字龍王頭	S11	古墳時代前期中葉	垂木	
		S151	古墳時代中期中葉	垂木・柱	
蘿谷遺跡	東伯郡東伯町字蘿谷	S11	弥生時代後期中葉	垂木	
丸山遺跡	東伯郡三朝町本泉字美ノ田	S119	弥生時代後期末	炭化材、焼土	
		S126	弥生時代後期末	垂木、焼土	
青木遺跡	米子市青木	FS109	弥生時代後期後葉	炭化物、焼土	
		FS110	弥生時代後期前葉	炭化物、燒土	
		FS113	弥生時代後期後葉	炭化材	
		FS114	弥生時代後期初頭	炭化物、焼土	
		HS132	古墳時代前期前半	炭化材・茅・壁材	
		HS143	弥生時代後期末	炭化材、燒土	
		HS163	弥生時代後期中葉	炭化物・茅・燒土	
須訪遺跡群(上大辻地区)		S102	弥生時代後期前葉	垂木、燒土	
陰田第1遺跡B区		S105	弥生時代後期中葉	炭化物、燒土	
陰田第6遺跡(久幸地区)		S106	弥生時代後期中葉	炭化物、燒土	
陰田第6遺跡(久幸地区)		S107	弥生時代後期中葉	炭化物、燒土	
陰田第6遺跡(天坂地区)		S107	弥生時代後期中葉～後葉	炭化物、燒土	
福市遺跡(吉塚地区)		A35108	弥生時代後期後葉	燒土	
吉谷上ノ原山遺跡		米子市吉谷	S1-02	古墳時代前期前半	
喜多原第2遺跡		米子市奥字喜多原	S101	弥生時代後期末	
吉市宮ノ谷山遺跡		米子市吉市宮ノ谷山	堅六住居7	弥生時代後期中葉	
吉谷中馬場山遺跡		米子市中馬場山	堅六住居5	弥生時代後期中葉	
八重第3遺跡		A地区 SI-05		炭化材	
退休寺遺跡		B地区 SI-04		弥生時代後期末	
退休寺遺跡		SI-01	弥生時代後期前葉	燒土	
東高田遺跡	西伯郡名和町高田	SI-01	弥生時代後期中葉	炭化材、燒土	
		SI-03	弥生時代後期前葉～中葉	炭化材、燒土	
		SI-06	古墳時代後期後葉	炭化材、燒土	
		SI-07	弥生時代後期中葉	炭化材、燒土	
		SI-09	古墳時代前期前半	炭化材、燒土	
		SI-11	古墳時代後期前葉	炭化材、燒土	
押平尾無遺跡		堅六住居8	弥生時代後期末	炭化材・茅	
押穴住居9		弥生時代後期後葉～末		炭化材・茅	
古御堂笠尾山遺跡		堅六住居18	古墳時代後期	炭化材	
古御堂笠尾山遺跡		堅六住居22	古墳時代後期	炭化材・壁材	
古御堂新林遺跡		堅六住居23	古墳時代後期	炭化材・柱・茅	
古御堂大字古御堂字上前堀		堅六住居2	弥生時代後期末	炭化材	
百塚第4遺跡		S113	古墳時代中期中葉	炭化物、燒土	
百塚第5遺跡		S119	古墳時代中期後葉	炭化物、燒土	
大下畑遺跡		S108	古墳時代後期前葉	炭化米	
マケン脛古墳群		S103	古墳時代中期後葉	垂木、燒土	
北福王寺遺跡		S103	弥生時代後期後葉	炭化物、燒土	
天王原遺跡		第1堅六住居跡	弥生時代後期?	炭化物、燒土	
天王原遺跡		第1堅六住居跡	弥生時代後期前葉?	炭化物、燒土	
天王原遺跡		第5堅六住居跡	弥生時代後期前葉?	炭化物、燒土	
天王原遺跡		A-3区 SI-01	弥生時代中期後葉	炭化材、燒土	
天王原遺跡		E区 SI-01	弥生時代後期末	炭化物、燒土	
天王原遺跡		E区 SI-02	弥生時代中期後葉	炭化材	
天王原遺跡		E区 SI-04	古墳時代前期前半	炭化物	
天王原遺跡		E区 SI-07	古墳時代前期前半	炭化材	

鳥取県内の焼失住居一覧(2)

遺跡名	所在地	住居跡名称	時期	検出した部材等
天王原遺跡	西伯郡会見町朝金	E区SI-10	弥生時代後期末	燒土
		E区SI-12	弥生時代後期後葉	炭化材、燒土
		E区SI-14	弥生時代後期	葦木・梁か析、燒土
		E区SI-18	弥生時代後期後葉	柱・炭化材、燒土
		E区SI-24	古墳時代前期前半	葦木、燒土
		3C区SI02	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		3C区SI08	弥生時代後期後葉？	葦木、燒土
		3C区SI10	弥生時代後期末？	燒土
		5区SI07	弥生時代後期末	燒土
		16a区SI05	弥生時代中期後葉	炭化材・茅、燒土
越敷山遺跡	西伯郡会見町萩名・岸本町小町	17区SI04	弥生時代後期中葉	葦木、燒土
		17区SI06	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		17区SI09	弥生時代後期末	葦木、燒土
		17区SI10	弥生時代後期末	葦木、燒土
		18a区SI03	弥生時代後期末	燒土、炭化物
		18a区SI07	弥生時代後期中葉	燒土、炭化物
		18a区SI08	弥生時代後期中葉	燒土、炭化物
		18a区SI11	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		18b区SI08	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		18b区SI14	弥生時代後期中葉	燒土
田住松尾平遺跡	西伯郡会見町田住字松尾平	19b区SI02	弥生時代後期中葉	燒土
萩名第5遺跡	西伯郡会見町萩名	19b区SI03	弥生時代後期中葉	葦木
萩名第3遺跡	西伯郡会見町萩名	19b区SI14	弥生時代後期末	葦木、燒土
妻木晚田遺跡 (松尾城地区)	西伯郡大山村長田字松尾城	19b区SI21	弥生時代中期後葉	葦木、燒土
		20b区SI03	弥生時代後期末	燒土
貴木晚田遺跡 (松尾頭地区)	西伯郡大山村長田字松尾頭	SI-1	弥生時代後期後葉	炭化材
		SI-2	弥生時代後期後葉	炭化物
		SI-03	弥生時代後期中葉	葦木、燒土
		SI-04	弥生時代後期中葉	葦木、燒土
		SI05	弥生時代後期後葉	炭化物
		第3緊穴住居	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		第9緊穴住居	弥生時代後期後葉～末	燒土
		第3緊穴住居	弥生時代後期前葉～中葉	燒土
		第9緊穴住居	弥生時代後期前葉	炭化物、燒土
		第12緊穴住居	弥生時代後期前葉	炭化材、燒土
妻木晚田遺跡 (妻木山地区)	西伯郡大山村妻木字晚田	第14緊穴住居	弥生時代後期前葉～中葉	炭化物、燒土
		第34緊穴住居	弥生時代後期後葉	炭化物、燒土
		第52緊穴住居	弥生時代後期前葉	炭化物、燒土
		第13緊穴住居	弥生時代後期末	燒土
		第41緊穴住居	弥生時代後期後葉	葦木、燒土
		第43緊穴住居	弥生時代後期後葉	葦木・茅、燒土
		第97緊穴住居	弥生時代後期末	燒土
妻木晚田遺跡 (妻木新山地区)	西伯郡大山村妻木字新山	第103緊穴住居	弥生時代後期後葉	炭化物、燒土
		第122緊穴住居	弥生時代後期後葉	炭化材、燒土
		第10緊穴住居	古墳時代前期後半	炭化物
		第38緊穴住居	弥生時代後期前葉～中葉	炭化材、燒土
		第42緊穴住居	弥生時代後期前葉	炭化材、燒土
		第45緊穴住居	弥生時代後期前葉	炭化材、燒土

鳥取県内の焼失住居一覧(3)

文献3をもとに作成。報告書の確認ができなかったものは、文献3の記載をそのまま踏襲している。

遺跡名	住居跡名称	検出した部材等の樹種
-----	-------	------------

○弥生時代後期前半

中尾遺跡	平地住居	炭化材:クリ、ヤマグワ、ムクロジ、コナラ属コナラ亜属コナラ節の一種
------	------	-----------------------------------

○弥生時代後期初頭

笠見第3遺跡	SI120	垂木:クリ 柱:タブノキ 梁か析:タブノキ
笠見第3遺跡	SI153	垂木:スタジイ 梁か析:スタジイ

○弥生時代後期前葉

笠見第3遺跡	SI157	垂木:スタジイ、ヤマグワ 柱:サクラ属 梁か析:スタジイ、タブノキ 棟木:タブノキ
--------	-------	--

○弥生時代後期中期

桂見溝跡(堀谷東地区)	SI03	垂木:ユクノキ、スタジイ
西桂見溝跡(鷺谷口地区)	SI01	垂木:スギ、ケヤキ、ミズキ 柱:ケヤキ
大仙峯遺跡	1号住居址	垂木:シイ属の一種 茅:イネ科タケ亜科の一種
南長谷遺跡	5号住居	炭化材:モクレン属
南長谷遺跡	9号住居	垂木:折:シノキ属、モクレン属、ヤマグワ
吉谷大山遺跡	ASIO1	垂木:スギ、スタジイ 柱:スギ、スタジイ 梁か析:スギ、ヒノキ、スタジイ
井戸園中ソ木遺跡	SI9	垂木:クリ 柱:クリ、ケヤキ 梁か析:ヤマグワ、クリ、クリカスタジイ 茅:カヤカアシ
笠見第3遺跡	SI90	垂木:クリ
笠見第3遺跡	SI95	桿木:クスノキ 垂木:クリ
笠見第3遺跡	SI97	垂木:ヤマグワ、ミツバウツギ 茅:アシ
三林遺跡	SI31	新木:ヤマグワ 柱:タブノキ
鷺谷遺跡	SI1	垂木:クリ
古市宮ノ谷山遺跡	堅穴住居7	垂木:スタジイ 茅:スキ
吉谷中馬場山遺跡	堅穴住居5	垂木:スタジイ、クリ 梁か析:スタジイ、クリ 柱:クリ、ヒノキ属 茅:イネ科タケ亜科

○弥生時代後期後葉

夏谷遺跡	41号住居	垂木:シノキ属、クリ、ケヤキ、クスノキ科
南谷大山遺跡	BISI01	垂木:スタジイ、タブノキ 柱:スタジイ 梁か析:スタジイ
南谷大山遺跡	CSI11	炭化物:スタジイ
妻木晚田遺跡(妻木山地区)	第43堅穴住居	垂木:スタジイ
押平尾無遺跡	堅穴住居9	炭化材:クスノキ科、コナラ属アカガシ亜属 茅:イネ科

○弥生時代後期末

西桂見溝跡(鷺谷奥地区)	SI09	垂木:スギ、スタジイ、ミズキ
石脇第3遺跡(鷺谷地区)	SI02	垂木:スギ、シラキ 梁か析:スギ
寺戸第2遺跡	SI05	炭化材:スギ、クリ
南谷大山遺跡	CSI12	炭化物:スタジイ
南谷大山遺跡	CSI13	炭化物:シラカシ
笠見第3遺跡	SI30	垂木:クリ、クリカスタジイ 柱:クリ 梁か析:クスノキ
笠見第3遺跡	SI48	垂木:クリ、スタジイ、ケヤキ
押平尾無遺跡	堅穴住居8	炭化材:スタジイ、ヤマグワ 茅:イネ科
古御堂新林遺跡	堅穴住居2	炭化材:クリ、スタジイ、クスノキ科

○古墳時代前期前半

寺戸第2遺跡	SI03	炭化材:スギ
南谷大山遺跡	BISI20	垂木:スギ、カシ類、ヤマグワ、スタジイ、クリ、タブノキ 梁か析:カシ類、スタジイ、ケヤキ
三林遺跡	SI33	垂木:シイ属 柱:クリ 壁材固定材:クリ

鳥取県内の焼失住居から出土した部材等の樹種一覧(1)

遺跡名	住居跡名称	検出した部材等の樹種
○古墳時代前期中葉		
三林遺跡	SI10	垂木:クリ 茅:イネ科 壁材:イネ科
○古墳時代前期後半		
夏谷遺跡	1号住居	炭化物:コナラ属アカガシ亜属、クスノキ科
長瀬高浜遺跡	SI249	炭化物:マツ
○古墳時代中期前葉		
夏谷遺跡	7号住居	炭化材:コナラ属コナラ亜属コナラ節、ヤブツバキ、クスノキ科、イネ科タケ亜科
夏谷遺跡	13号住居	炭化材:クリ、サクラ属、ニレ属、ケンボナシ属、コナラ属アカガシ亜属
長瀬高浜遺跡	SI259	炭化物:シキミ?、ネジキ
○古墳時代中期中葉		
頭根後谷遺跡	3号住居址	垂木?:モチノキ属の一種、シイ属の一種、サクラ属の一種、クスノキ属の一種、ヤブツバキ、スギ、クリ、ヤマグワ 茅:イネ科タケ亜科の一種
頭根後谷遺跡	7号住居址	炭化材:スギ、サカキ、ヤマグワ、シイ属の一種、サクラ属の一種
石脇第1遺跡	SI01	炭化材:スギ、クリ
石脇第1遺跡	SI07	炭化材:ミツマタ、サワグルミ
久藏峰北遺跡	SI51	垂木:スダジイ、ツバキ属 柱:ケンボナシ属
○古墳時代中期後葉		
夏谷遺跡	2号住居	炭化材:クリ、シイノキ属、ケンボナシ属、クスノキ科
夏谷遺跡	18号住居	炭化物:モチノキ属、サカキ、シイノキ属、コナラ属アカガシ亜属、イネ科タケ亜科
小浜ワラ畑遺跡	SI02	炭化物:ムクノキ、コナラ、ウリカエデ、フサザクラ
小浜ワラ畑遺跡	SI07	炭化材:スダジイ、マンサク、コナラ、イスマキ
南谷大山遺跡	BSI09	垂木:スギ、スダジイ、ケヤキ
南谷大山遺跡	CSI21	垂木:スダジイ、シラカシ、ホオノキ
笠見第3遺跡	SI3	垂木:ヤブツバキ、スダジイ、カシ類、ヤマザクラ? ネムノキ?,スギ
○古墳時代後期		
古御堂笹尾山遺跡	竪穴住居18	炭化材:ヌルデ、ヤブニッケイ、モクレン科、ヤマグワ
古御堂笹尾山遺跡	竪穴住居22	炭化材:ケヤキ、ヤマザクラ、サカキ、クリかスダジイ、ヤブニッケイ 壁材:アシ
古御堂笹尾山遺跡	竪穴住居23	炭化材:ハンノキ、スダジイ、ホオノキ、ケヤキ、アカメガシワ、ヤブニッケイ 柱:ハンノキ、ホオノキ、ケヤキ 茅:ヨシ(アシ)

鳥取県内の焼失住居から出土した部材等の樹種一覧(2)

番号	文献名	発行年	発行所
1	古川郁夫・堤誠司・佐藤真美「桂見遺跡より出土した木器類の樹種構成の特徴」 『桂見遺跡一ハツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区一』	1996	(財)鳥取県教育文化財団
2	古川郁夫・西治陽子・新山武「青谷上寺地遺跡出土木器類の樹種鑑定結果と樹種特性」 『青谷上寺地遺跡3』	2001	(財)鳥取県教育文化財団
3	牧本哲雄「妻木浜田遺跡の焼失住居について」『妻木浜田遺跡発掘調査研究年報2001』	2002	鳥取県教育委員会
4	古川郁夫・矢部浩「南谷大山遺跡集落住居跡から出土した炭化物の樹種」 『南谷大山遺跡Ⅱ 南谷29号墳』	1994	(財)鳥取県教育文化財団
5	古川郁夫「古市宮ノ谷山遺跡焼失住居跡(堅穴住居跡7)出土炭化材の樹種」 『古市遺跡群3』	2002	(財)鳥取県教育文化財団
6	古川郁夫・船橋晃「井円地中ソネ遺跡焼失住居跡出土炭化材の樹種同定」 『井円地中ソネ遺跡』	2003	(財)鳥取県教育文化財団
7	古川郁夫・船橋晃「笠見第3遺跡焼失住居跡から出土した炭化材の樹種」 『笠見第3遺跡』	2004	(財)鳥取県教育文化財団

番号	遺跡名	報告書名	シリーズ番号	発行年	発行所
8	桂見遺跡①	『桂見遺跡発掘調査報告書』	鳥取市文化財報告書V	1978	鳥取市教育委員会
9	桂見遺跡②	『平成6年度桂見遺跡発掘調査報告書』		1995	(財)鳥取市教育福祉振興会
10	桂見遺跡③	『桂見遺跡 一ハツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区一』	鳥取県教育文化財団 調査報告書45	1996	(財)鳥取県教育文化財団
11	桂見遺跡④	『平成9年度桂見遺跡発掘調査報告書』		1998	(財)鳥取市教育福祉振興会
12	桂見遺跡⑤	『桂見遺跡群』		1998	(財)鳥取市教育福祉振興会
13	東桂見遺跡	『東桂見遺跡 布勢鶴指奥塙墓群』	鳥取県教育文化財団 調査報告書29	1992	(財)鳥取県教育文化財団
14	岩吉遺跡	『岩吉遺跡III』	鳥取市文化財報告書30	1991	鳥取市教育委員会
15	青谷上寺地遺跡①	『青谷上寺地遺跡3』	鳥取県教育文化財団 調査報告書72	2001	(財)鳥取県教育文化財団
16	青谷上寺地遺跡②	『青谷上寺地遺跡4』	鳥取県教育文化財団 調査報告書74	2002	(財)鳥取県教育文化財団
17	目久美遺跡	『目久美遺跡』		1986	米子市教育委員会
18	目久美遺跡	『目久美遺跡IX-X』	米子市教育文化事業団 文化財発掘調査報告書45	2003	(財)米子市教育文化事業団
19	池ノ内遺跡	『池ノ内遺跡』		1986	米子市教育委員会
20	長砂第2遺跡	『長砂第1・2遺跡』		1990	米子市教育委員会
21	古市流田遺跡	『古市遺跡群2』	鳥取県教育文化財団 調査報告書62	2000	(財)鳥取県教育文化財団
22	吉谷中馬場山遺跡	『吉谷遺跡群』	鳥取県教育文化財団 調査報告書84	2003	(財)鳥取県教育文化財団
23	福岡遺跡	『福岡遺跡』	鳥取県教育文化財団 調査報告書27	1992	(財)鳥取県教育文化財団
24	井手跡	『井手跡』	鳥取県教育文化財団 調査報告書31	1993	(財)鳥取県教育文化財団
25	天萬土井前遺跡	『天萬土井前遺跡』	鳥取県教育文化財団 調査報告書53	1997	(財)鳥取県教育文化財団

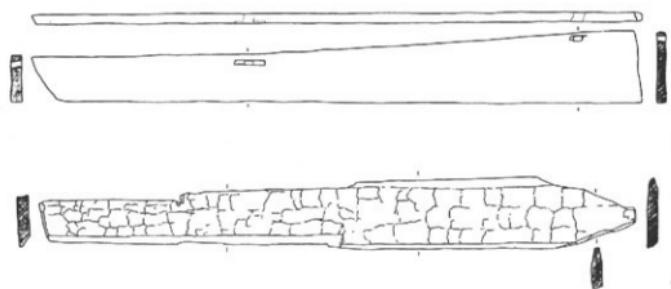
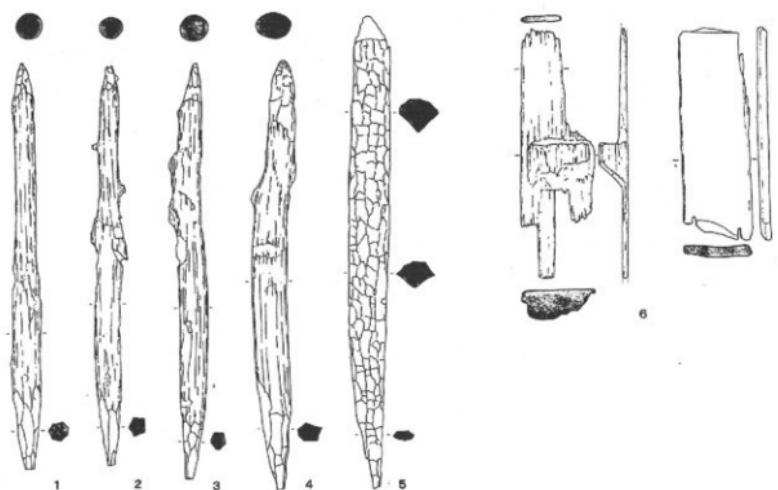
文献一覧

焼失住居にかかる報告書については割愛した。

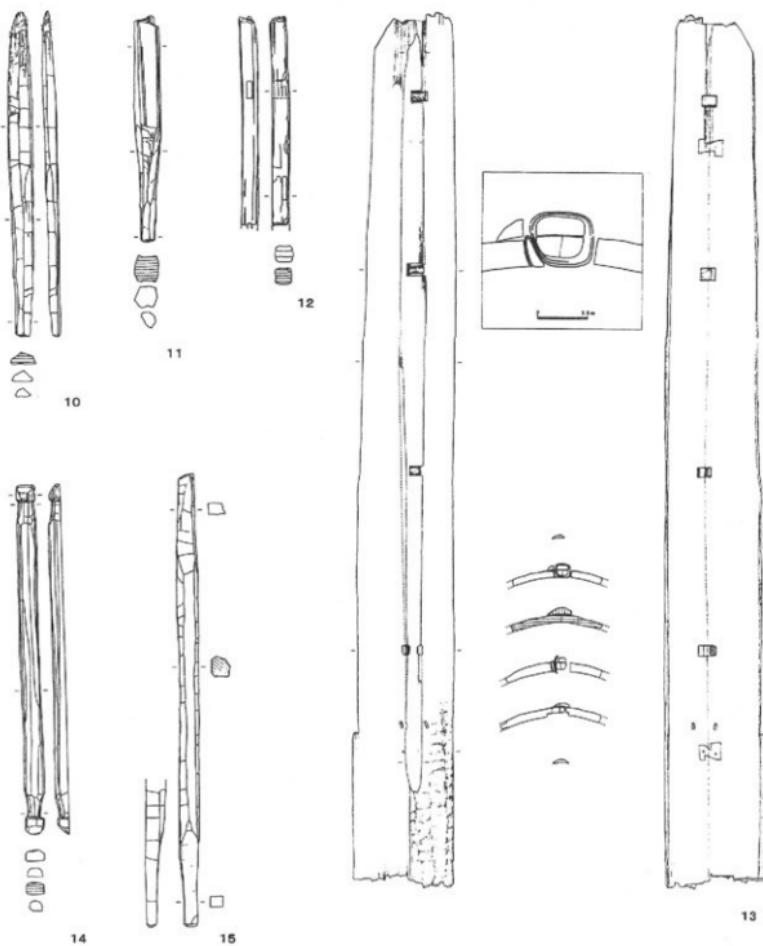
遺跡名：桂見遺跡①

所在地：鳥取県鳥取市

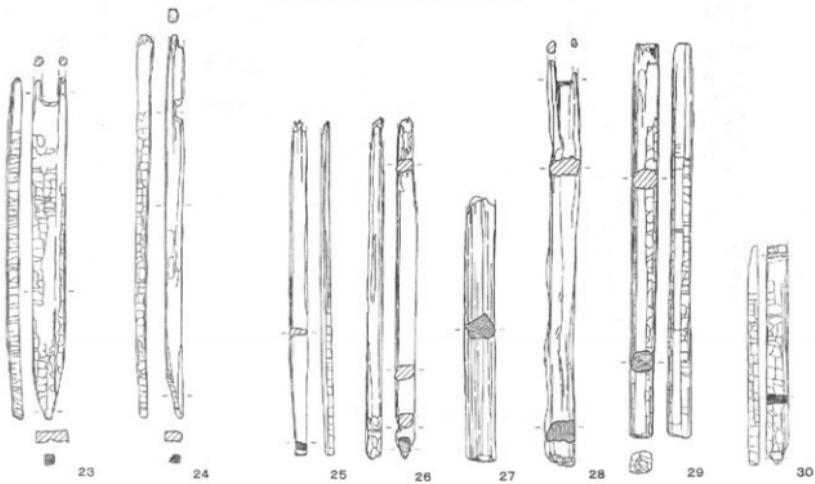
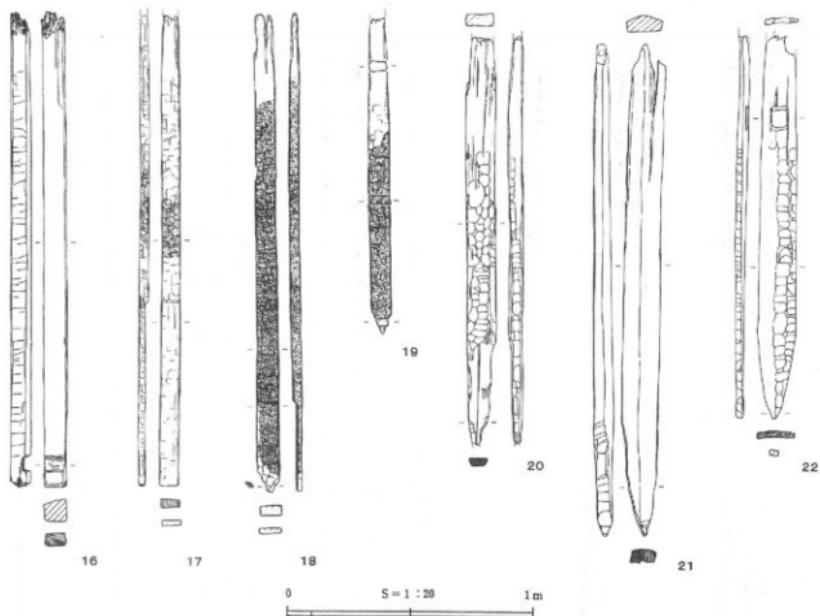
時期：古墳以降

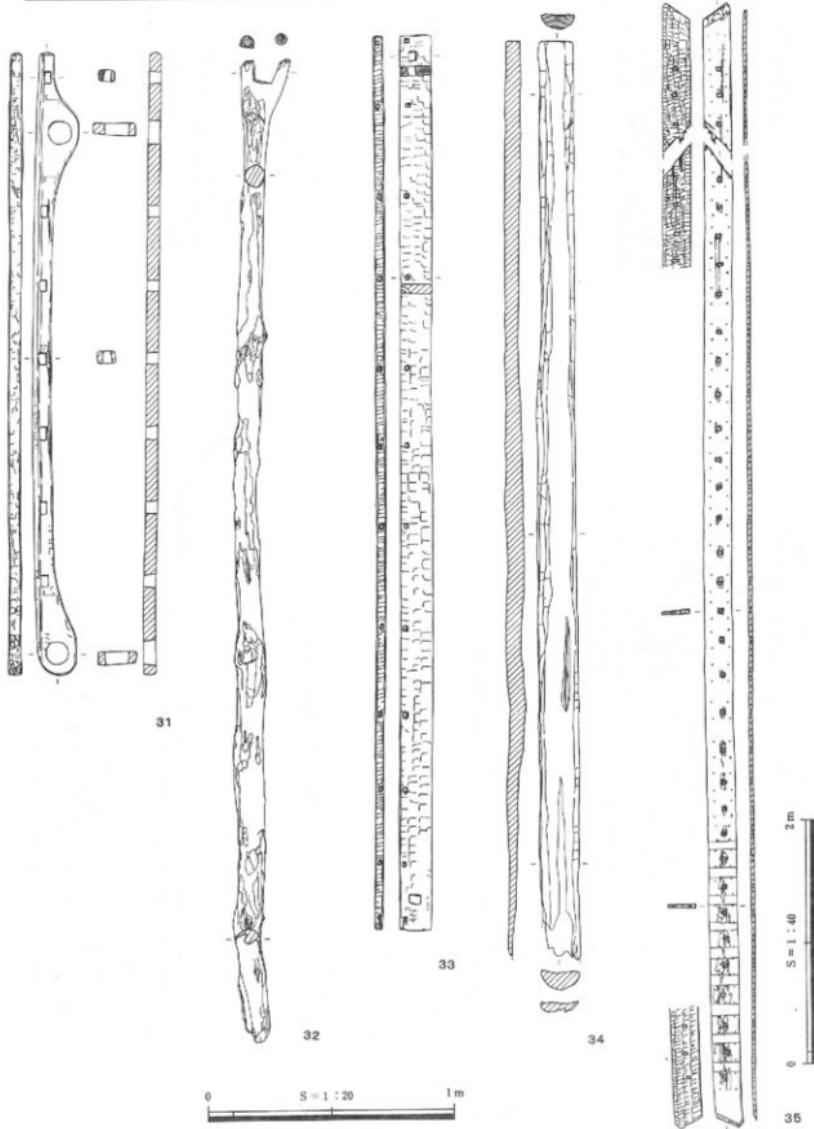


0 S=1/10 40cm

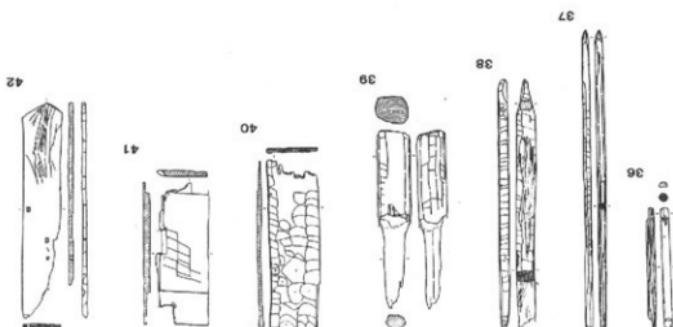
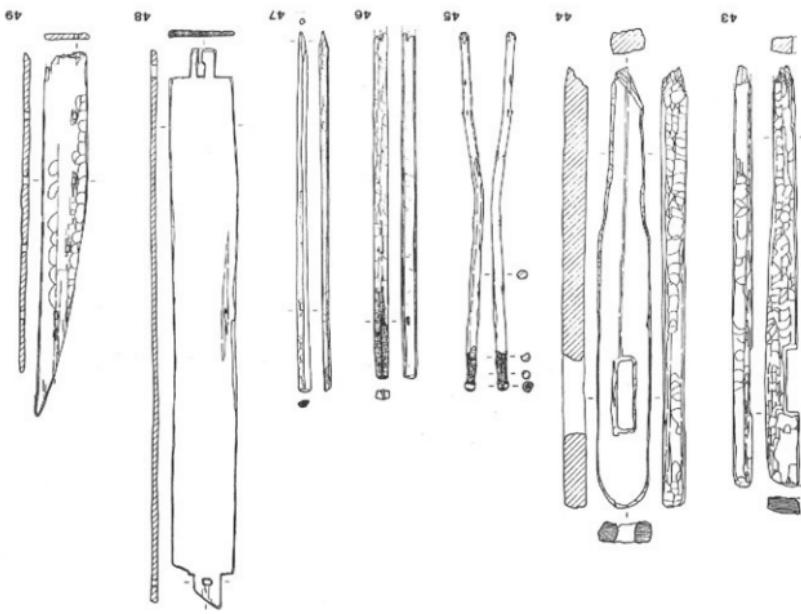


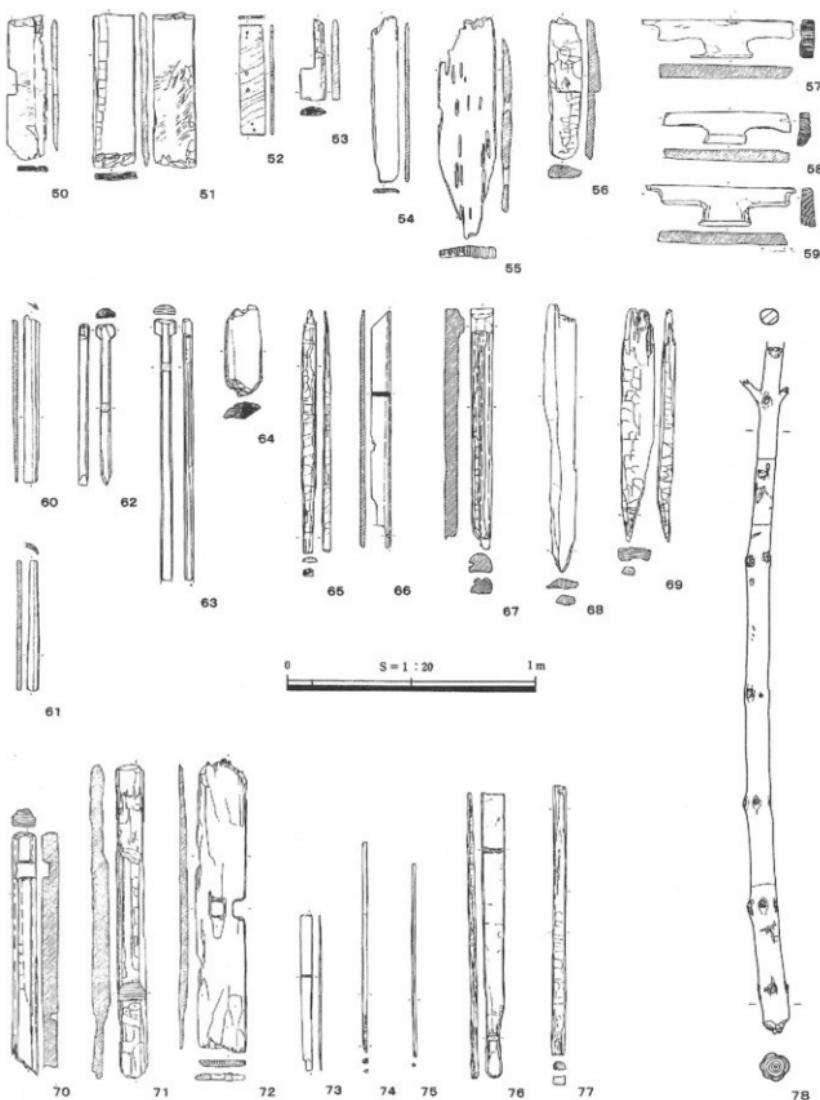
0 S = 1/10 40cm

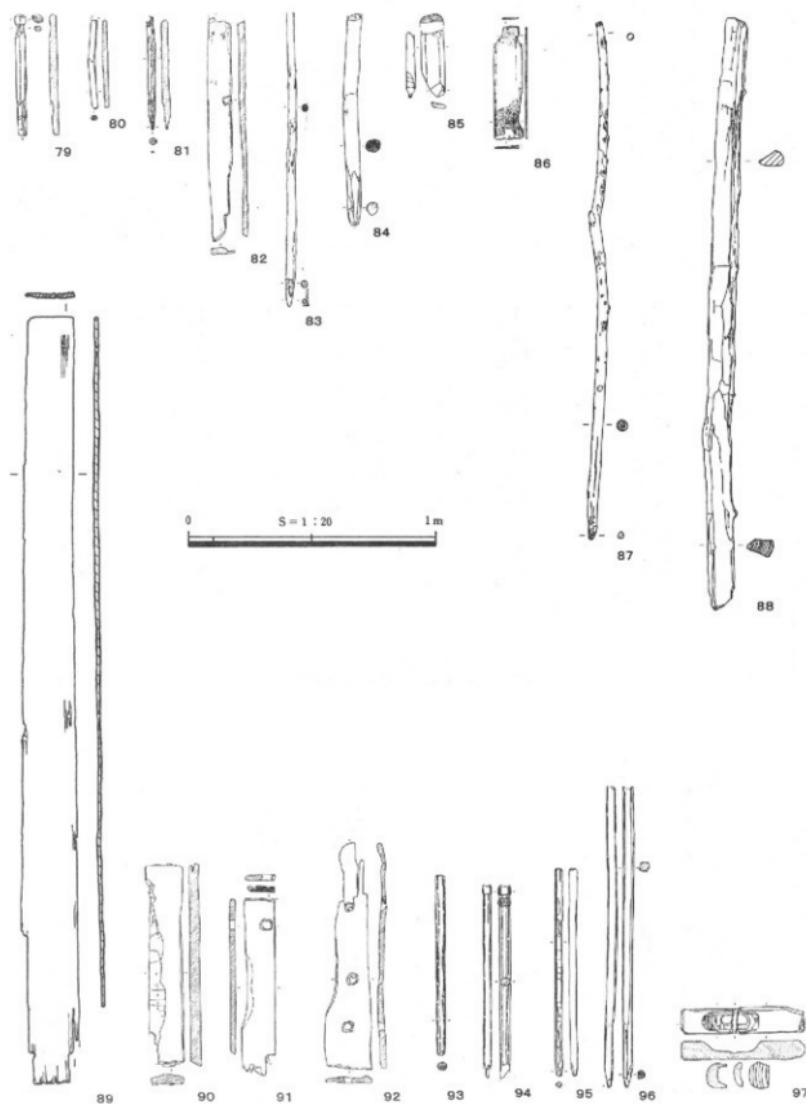




0 1m
S = 1 : 20



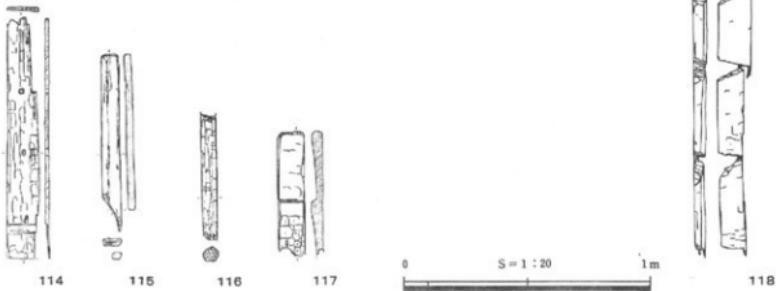
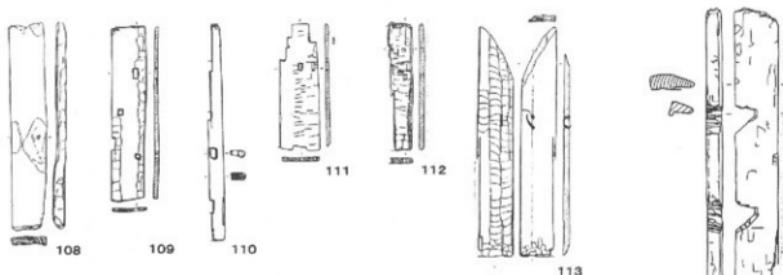
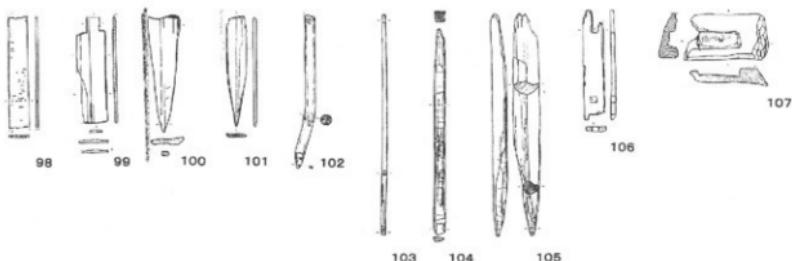


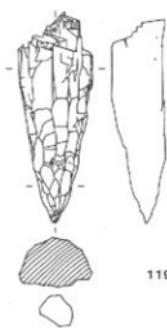


遺跡名：桂見遺跡③

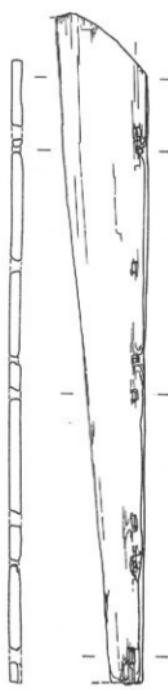
所在地：鳥取県鳥取市

時期：弥生中期末～古墳前期

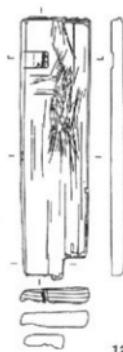




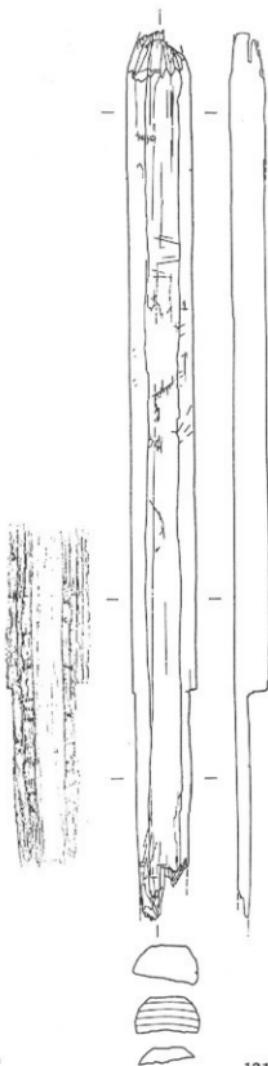
119



120

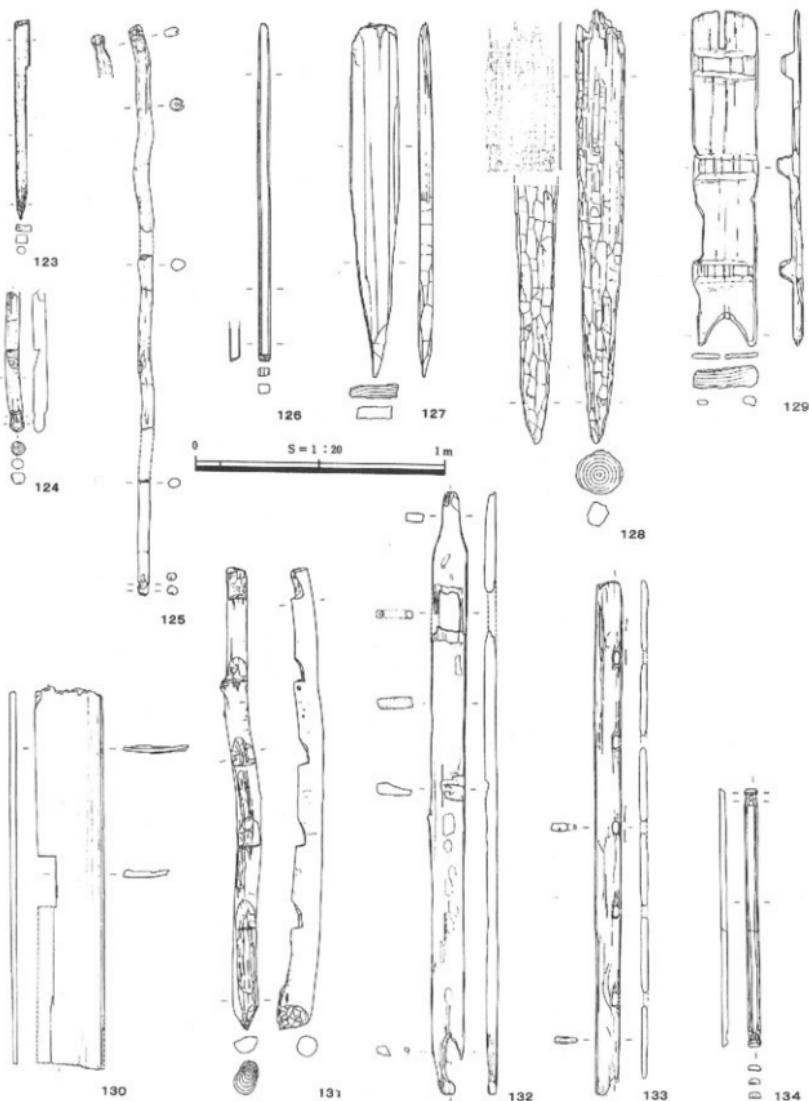


122



121

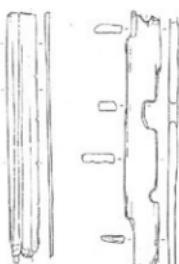
0 S = 1/10 40cm



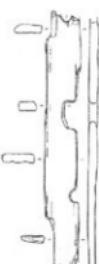
遺跡名：桂見遺跡⑤

所在地：鳥取県鳥取市

時期：弥生後期～古墳前期、古墳前期



135



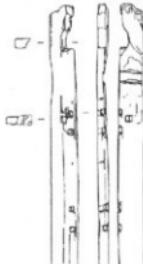
136



137



138



139

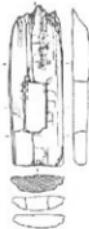
0 S = 1 : 20 1 m



140



141



142



143

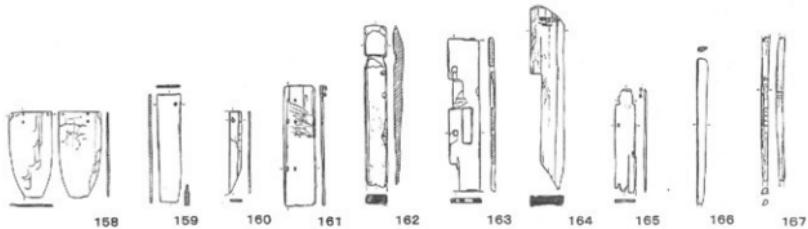
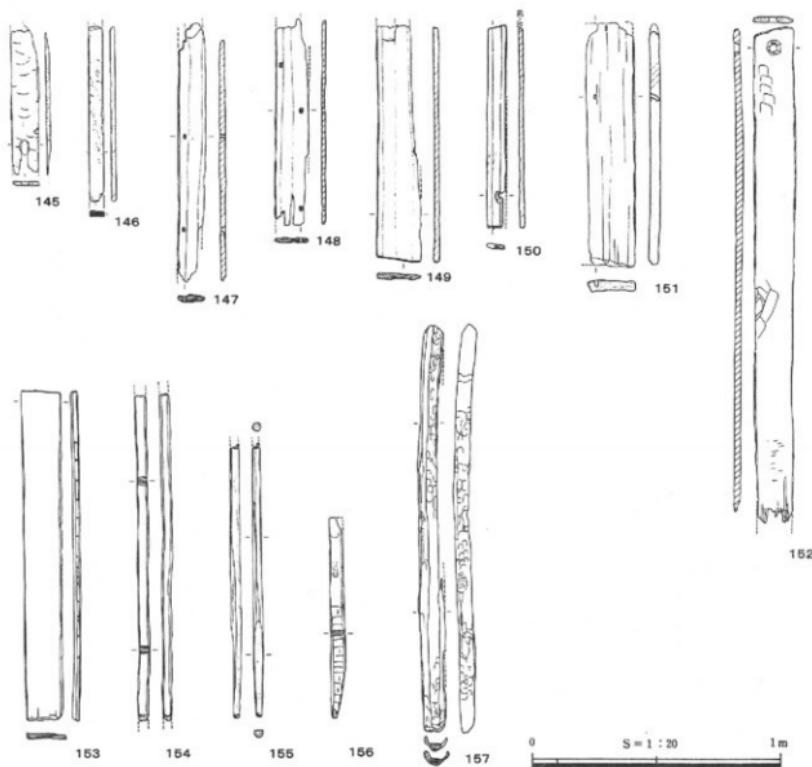


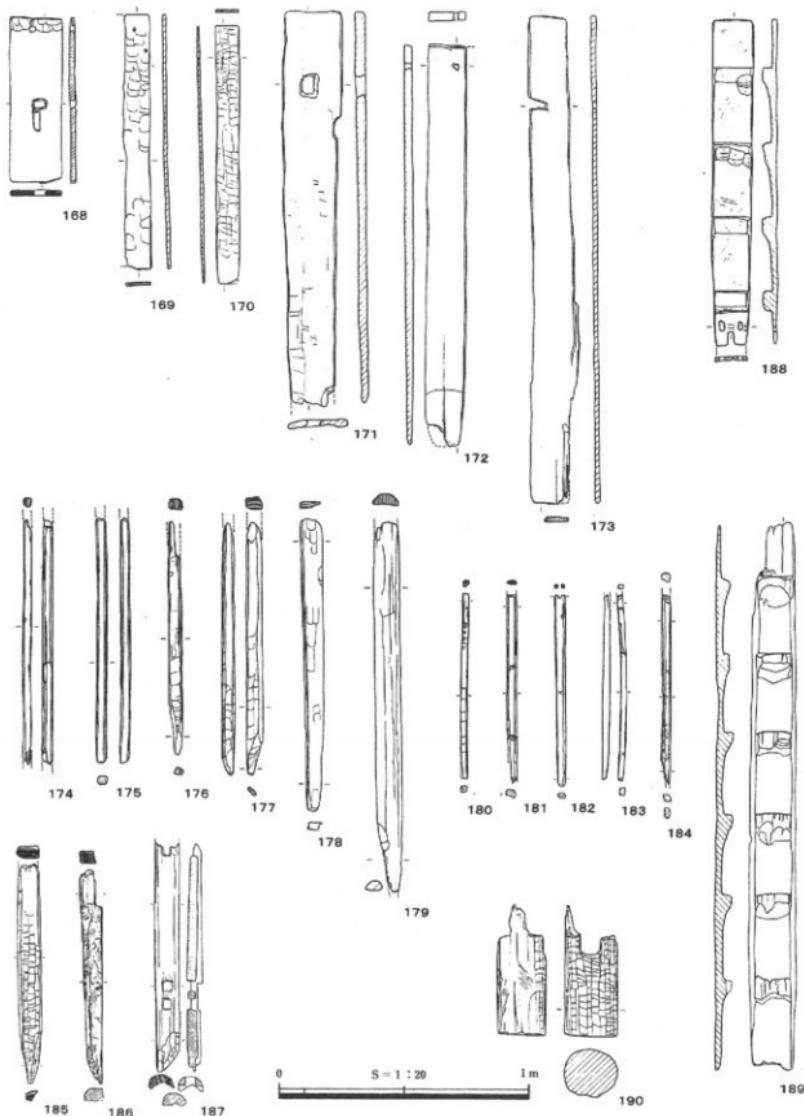
144

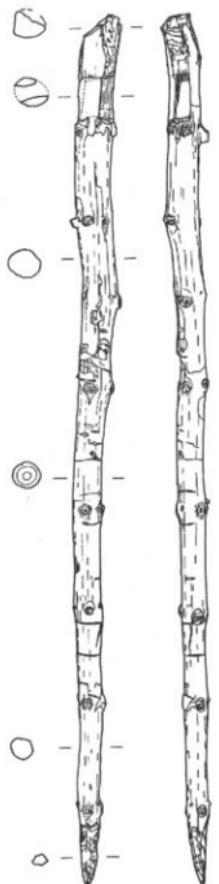
遺跡名：東桂見遺跡

所在地：鳥取県鳥取市

時期：古墳







191

0 S = 1 : 40 2 m

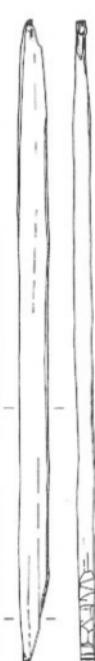


192



193

0 S = 1/10 40cm



194



195



196



197



198



199



200

0 S=1/10 40cm



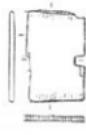
SD-03木器出土状況



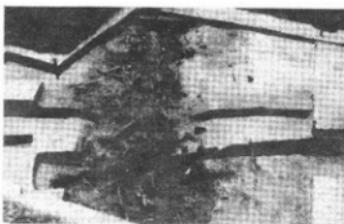
201



202



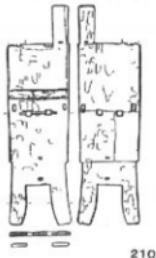
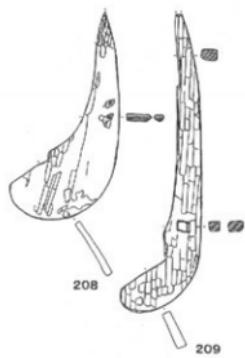
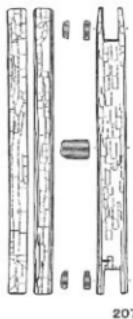
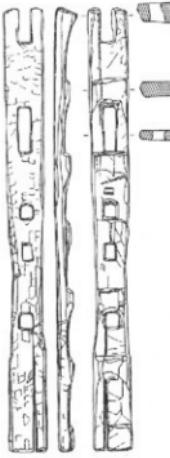
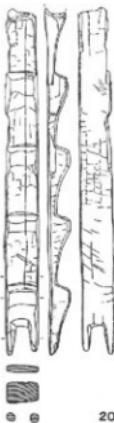
203



SD-02木器出土状況

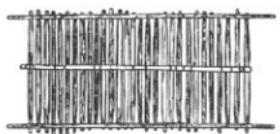
遺跡名：青谷上寺地遺跡① 所在地：鳥取県気高郡青谷町

時期：弥生前期後葉～中期
弥生中期後葉

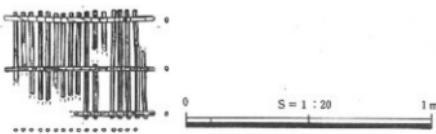


0 S = 1 : 20 1m

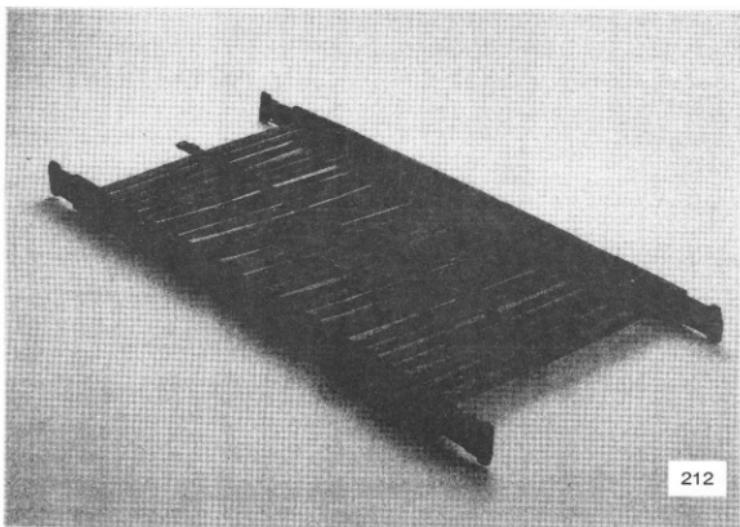
遺跡名：青谷上寺地遺跡① 所在地：鳥取県氣高郡青谷町 時期：弥生中期後葉、弥生後期



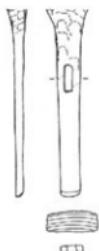
212



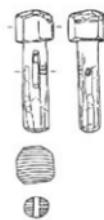
213



212



214



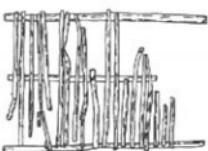
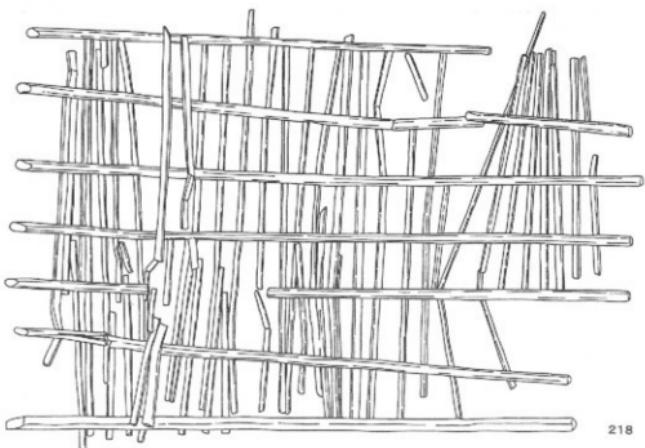
215



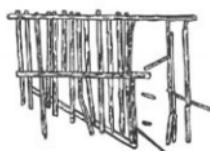
216



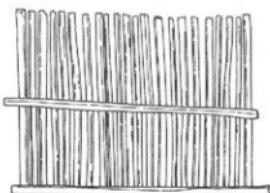
217



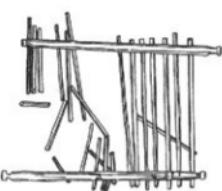
219



220

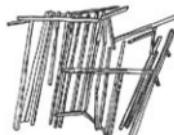


221

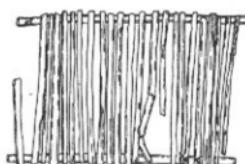


222

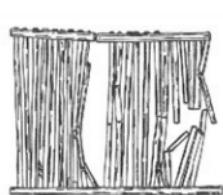
0 5 = 1 : 20 1m



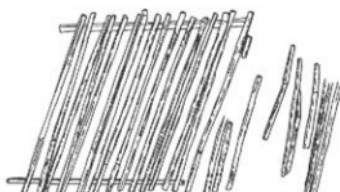
223



224



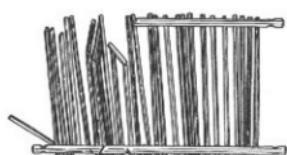
225



226



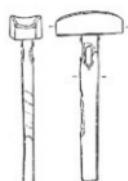
238



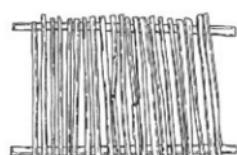
227



228



239



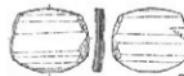
229



230



231



236



232



237



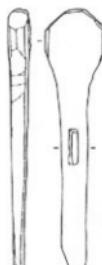
233



234



235



240



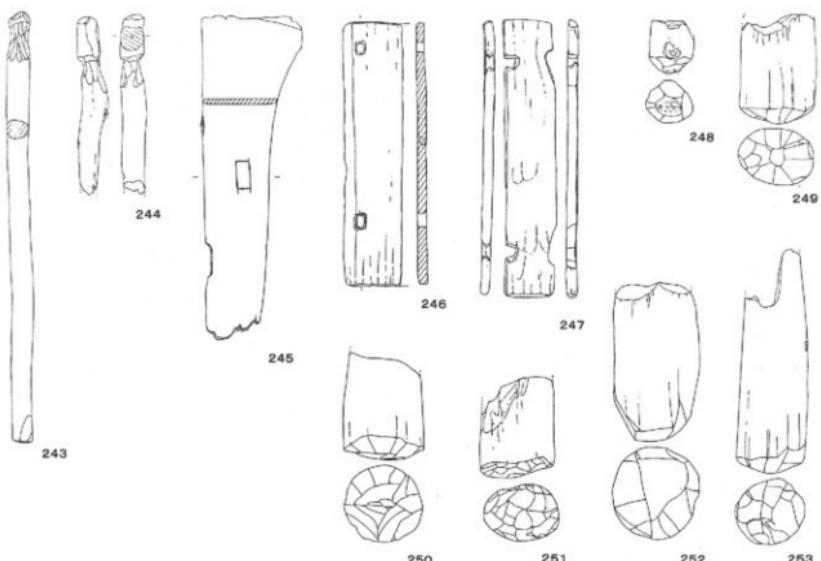
241



242

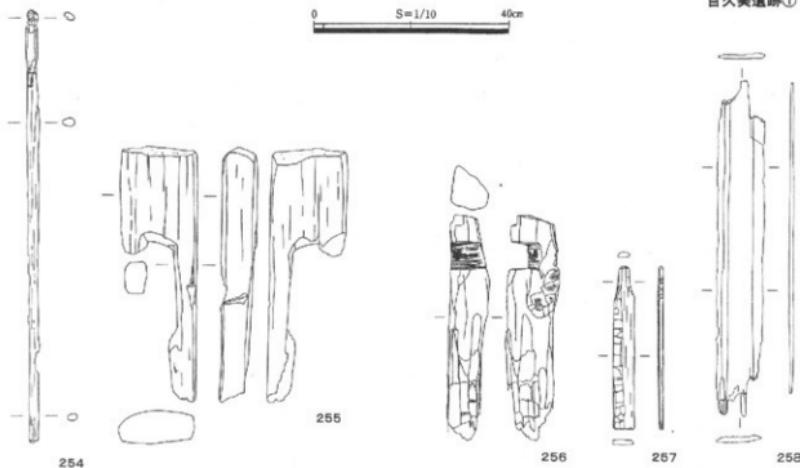
0 S = 1 : 20 1m

0 S = 1/10 40cm



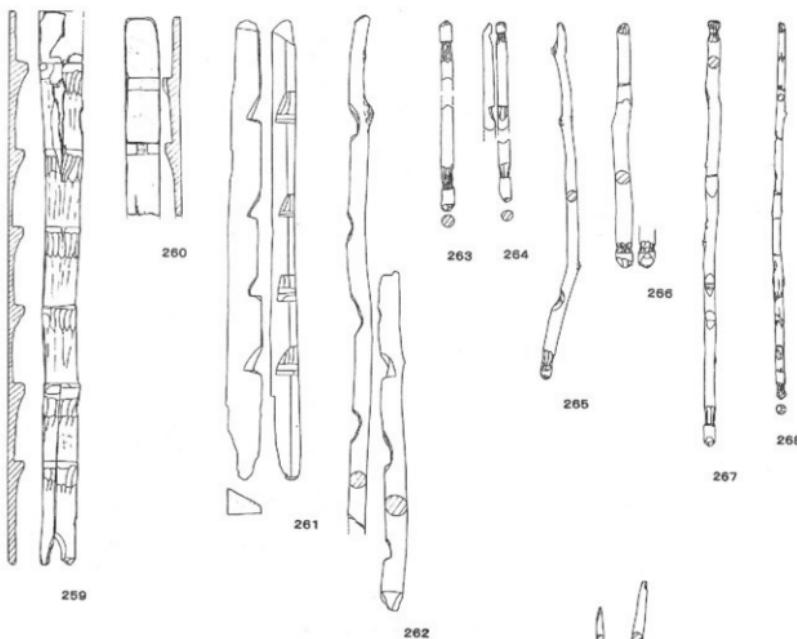
0 S=1/10 40cm

目久美遺跡①

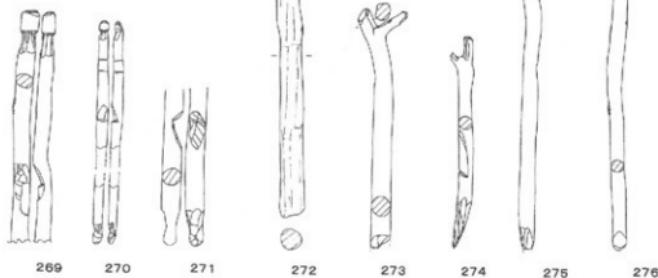


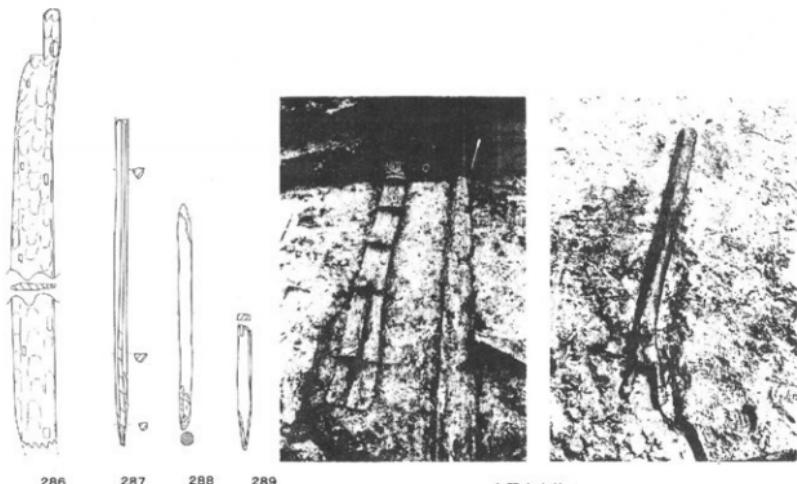
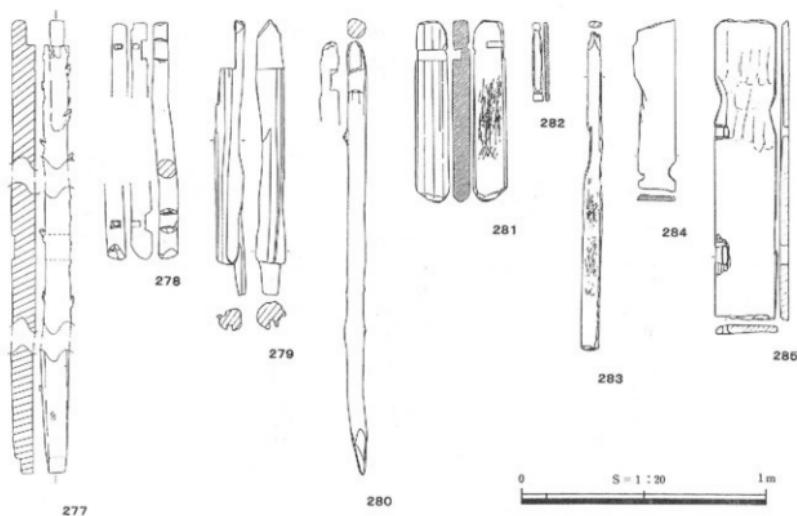
目久美遺跡②

目久美遺跡③



0 S = 1 : 20 1 m





木器出土状況



290



291



292



293



294



295



296

0 S = 1 : 20 1 m



297



298



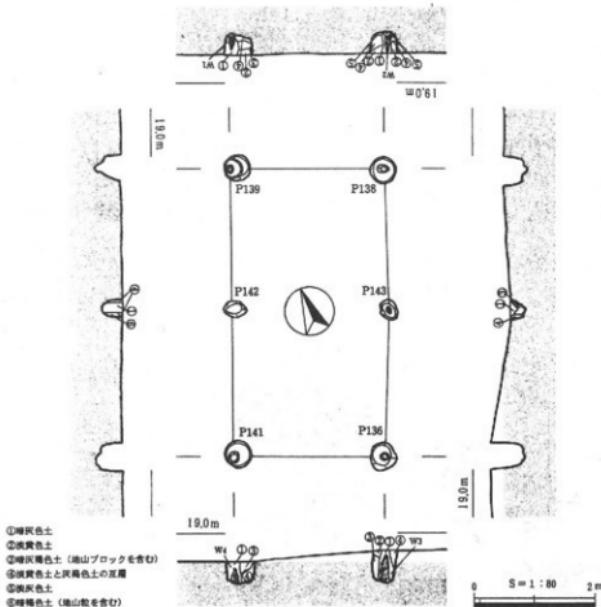
299



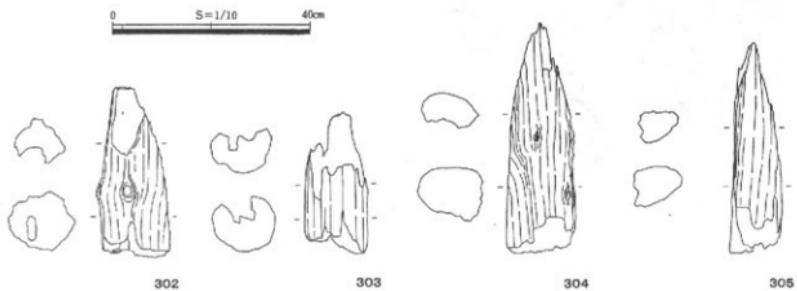
300

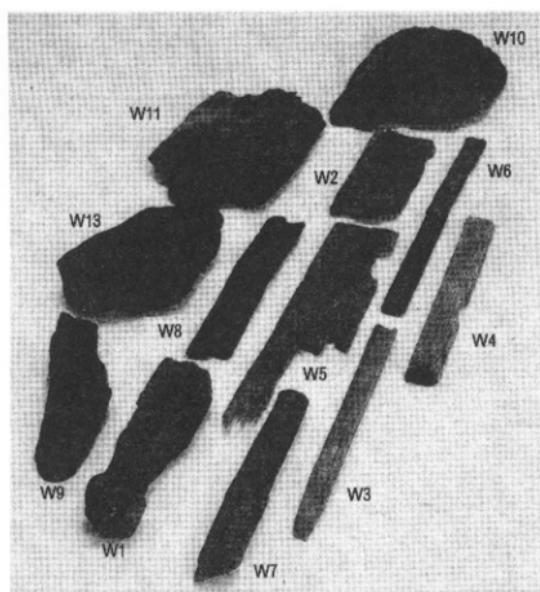
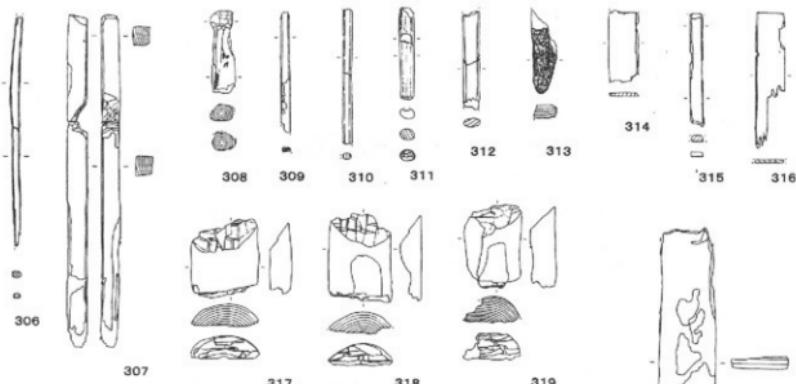


301



SB1遺構図





建築材写真(番号は報告書掲載番号)

0 S = 1 : 20 1m

遺跡名：福岡遺跡

所在地：鳥取県西伯郡淀江町

時期：弥生中期



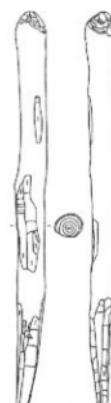
321



322



323



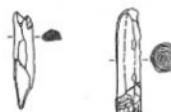
324

0 S=1/10 40cm

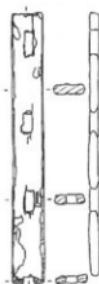
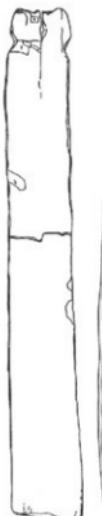
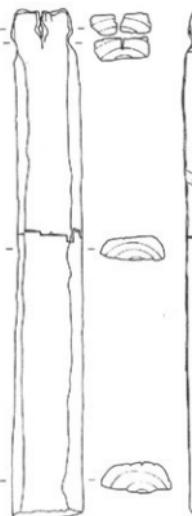
遺跡名：井手脇遺跡

所在地：鳥取県西伯郡淀江町

時期：縄文後期～晩期
弥生後期～古墳前期



0 S = 1/10 40cm



0 S = 1 : 20 1m

329

遺跡名：天萬土井前遺跡

所在地：鳥取県西伯郡余見町

時期：弥生～古代



335



337



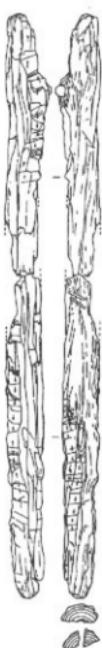
338



336



339



340

島根県の概要

中川 寧

島根県では、1970年代後半以降西川津遺跡やタテチョウ遺跡など、濃く製品を出土した遺跡がいくつかみられるが、松江市上小紋遺跡の報告において、宮本長二郎氏が出土建築部材から建物の構造を復原しているのを除けば、建築材について考古学から検討されたものはないようである。

縄文時代では、三瓶山の噴火による埋没林が大田市と出雲市で見つかっており、このうち大田市の埋没林はスギの巨木が立ったまま見つかっている。また、出雲市三田谷I遺跡の埋没林はアカガシ亜属やヤナギ属が多い。縄文時代の木製品は、丸木舟や櫂など数点である。

弥生時代前期の建築材は、松江市西川津遺跡の河川堆積層から見つかっている。長さ3m、太さ10cmの柱材（西川津1・4）の他、ほぞ孔を持つものがある。径が10~17センチ、ほぞ孔は11~16cm×6~9cmであるので、これらも柱材と思われる（2・5~7）。また、端部を細くしてL字状に加工した垂木と思われる材が出土している（9・10）。端部同士の間隔は約90cmである。

弥生時代中期中葉～後期初頭の出雲市海上遺跡からは、床材（1~5）、壁材の可能性のある板材（9~11）、2mを越える板材（17・18）などが出土している。また、中期後葉の松江市布田遺跡からは縦約100cm、横90cmの組み物が出土している（7:写真）。

弥生時代後期から古墳時代前期は、上述の上小紋遺跡や海上遺跡のほか、鹿島町稗田遺跡、大社町五反田遺跡、松江市田中谷遺跡などがある。上小紋遺跡では建築材が集水構に転用されている。建築材の中には、宮本氏によれば横板壁落とし込みの溝を穿つ円柱材が出土し（58・62）、高床建築では大引貫式に相当するとしている。稗田遺跡では扉のまぐさ材が出土している。田中谷遺跡では梁材と思われる横架材（1）や壁材と思われる材（写真）が出土している。五反配遺跡には造り出し柱の部分（1・2）や他の材に比べて厚みを持つでの床材と判断した材（4~8）がある。また、横架材は約1m程度の材（12・13）のほか約180cm（10）や250cm（9）のものがある。また、板材に円形の取っ手状の部分を持つ材が出土しており（20）、扉材の可能性がある。21~46はほぞ孔のある材を集めたもので、壁材があると思われるが、21や22のようにほぞ孔の角度が斜めになるものがある。五反配遺跡では建築部材を護岸施設や畦畔に転用したものがあるが、同様の遺構を検出した遺跡には津江市古八幡付近遺跡や仁摩町大寺遺跡がある。今回の集成の趣旨とは異なるが、弥生後期から古墳前期にかけて、日本海沿岸地域に同様の遺跡が点在しており、水田に伴う土木技術や意識において一つの特徴をなすのではないかと思われる。

古墳時代中期の松江市神田遺跡では、まぐさ材（1:梯子として報告）や長さ350cmの梯子（6）がある。2は厚さ約4cmで、長方形の欠き込みを両側面側に持つので、床材の可能性を考えた。ほかに垂木やほぞ孔を持つ部材がある。転用された部材の中にはほぞ孔を持つもの（11・12）や短辺が斜めに加工された、径6cmの孔を持つ部材（3）がある。松江市石田遺跡dせは、扉材（2）のほか、板材の長軸に直交して、斜め方向に長方形の孔を開く部材（1）が出土している。また、水溜構が確認されており、その材は4~6である。松江市夫手遺跡では柱材が出土している（3・4）。3は頭部を切り欠き、その下にほぞ孔を持つでの隅柱と考えられる。また、柱根が7点確認され、樹種のわかるSB02のうち3点がクリ、1点がモミであった（6~11）。古墳後期の八雲村前田遺跡では河道や祭祀遺構の付近から建築材が出土した。2つのほぞ孔を持つ部材があり、ほぞ孔同士の間隔が約1mである（6・7）。また、長さ2mを越す板材が出土している。

奈良時代以降に属する可能性があるが、出雲市三田谷I遺跡の建築材を報告しておきたい。横架材では、石田遺跡のところで述べた、板材の長軸に直交して斜め方向に長方形の孔を開く材（2・3）のほか、長軸方向に斜め方向の孔の開く材がある（1）。前者を枠材、後者を梁材と想像した。また、長方形の欠き込みのある部材（4・5）は、両端の加工が不明であるが、根太を通した大引ではないかと思われる。6は材の中央に溝があり、壁受材と思われる。18はまぐさ材、19は蹴放し材で、扉板も出土している（23~28）。20は窓材で、片扉の復元図と窓材の復元図を掲載している。29・30は長側辺の中ほどに方形のくりこみを持ち、横の板と接合できるようになってい

るので、壁材と想定した。また、31は長側辺に間隔をおいて孔を持ち、短辺側が一段細くなっているので、これも壁材と想定した。37は端部をL字状に加工する。34は長方形のほぞ孔が同じ方向に4つ開いている。なお、今回は言及できなかったが、鎌倉時代の出雲大社の本殿が調査され、報告書が刊行されている。また、出雲市青木遺跡では奈良時代の掘立柱建物の柱根が30本以上も見つかっている。

建築材の樹種を同定した例は少ないが、板材を中心にスギやヒノキなどの針葉樹を中心である。一方、柱に使われた樹種はスギの他にクリがあり、今回の集成には挙げなかったが、奈良時代の松江市出雲国府跡や出雲市青木遺跡ではクリ、ムクノキ、シイ属が、近世初頭の安来市富田川河床遺跡ではクリがあり、柱材にはクリを選択する例が多いことをうかがうことができる。

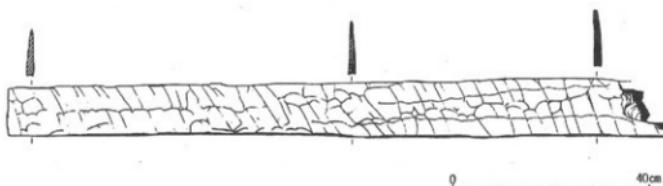
以上、島根県の概要を述べた。用語が不正確な部分があるかもしれないが、ご容赦願いたい。現在、島根県では弥生・古墳時代の木製品の集成作業を行っており、今回の集成した資料を他地域の事例と比較検討して、修正作業に役立てたい。

島根県

	板接ぎ		仕口	ほぞ (詳細 不明)	目地ほぞ	平ほぞ	楔	継ぎ手(交差)			板継ぎ手 蝶形追 入れ継 ぎ
	本さね 接ぎ	ひぶくら 接ぎ						欠き込 み	輪蓮ぎ 込み	貫き通 し	
縄文											
弥生前期									○	○	
弥生中期				○			○			○	
弥生後期～古墳前期		上小紋56		○	○	○	○	○		○	
古墳中期～後期				○				○		△(難)	
飛鳥・奈良	三田谷 I 31	○	三田谷 I 30	○			○	○		○	

上小紋遺跡 56の断面は二等辺三角形で、三角形の底辺に相当する部分には断面コ字の浅い溝が掘つてある。掘立柱建物の羽目板の可能性がある。なお、「垂木」としているものの中には施設の構造材などの建築部材以外のものが含まれていると思われる(西川津9・10・25～27、布田2・6、海上21・23・35～38、稗田4、五反配11～13、神田13～16、タテチョウ4～8・11～15など)。また、上小紋54は天秤棒なので訂正する。(2005年2月19日追記)

羽目板の可能性のある板材(上小紋遺跡 56-56 弥生後期 現長134×11×1.5cm)



番号	遺跡名	報告書の添付番号	種別	地区・遺構・層位	時代・時期	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	その他の寸法(cm)	樹種	備考	文献
西川津1	西川津	91-110	柱		弥生前期	297.4			径:12.2		一端が二股に分かれる	12
西川津2	西川津	91-111	柱		弥生前期	(199.6)			径:14.0 (ぼぞ 孔:12.2×6.4			12
西川津3	西川津	91-112	柱		弥生前期	221.9			径:11.0		一端が二股に分かれる	12
西川津4	西川津	91-113	柱		弥生前期	(173.0)			長径:16.0 短 径:14.0		ぼぞ孔:11.0×7.4	12
西川津5	西川津	92-117	柱		弥生前期	363.4			長径:14.8 短 径:10.0		ぼぞ孔:14.8×6.2	12
西川津6	西川津	92-116	柱		弥生前期	324.0			長径:17.4 短 径:12.9		ぼぞ孔:16.0×9.1	12
西川津7	西川津	92-118	柱		弥生前期	352.2			径:10.8~11.6		ぼぞ孔:14.8×6.8	12
西川津8	西川津	86-81	鉢(直口)		弥生前期	(117.8)			径:4.2			12
西川津9	西川津	86-82	鉢(直口)		弥生前期	108.0	5.4	5.4	加工の開閉:94.2	ヒノキ属	土壌に取っ手状の加工	12
西川津10	西川津	86-83	鉢(直口)		弥生前期	(100.2)	6.3	5.4	加工の開閉:89.4		土壌に取っ手状の加工	12
西川津11	西川津	89-85	鉢(直口)		弥生前期	4.8	4.5				一端に切り欠き	12
西川津12	西川津	89-84	鉢(直口)		弥生前期	6.0	5.4				一端に切り欠き	12
西川津13	西川津	85-78	板村		弥生前期	66.0	19.2	3.3		スギ		12
西川津14	西川津	89-94	板村		弥生前期	93.6	8.7	2.4		スギ		12
西川津15	西川津	89-95	板村		弥生前期	91.8	6.0	3.9		スギ		12
西川津16	西川津	89-98	板村		弥生前期	(59.8)	11.4	2.4		スギ		12
西川津17	西川津	142-165	杭	EHCの上部構造材	弥生中期	157.2			径:9.6		先が二股	11
西川津18	西川津	149-204	柱		弥生中期	(70.8)			長径:16.8 短 径:13.2	スギ		11
西川津19	西川津	149-205	柱		弥生中期	(63.6)			径:21.0	スギ		11
西川津20	西川津	148-202	板子		弥生中期	105.5	15.4	9.8		スギ		11
西川津21	西川津	148-203	板子		弥生中期	(61.2)	17.1	5.4		スギ		11
西川津22	西川津	149-206	杭	EHCの上部構造材	弥生中期	118.3	20.9		径:7.4	檜木材	先が二股	11
西川津23	西川津	147-182	垂木?		弥生中期	(88.2)			径:5.4	スダジイ		11
西川津24	西川津	147-183	垂木?		弥生中期	(47.4)			径:6.0	欅木材		11
西川津25	西川津	162-270	板村		弥生後期	91.9	6.3	3.6		スギ		11
西川津26	西川津	162-271	垂木		弥生後期	114.8			径:3.3	ヒノキ属		11
西川津27	西川津	162-272	垂木		弥生後期							11
西川津28	西川津	211-12	垂木	V区B	弥生後期以前	77.6			径:5.5	ヤブツバキ	先端が二方に分かれる	13
西川津29	西川津	52	板子	VI区	古墳後期以前	(131.2)			径:14.8			14
海上1	海上	50-10	床板(丸太)	2区3層	弥生中期前-後期初期	188.4	7.2	3.0		スギ	一端が広がり、中央に方 形の孔	27
海上2	海上	25-2	梁材?	1区3層	弥生中期前-後期初期				6.6	スギ		27
海上3	海上	44-4	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	(75.0)			3.0		一端をし字状に加工	27
海上4	海上	21-1	部材	1区3層	弥生中期前-後期初期	87.0			4.8		一端は削平	27
海上5	海上	44-7	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	(55.8)			6.0		瘤みあり	27
海上6	海上	43-3	部材	2区3層	弥生中期前-後期初期	(89.4)	6.0				一端に切り欠き	27
海上7	海上	23-2	崩材?	1区3層	弥生中期前-後期初期	69.0			1.2			27
海上8	海上	27-4	礎石板?	1区3層	弥生中期前-後期初期	268.6	13.2	2.4		スギ	縦溝状で3箇所の穿孔が ある	27
海上9	海上	25-1	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	109.2						27
海上10	海上	24-3	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	101.4	25.8	2.4				27
海上11	海上	24-4	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	100.2	25.2	2.4			長制刃に開閉をおいて3ヶ 所の孔	27
海上12	海上	26-1	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	(84.6)			3.0		側面をV字状に加工	27
海上13	海上	45-3	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	114.0	14.4	1.8			2ヶ所の孔	27
海上14	海上	45-4	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	99.6	21.6	1.8				27
海上15	海上	45-5	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	(103.9)	12.6	2.4				27
海上16	海上	44-5	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	(88.6)	5.4				孔:6カ所	27
海上17	海上	27-2	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	(243.6)	17.4	1.2				27
海上18	海上	27-3	板村	1区3層	弥生中期前-後期初期	193.2	15.0	2.4			側部は後に加工	27
海上19	海上	46-2	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	15.6	1.8					27
海上20	海上	45-5	板村	2区3層	弥生中期前-後期初期	28.2						27
海上21	海上	20-3	施木	1区3層	弥生中期前-後期初期				径:4.5~6.6	サカキ	枝材か?	27
海上22	海上	26-4	施木	1区3層	弥生中期前-後期初期	(180.8)			径:5.4~8.4	シイ	枝材か?	27
海上23	海上	48-4	施木	2区3層	弥生中期前-後期初期				径:10.2	松材か?		27
海上24	海上	48-1	板村	2区2層	弥生後期	242.4	12.0	9.6		スギ		27
海上25	海上	48-2	板村	2区2層	弥生後期				9.0	スギ		27
海上26	海上	49-4	床材?	2区2層	弥生後期	122.0	18.8	7.2		スギ	半円形の大きな抜きを持つ	27
海上27	海上	43-6	床材?	2区2層	弥生後期	102.0	11.4	3.6			西側をV字に加工	27
海上28	海上	47-6	床材	2区2層	弥生後期	(105.6)	13.2	4.6		スギ		27
海上29	海上	45-2	坂村	2区2層	弥生後期	71.4	10.2	1.2			孔:2カ所	27
海上30	海上	46-1	坂村	2区2層	弥生後期	83.4	(16.5)	1.2			円形と長方形の孔	27
海上31	海上	46-4	坂村	2区2層	弥生後期	163.2	24.0	1.2				27
海上32	海上	49-1	坂子	2区2層	弥生後期					スギ		27
海上33	海上	49-2	坂子	2区2層	弥生後期					スギ		27
海上34	海上	49-3	板子	2区2層	弥生後期	(141.6)	12.0					27
海上35	海上	48-3	施木	2区~3層	弥生後期				径:8.0	モミ	枝材か?	27
海上36	海上	49-5	施木	2区2層	弥生後期						枝材か?	27

海上37	海上	47-5	ほぞ垂木	2区2層	弥生後期	(114.0)	埋:3.6	スギ	一縫にほぞ	27
海上38	海上	27-1	ほぞ垂木	1区2層	弥生後期	163.2	4.2	1.8	スギ	一縫にほぞ
海上39	海上	28-1	装飾板	1区3層			2.4		エノキ属	27
海上40	海上	19-1	木柱	1区3層	弥生後期～古墳前期	4.8	3.9		スギ	27
54	上小紋	56-54	部材	SK01	弥生後期	170.0	5.5	3.5		天井構の可能性
55	上小紋	56-55	部材	SK01	弥生後期	145.0	7.0	6.0		ほぞ引ヶ所
70	上小紋	72-70	部材	SK01	弥生後期			埋:5.4		一縫に切り欠き
71	上小紋	72-71	部材	SK01	弥生後期			埋:5.4		一縫に切り欠き
72	上小紋	72-72	部材	SK01	弥生後期	(84.0)	8.4	4.2		欠込みあり
73	上小紋	72-73	垂木	SK01	弥生後期	185.0			埋:4.8～5.4	一縫に切り欠き
57	上小紋	60-57	円柱材	SK01	弥生後期	80.0	10.5	7.5		
58	上小紋	60-58	円柱材	SK01	弥生後期	120.0			埋:15.0	
59	上小紋	61-59	円柱材	SK01	弥生後期	80.4	7.8	4.8		
60	上小紋	61-60	円柱材	SK01	弥生後期	81.0	9.0	5.4		
81	上小紋	61-61	建葉垂木	SK01	弥生後期	106.0				
52	上小紋	65-52	円柱材	SK01	弥生後期	67.0				
53	上小紋	65-63	建葉垂木	SK01	弥生後期	82.8	9.0	6.0		
54	上小紋	66-64	角柱材	SK01	弥生後期	83.0	9.4	5.8		
55	上小紋	68-65	桁行	SK01	弥生後期	87.3	10.2	9.4		
56	上小紋	71-66	桁行	SK01	弥生後期	116.0	9.5			
57	上小紋	71-67	建築垂木	SK01	弥生後期	81.0	8.5			
田中谷1	田中谷	86	梁?	II-1区第3L がくみ造機	弥生後期～古墳前期	(228.0)	14.1	8.2	アヌラロ属	中ほどが一段低くなる
田中谷2	田中谷	83-1	部材	II-1区第2L がくみ造機	弥生後期～古墳前期	(84.1)			モミ属	杭に転用 頭部をL字に加工
田中谷3	田中谷	58-4	梯子	I区旧河床	弥生後期～古墳前期	(36.8)	(12.2)	8.6	スギ	
碑田1	碑田	147	まきさわ	弥生2区1層	弥生後期～古墳前期	145.6	18.8	3.2		15
碑田2	碑田	148	板柱	2区1層	弥生後期～古墳前期	158.4	25.8	2.6	キズコ属	
碑田3	碑田	150	床柱	2区1層	弥生後期～古墳前期	85.8	13.8	4.2		15
碑田4	碑田	105	膨木	1区1層	弥生中期～後期	(85.6)			埋:6.0	15
碑田5	碑田	109	外柱	II区1層	弥生中期～後期	146.0	16.0	3.2	スギ	無形状
碑目1	碑目	16-2	板材	3区1層	古墳中期	164.0	6.5	1.8		小さな孔あり
碑目2	碑目	16-2	垂木	3区1層	古墳中期	114.0			埋:2.6～3.5	1
五反配1	五反配	324	床材	A区木組み	弥生後期～古墳前期	(87.0)	13.0	5.0		角柱で、柱の床部分が一段低くなる。
五反配2	五反配	325	床材	A区木組み	弥生後期～古墳前期	(82.4)	11.0	5.4		角柱で、柱の床部分が一段低くなる。
五反配3	五反配	290	床材?	A区溝-C区河 道7-11層	弥生後期～古墳前期	(123.0)	13.6	2.4		側壁にある長方形の孔の奥底が一段低くなる
五反配4	五反配	323	部材	A区河道7層	弥生後期～古墳前期	(99.2)	15.0	6.6		一縫に突起 刃り出し柱の可動性
五反配5	五反配	328	床材?	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	96.0		8.0		一縫に突起
五反配6	五反配	312	床材?	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	(64.5)	16.1	6.9		両面に溝み
五反配7	五反配	313	床材?		弥生後期～古墳前期	(8.4)	5.8			片面に溝み 材に転用
五反配8	五反配	314	床材?	C区河道7層	弥生後期～古墳前期		12.2	6.2		縫部は厚く作り出す
五反配9	五反配	321	梁または梁	AS区4層	弥生後期～古墳前期	247.0	9.6	9.0	切り欠きの間:212.0	断面台形。両端に切り欠き
五反配10	五反配	341	梁材?	Bs区6層	弥生後期～古墳前期	176.4	7.0	6.0	切り欠きの間:167.0	両端に切り欠きあり。田の字と組み合って出土
五反配11	五反配	316	梁材?	C区木組み7層	弥生後期～古墳前期	110.8	10.0	8.6		両端に丸柱を受ける部分を性り出す
五反配12	五反配	332	建築部材	D区鉤脚7層	弥生後期～古墳前期	(102.2)	5.2	4.6	えぐりの間:91.0	両端をL字に切り欠く
五反配13	五反配	333	建築部材	D区鉤脚7層	弥生後期～古墳前期	99.6	5.4	3.9	えぐりの間:92.0	両端をL字に切り欠く
五反配14	五反配	292	根太?	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	(94.5)	6.5	1.8		長方形の孔の周囲が一段低くなる
五反配15	五反配	329	建葉垂木	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	(130.8)	9.7	7.0		狭けり
五反配16	五反配	318	部材	B区河道8層	弥生後期～古墳前期	77.4	7.6	5.0		角材 方形の孔に「ほぞ」が残る 一縫に化成
五反配17	五反配	409	建葉垂木	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	103.4	23.0	5.6		一縫に突起 もう一縫には穴あきに方形の孔
五反配18	五反配	326	梁材?	D区木組み	弥生後期～古墳前期	(82.0)	9.0	7.5		受け部あり 一縫は炭化
五反配19	五反配	317	部材	B区河道8層	弥生後期～古墳前期	(125.0)	13.0	9.0		溝曲し側面に溝
五反配20	五反配	278	梁?	C区木組み4層	弥生後期～古墳前期	(177.4)	(18.0)	2.0		円筒の突起二箇所
五反配21	五反配	272	水平構造材	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	(124.0)	14.4	4.0		側面に孔を持つ
五反配22	五反配	269	水平構造材	D区清浄床	弥生後期～古墳前期	94.5	14.0	2.4		斜めに貫通する孔
五反配23	五反配	276	板材	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	(114.0)	(19.7)	1.7		
五反配24	五反配	277	板材	CN区4層	弥生後期～古墳前期	(120.9)	(19.1)	2.5		
五反配25	五反配	319	板材	C区柱脚	弥生後期～古墳前期	139.5	11.8	5.5		
五反配26	五反配	297	部材	A区溝1層	弥生後期～古墳前期	(78.9)	8.6	2.7		長方形の孔
五反配27	五反配	298	床材?	D区柱脚	弥生後期～古墳前期	(62.0)	19.7	4.2		中央に大方の孔 矢板に転用
五反配28	五反配	299	板材	C区河道7層	弥生後期～古墳前期	138.9	25.2	2.6		矢板に転用

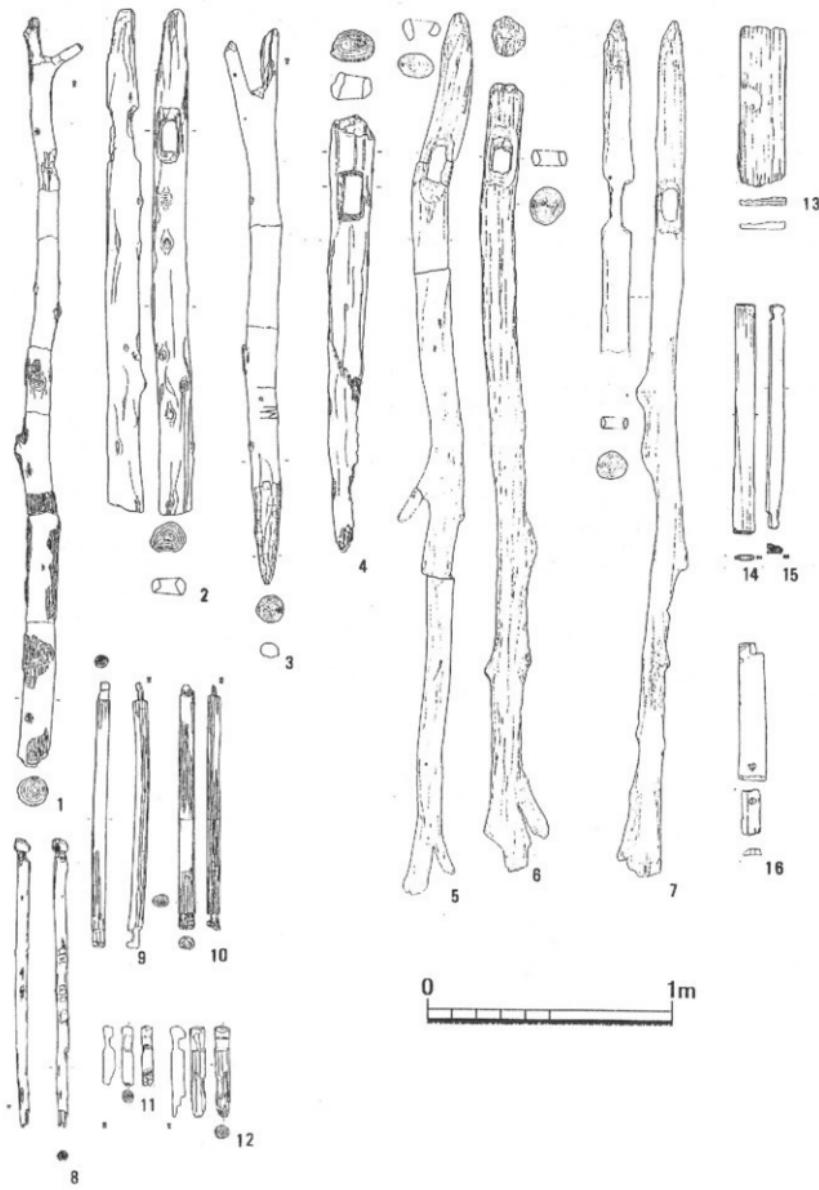
五反配29	五反配	279	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	107.7	16.6	2.0			30
五反配30	五反配	280	板材	7層	衍生後期~古墳前期	98.0	23.0	2.6	長辺に沿って小丸14カ所 割り込みあり		30
五反配31	五反配	281	板材	B区河道8層	衍生後期~古墳前期	96.8	17.4	1.7	片側の端部を深く加工		30
五反配32	五反配	282	板材	B区河道8層	衍生後期~古墳前期	100.1	18.9	2.0	端部を深く加工		30
五反配33	五反配	283	板材	B区河道8層	衍生後期~古墳前期	(84.6)	14.8	2.7	片側の長辺に寄せて丸二 カ所		30
五反配34	五反配	284	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	117.1	25.1	2.8	片側の長辺に寄せて丸二 カ所		30
五反配35	五反配	285	板材	C区河道8層	衍生後期~古墳前期	109.5	16.0	1.5	割り込みあり		30
五反配36	五反配	286	板材	B区4層	衍生後期~古墳前期	97.0	18.0	2.0	中央に丸二カ所		30
五反配37	五反配	287	板材	D区木組み	衍生後期~古墳前期	(93.9)	12.5	2.1	矢板に転用		30
五反配38	五反配	288	板材	D区木組み7層	衍生後期~古墳前期	(74.5)	16.4	1.7			30
五反配39	五反配	330	部材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	115.3	8.2	4.4	角材 一端をし字に加工		30
五反配40	五反配	331	部材	B区河道7層	衍生後期~古墳前期	114.3	5.8	3.5	短軸方向に斜めのぼぞ孔		30
五反配41	五反配	236	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	(140.5)	6.5	1.4	4か所の丸		30
五反配42	五反配	289	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	140.2	8.8	1.7	丸の横が一段低い		30
五反配43	五反配	310	板材	D区河道7層	衍生後期~古墳前期	215.5	17.9	1.7			30
五反配44	五反配	311	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	252.9	18.2	2.9			30
五反配45	五反配	273	柱	B区7層	衍生後期~古墳前期	(215.1)	21.0	1.8	端部を斜めに加工		30
五反配46	五反配	274	板材	CN区7層	衍生後期~古墳前期	218.6	19.0	1.6	7カ所以上の丸		30
五反配47	五反配	218	板材	B区河道8層	衍生後期~古墳前期	83.0	13.0	1.8	二か所に丸		30
五反配48	五反配	219	板材	CN区4層	衍生後期~古墳前期	(60.9)	18.6	1.3			30
五反配49	五反配	220	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	(48.2)	15.2	1.3			30
五反配50	五反配	221	板材	D区木組み4層	衍生後期~古墳前期	(48.0)	9.9	1.6	端部を斜めに加工		30
五反配51	五反配	222	板材	A区8層	衍生後期~古墳前期		6.0	1.2			30
五反配52	五反配	223	板材	B区河道8層	衍生後期~古墳前期		8.3	2.0	端部を斜めに加工		30
五反配53	五反配	291	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	(101.9)	(7.3)	2.7	闇窓をいたして丸 杣に転 用		30
五反配54	五反配	294	板材	C区河道7層	衍生後期~古墳前期	(74.7)	9.5	2.3	長方形の丸4ヶ所 矢板 に転用		30
五反配55	五反配	298	板垣	C区剥離	衍生後期~古墳前期	(84.6)	10.4	3.0	闇窓をいたして丸 斜めの丸		30
五反配56	五反配	244	板材	D区木組み4層	衍生後期~古墳前期	(59.0)	6.0	1.7	斜めの丸		30
五反配57	五反配	264	椽子	D区7層	衍生後期~古墳前期	(141.0)	17.6	3.4			30
五反配58	五反配	265	椽子	CN区7層	衍生後期~古墳前期	(195.2)	17.6	4.0	接地部形は二段		30
五反配59	五反配	266	椽子	C区7層	衍生後期~古墳前期	(91.7)	19.5	4.2	接地部形は二段		30
五反配60	五反配	267	椽子	C区河道7層	衍生後期~古墳前期				丸に転用		30
五反配61	五反配	268	椽子	AB区9層	衍生後期~古墳前期				丸に転用		30
五反配62	五反配	269	椽子	A区木組み	衍生後期~古墳前期				丸に転用		30
五反配63	五反配	270	柱	A区木組み	衍生後期~古墳前期				丸に転用		30
五反配64	五反配	290	柱	A区河道7層	衍生後期~古墳前期		9.4	7.7			30
五反配65	五反配	351	柱	D区河道7層	衍生後期~古墳前期		13.3	11.8	丸に転用		30
五反配66	五反配	352	柱	A区木組み	衍生後期~古墳前期		11.9	7.3	丸に転用		30
五反配67	五反配	353	柱	D区木組み	衍生後期~古墳前期		12.0	7.5	354と接合 杣に転用		30
五反配68	五反配	354	柱	D区木組み	衍生後期~古墳前期		10.4	6.1	353と接合 杣に転用		30
五反配69	五反配	355	柱	B区河道8層	衍生後期~古墳前期		12.7	10.8			30
五反配70	五反配	356	柱	A区木組み	衍生後期~古墳前期				丸に転用		30
大舟V1	大舟V1	192	板垣	IV区	古墳中期~後期	(136.0)	24.0	4.4	柱に転用		30
大舟V2	大舟V2	187	椽子?	IV区	古墳中期~後期	(51.4)	7.2	5.0	スギ 中央がぼぼむ		16
古八幡1	古八幡付近	65-1	水平溝渠?		弥生後期以降	12.2	17.3	3.3	サクラ料?		16
古八幡2	古八幡付近	65-2	板材		弥生後期以降	12.0	17.3	4.0	回転方向に斜めのぼぞ孔		16
古八幡3	古八幡付近	65-3	扉?		弥生後期以降	10.6	13.3	3.3	一端が突出		16
古八幡4	古八幡付近	83-1	疾材?		弥生後期以降	7.0	17.7	4.7	両端に凹溝を描いており、 中央に円形のくりこみ		16
古八幡5	古八幡付近	85-1	梁材?		弥生後期以降	89.0	7.3	5.3	ぼぞ孔の周囲が一段低 い丸に転用		16
古八幡6	古八幡付近	85-5	千手鏡?		弥生後期以降	(87.3)	7.3	6.7	2カ所の長方形の窪み 丸に転用		16
古八幡7	古八幡付近	88-1	板材		弥生後期以降	209.3	22.7	2.1			16
古八幡8	古八幡付近	88-2	板材		弥生後期以降	162.7	26.7	4.0	中央に凸		16
古八幡9	古八幡付近	88-3	板材		弥生後期以降	180.0	25.3	4.0	一端に孔		16
古八幡10	古八幡付近	88-4	板材		弥生後期以降	157.3	16.7	2.7			16
古八幡11	古八幡付近	88-5	板材		弥生後期以降	133.2	17.4	3.0	彫刻を斜めに加工		16
古八幡12	古八幡付近	89-1	板材		弥生後期以降	190.4	21.8	3.2			16
古八幡13	古八幡付近	89-2	板材		弥生後期以降	179.2	12.8	4.2			16
古八幡14	古八幡付近	89-3	板材		弥生後期以降	224.4	20.6	4.8	全体に湾曲		16
古八幡15	古八幡付近	89-4	板材		弥生後期以降	221.6	13.1	2.6			16
古八幡16	古八幡付近	89-5	板材		弥生後期以降	283.2	17.6	2.6	方形の孔		16
古八幡17	古八幡付近	87-1	板材		弥生後期以降	112.0	18.7	2.0	長方形の孔2カ所		16
古八幡18	古八幡付近	87-2	板材		弥生後期以降	132.0	15.3	2.7			16
古八幡19	古八幡付近	87-3	板材		弥生後期以降	128.0	16.0	2.7			16
古八幡20	古八幡付近	84-1	ぼぞ孔材		弥生後期以降	(44.4)	7.8	5.4	丸に転用		16
古八幡21	古八幡付近	84-2	ぼぞ孔材		弥生後期以降	(56.4)	8.4	4.2	丸に転用		16
古八幡22	古八幡付近	84-3	ぼぞ孔材		弥生後期以降	(49.2)	6.6	4.2	丸に転用		16
古八幡23	古八幡付近	91-1	疾材?		弥生後期以降	100.7	25.3	2.1	丸2カ所		16

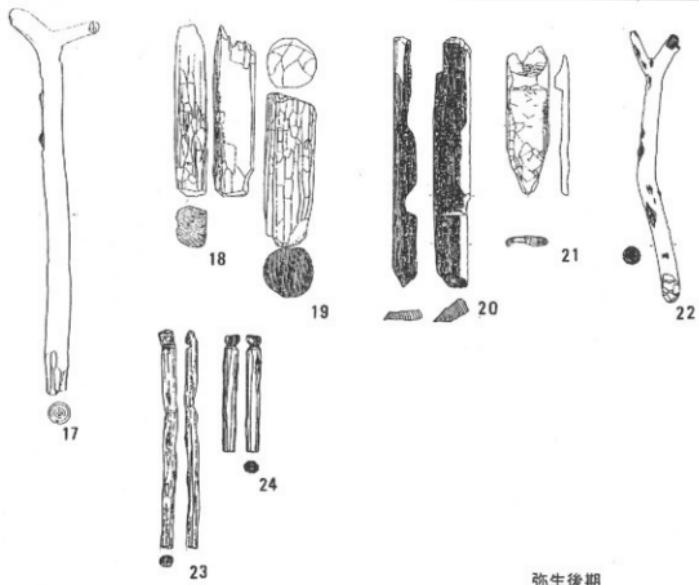
古八幡24	古八幡付近	81-1	端子		弥生後期以降	(127.3)	(4.7)	8.0					18
古八幡25	古八幡付近	81-2	端子		弥生後期以降	(108.7)	12.3	4.0					18
神田1		111-97	まぐこ村	Ⅲ区SD01	古墳中期	(240.0)	20.0	3.5					10
神田2	神田	109-81	板材	Ⅲ区SD01	古墳中期	111.0	24.3	4.0					10
神田3	神田	109-78	板材	Ⅲ区SD01	古墳中期	85.0	18.0	3.0			2つの部材が接合 転用		10
神田4	神田	105-80	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	96.5	27.0	2.3					10
神田5	神田	105-79	板材	Ⅲ区SD01	古墳中期	80.0	30.2	5.0	計字は表べる2種				10
神田6	神田	111-96	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	350.0	20.0	5.0					10
神田7	神田	111-98	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期		25.0	2.5			接面部は二段		10
神田8	神田	107-62	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	109.0	4.2	3.6			ほぞ孔一端を加工		10
神田9	神田	107-63	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	89.0					長方形の孔あり		10
神田10	神田	107-64	板材	Ⅲ区SD01	古墳中期	(89.0)	11.0	4.6			孔2カ所		10
神田11	神田	108-65	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	77.0	14.0	2.0			長方形の孔あり 転用		10
神田12	神田	108-66	端子	Ⅲ区SD01	古墳中期	84.5	10.0	3.5			長方形の孔あり 転用		10
神田13	神田	110-89	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	(171.0)					端子		10
神田14	神田	110-90	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	80.0					端子		10
神田15	神田	110-91	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	69.8					端子		10
神田16	神田	110-92	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	65.5	3.0						10
神田17	神田	110-93	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	189.0					端子		10
神田18	神田	110-94	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	144.5	3.5	2.0					10
神田19	神田	110-95	端木?	Ⅲ区SD01	古墳中期	(121.0)	5.0	3.0	角材				10
夫手1	夫手	83-1	端子	4区	古墳中期～後期	(121.3)	16.0	4.0			ほぞ孔		25
夫手2	夫手	83-2	端子	4区	古墳中期～後期	118.0	10.7	4.6			くり込み		25
夫手3	夫手	84-1	端子	4区	古墳中期～後期	(130.5)	12.2	2.5			頭部に加工 端柱か?		25
夫手4	夫手	84-2	端子	3区	古墳中期～後期	135.0	9.5				角材 長方形の孔		25
夫手5	夫手	78-2	端子	5区	古墳中期～後期	(87.0)	(5.5)	2.5			スギ		25
夫手6	夫手	85-1	柱根	SB01	古墳中期以前						径:12.0		25
夫手7	夫手	85-2	柱根	SB01	古墳中期以前						径:15.2		25
夫手8	夫手	85-3	柱根	SB01	古墳中期以前						径:14.0		25
夫手9	夫手	85-4	柱根	SB02	古墳中期以前						径:12.8 クリ		25
夫手10	夫手	85-5	柱根	SB02	古墳中期以前						径:12.0 クリ		25
夫手11	夫手	85-6	柱根	SB02	古墳中期以前						径:13.2 モミ		25
夫手12	夫手	85-7	柱根	SB02	古墳中期以前						径:12.0 クリ		25
本庄川流域 奥里		22-1	端子	Ⅲ区上層	弥生後期?	133.0	24.0	2.0			平面部が彫形		19
本庄川流域 奥里		21-20	板材	Ⅲ区下層	弥生後期?	125.0	12.8	3.5			ほぞ孔を持つ		19
本庄川流域 奥里		21-21	板材	Ⅲ区下層	弥生後期?	127.7	17.8	4.3					19
本庄川流域 奥里		21-22	端子	Ⅲ区下層	弥生後期?	81.6	12.0	5.6			短軸方向に斜めのほぞ孔		19
前田1	前田	492	鹿の巣	河道C	古墳後期	31.8		3.7			スギ		26
前田2	前田	493	鹿	河道C	古墳後期			3.9					26
前田3	前田	491	端子	河道C	古墳後期	(107.1)	18.6	2.1			ヒノキ		26
前田4	前田	200	端子	貼石遺構付近	古墳後期			1.3					26
前田5	前田	484	端子	河道C	古墳後期	(105.9)	8.0	2.4			孔2カ所 離が無い		26
前田6	前田	485	端子	河道C	古墳後期	120.8	15.8	3.1					26
前田7	前田	489	端子	河道C	古墳後期	(110.0)	11.4	4.4					26
前田8	前田	494	端子	河道C	古墳後期	255.0	14.0	2.5					26
前田9	前田	198	板材	貼石遺構付近	古墳後期	322.0	19.8	6.0					26
前田10	前田	199	板材	貼石遺構付近	古墳後期	304.5	17.6	3.4					26
前田11	前田	504	板材	河道C	古墳後期	162.2	7.8	6.3			板に転用		26
前田12	前田	188	端子	貼石遺構付近	古墳後期	50.9	8.6	3.2			ヒノキ風 ほぞ孔、くり込みを持つ		26
前田13	前田	189	端子	貼石遺構付近	古墳後期	41.8	7.1	3.0					26
前田14	前田	193	端子	貼石遺構付近	古墳後期	51.6	4.2	1.2			内埋にほぞ		26
前田15	前田	194	端子	貼石遺構付近	古墳後期	43.4	8.2	3.0			孔2カ所		26
前田16	前田	470	板材	河道C	古墳後期			5.5			通縫したりくみを持つ		26
前田17	前田	471	板材	河道C	古墳後期			6.4			通縫したりくみを持つ		26
前田18	前田	472	板材	河道C	古墳後期			5.2			通縫したりくみを持つ		26
前田19	前田	473	板材	河道C	古墳後期			6.1			通縫したりくみを持つ		26
前田20	前田	474	板材	河道C	古墳後期	48.2	8.3	1.5			孔4ヶ所		26
前田21	前田	475	端子	河道C	古墳後期	40.8	4.6	1.2			一連を掘り加工		26
前田22	前田	476	端子	河道C	古墳後期	(21.9)					一連をほぞ加工		26
前田23	前田	477	端子	河道C	古墳後期	13.1	8.9	1.8			組合せ部材?		26
前田24	前田	195	灰土?	貼石遺構付近	古墳後期	(57.3)	8.2	4.9					26
前田25	前田	196	板材	貼石遺構付近	古墳後期	80.0	17.7	1.7			長方形の孔		26
前田26	前田	197	板材	貼石遺構付近	古墳後期	83.0	7.9	2.6			長方形の孔 一端を棒状に加工		26
前田27	前田	486	板材	河道C	古墳後期	(112.5)	16.5	2.9			孔2ヶ所		26
前田28	前田	487	板材	河道C	古墳後期	(50.4)	14.4	2.4					26
前田29	前田	488	板材	河道C	古墳後期	65.5	9.6	1.5			長方形の孔		26
前田30	前田	490	板材	河道C	古墳後期	(51.7)	8.3	2.4			通縫したりくみを持つ		26
三田谷1	三田谷1	149-2	梁材?			(144.7)	15.6	10.8			長軸に沿て斜めのほぞ孔		24
三田谷2	三田谷1	145-2	析材?			(130.6)	22.4	4.9			短軸方向に斜めのほぞ孔		24
三田谷3	三田谷1	192-2	析材?	白区		(96.2)	28.8	5.0			短軸方向に斜めのほぞ孔		22
三田谷4	三田谷1	150-1	灰土?			298.3	15.9	7.5			間隔を直して長方形の隙みを持つ		24

三田谷5	三田谷 I	150-2	床材?		(103.1)	11.1	10.6		開閉を置いて長方形の底 みを持ち、中央に台状の 突起がある。全体に溝曲	24
三田谷6	三田谷 I	148-8	水平構造材		(152.1)	11.8	7.0		中央に溝	24
三田谷7	三田谷 I	148-5	水平構造材		(130.5)					24
三田谷8	三田谷 I	153-7	部材		(87.2)	7.2	4.8		中央にぼぞれ	24
三田谷9	三田谷 I	149-3	水平構造材		(169.0)	15.0	9.5		難めのぼぞれ	24
三田谷10	三田谷 I	149-1	水平構造材		122.1	8.0	4.7			24
三田谷11	三田谷 I	146-1	開閉装置		106.1	9.3	4.4			24
三田谷12	三田谷 I	146-2	隔壁遮断材		92.0	8.4	4.1			24
三田谷13	三田谷 I	146-3	部材		(71.0)	13.0	3.3			24
三田谷14	三田谷 I	146-4	部材		(77.2)	15.2	2.0			24
三田谷15	三田谷 I	146-5	部材		(82.0)	10.0	4.5			24
三田谷16	三田谷 I	146-6	部材		(92.1)	16.8	4.0			24
三田谷17	三田谷 I	143-4	部材		107.1	18.1	3.8			24
三田谷18	三田谷 I	143-1	まぐさ材		122.2	18.5	3.6		扉の軸受けを持つ	24
三田谷19	三田谷 I	143-2	蹴放し材		108.5	71.1	4.4		扉の軸受けを持ち、戸当 たりを作り出す	24
三田谷20	三田谷 I	143-3	開閉装置		99.2	15.4	3.8		軸受けを差し込む孔を持 つ	24
三田谷21	三田谷 I	190-1	断熱し材?	B区		19.3	4.5			22
三田谷22	三田谷 I	149-4	水平構造材			19.1	12.4		中央に突起があり、両側 壁に溝を持つ	24
三田谷23	三田谷 I	144-1	扉		(54.1)	(28.9)	4.2			24
三田谷24	三田谷 I	144-2	扉		80.4	27.4	4.3			24
三田谷25	三田谷 I	144-3	扉		(142.7)	(12.5)	4.3		扉面と裏面に掛け痕	24
三田谷26	三田谷 I	193-2	扉	B区	122.4		4.8			22
三田谷27	三田谷 I	148-2	扉		(78.0)		4.0			24
三田谷28	三田谷 I	145-4	扉		148.7	28.4	2.7		方形のくり込み	24
三田谷29	三田谷 I	190-4	壁材	B区	88.0	11.3	3.1		方形のくり込み	22
三田谷30	三田谷 I	148-3	壁材		(139.7)	21.8	3.9		方形のくり込み	24
三田谷31	三田谷 I	145-3	壁材		144.0	25.1	3.0		長辺に沿って開閉を置い て穴が開く	24
三田谷32	三田谷 I	145-1	壁材		81.4	25.6	1.6			24
三田谷33	三田谷 I	192-1	板材	B区	(148.0)	27.2	4.1			22
三田谷34	三田谷 I	73-3	壁材	SD08	(185.3)	14.7	10.5	クリ	4箇所のぼぞれ	23
三田谷35	三田谷 I	73-4	壁材	SD06	168.4	7.4	3.7	スキ		23
三田谷36	三田谷 I	73-5	壁材	SD06	124.0	8.5	5.3			23
三田谷37	三田谷 I	153-6	柱?			径3.2			縫部を長くL字状に加工	24
三田谷38	三田谷 I	152-1	垂木		(117.6)					24
三田谷39	三田谷 I	152-2	垂木		(111.2)					24
三田谷40	三田谷 I	152-3	垂木						縫部を加工	24
三田谷41	三田谷 I	152-4	垂木		(121.6)				縫部を加工	24
三田谷42	三田谷 I	152-5	垂木		(139.2)				縫部を加工	24
三田谷43	三田谷 I	152-6	垂木		(158.8)				縫部を加工	24
タテチヨウフ	タテチヨウフ	80-1	部材		247.8	8.2	7.1	一連を子に加工	4	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	80-2	部材		146.7			縫部をぼぞ加工	4	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W174	壁材		(54.4)	10.6	1.8			4
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W187	垂木?		(50.2)			床材か?	5	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W190	垂木?		112.8	5.4	2.5	一連を加工	5	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W191	垂木?		119.2			縫部を深加工	5	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W192	垂木?		197.2					5
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W193	垂木?		91.8					5
タテチヨウフ	タテチヨウフ	11-2	柱		115.2			縫部が二股に分かれる	3	
タテチヨウフ	タテチヨウフ	73-10	垂木			長径: 9.0 短径: 5.0				5
タテチヨウフ	タテチヨウフ	78-3	部材		(63.1)					4
タテチヨウフ	タテチヨウフ	78-11	部材		(76.8)					4
タテチヨウフ	タテチヨウフ	73-1	垂木		73.6					4
タテチヨウフ	タテチヨウフ	W194	垂木?		130.0	5.8	3.6			4
タテチヨウフ	タテチヨウフ	65-1	垂木	巨区		89.7		縫4.2	カヤ	2
タテチヨウフ	タテチヨウフ	65-2	垂木	風区		89.0		縫4.3		2

*()は現存の寸法を示す

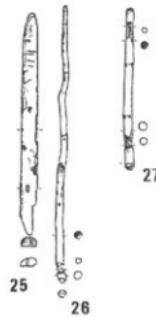
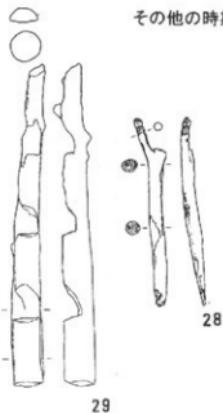
遺跡名	文献番号	報告書名	刊行年	刊行機関
猪目洞窟遺跡	1	「猪目洞窟遺物包含層について」『鳥根県文化財調査報告』第8集	1972	鳥根県教育委員会
タテチョウ遺跡	2	『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ』	1979	鳥根県教育委員会
	3	『タテチョウ遺跡』	1985	松江市教育委員会
	4	『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	1988	鳥根県教育委員会
	5	『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	1990	鳥根県教育委員会
	6	『タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	1992	鳥根県教育委員会
布田遺跡	7	「布田遺跡」『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』	1983	鳥根県教育委員会
	8	『一般国道9号線松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書V(布田遺跡)』	1991	鳥根県教育委員会
上小紋遺跡	9	『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』	1987	鳥根県教育委員会
神田遺跡	10	『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』	1987	鳥根県教育委員会
西川津遺跡	11	『西川津遺跡発掘調査報告書IV(海崎地区2)』	1988	鳥根県教育委員会
	12	『西川津遺跡発掘調査報告書V(海崎地区3)』	1989	鳥根県教育委員会
	13	『西川津遺跡VI』	1999	鳥根県教育委員会
	14	『西川津遺跡IX』	2003	鳥根県教育委員会
神田遺跡	15	『下谷遺跡・神田遺跡』	1994	旌旗町教育委員会
大倉IV遺跡	16	『大倉IV遺跡・綿田原I遺跡』	1997	斐川町教育委員会
天神遺跡	17	『天神遺跡第7次発掘調査報告書』	1997	出雲市教育委員会
古八幡付近遺跡	18	『嘉久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡』	1997	鳥根県教育委員会
本庄川流域里遺跡	19	『荒船古墳群・荒船遺跡・本庄川流域里遺跡(2)』	1998	鳥根県教育委員会
姫原西遺跡	20	『姫原西遺跡』	1999	鳥根県教育委員会
蔵小路西遺跡	21	『蔵小路西遺跡』	1999	鳥根県教育委員会
三田谷I遺跡	22	『三田谷I遺跡(Vol.1)』	1999	鳥根県教育委員会
	23	『三田谷I遺跡(Vol.2)』	2000	鳥根県教育委員会
	24	『三田谷I遺跡(Vol.3)』	2000	鳥根県教育委員会
夫手遺跡	25	『手角地区ふるさと農道整備事業に伴う夫手遺跡発掘調査報告書』	2000	松江市教育委員会
前田遺跡	26	『前田遺跡(第II調査区) 一般国道432号道路改良工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』	2001	八雲町教育委員会
海上遺跡	27	『海上遺跡』	2002	出雲市教育委員会
大坪遺跡	28	『大坪遺跡発掘調査報告書』	2002	松江市教育委員会
田中谷遺跡	29	『田中谷遺跡・塚山古墳・下がり松遺跡・角谷遺跡』	2002	鳥根県教育委員会
五反配遺跡	30	『五反配遺跡』	2004	鳥根県教育委員会
石田遺跡	31	『石田遺跡発掘調査報告書 松江市文化財調査報告書第95集』	2004	松江市教育委員会
論文・参考文献				
執筆者・編集者		文献名	刊行年	刊行機関
宮本長二郎	32	「上小紋遺跡出土建築部材について」『北松江幹線新設工事・松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 pp.343~345	1987	鳥根県教育委員会
宮本長二郎	33	『原始古代の住居建築』	1996	中央公論美術出版
島取県教育委員会	34	『第5回妻木晚田シンポジウム 弥生の住まいを探る—建築技術と生活空間—』	2004	島取県教育委員会
大社町教育委員会	35	『出雲大社境内遺跡』	2004	大社町教育委員会





弥生後期

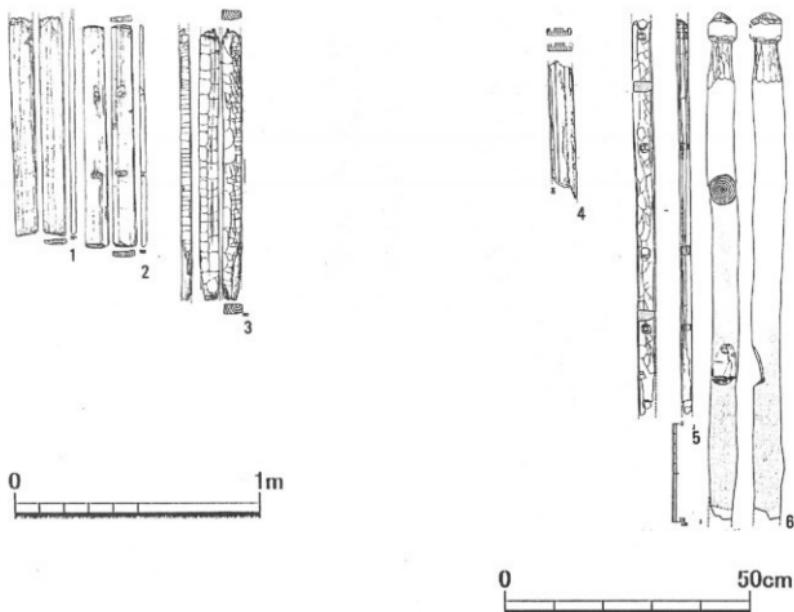
その他の時期



遺跡名：布田遺跡

所在地：松江市竹矢町

弥生時代中期後葉



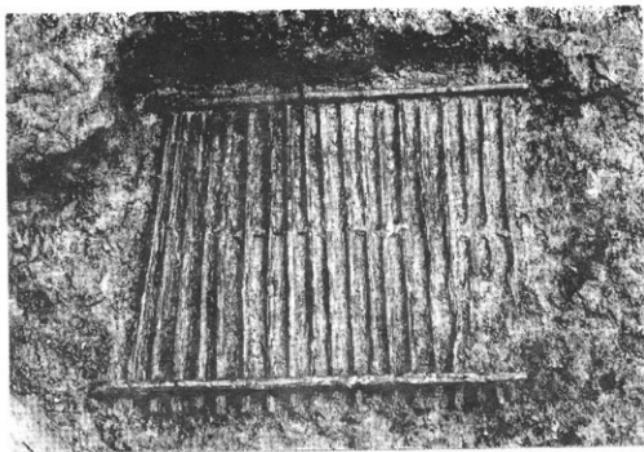
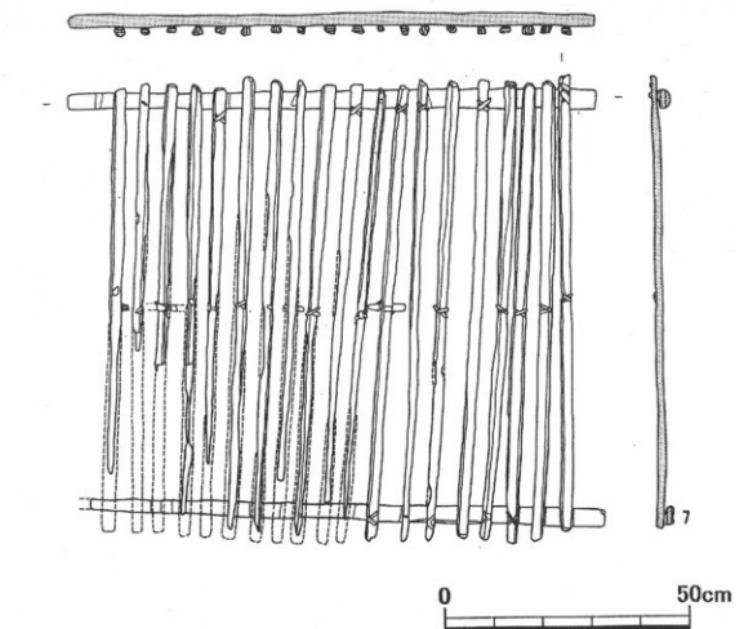
遺跡名：大坪遺跡

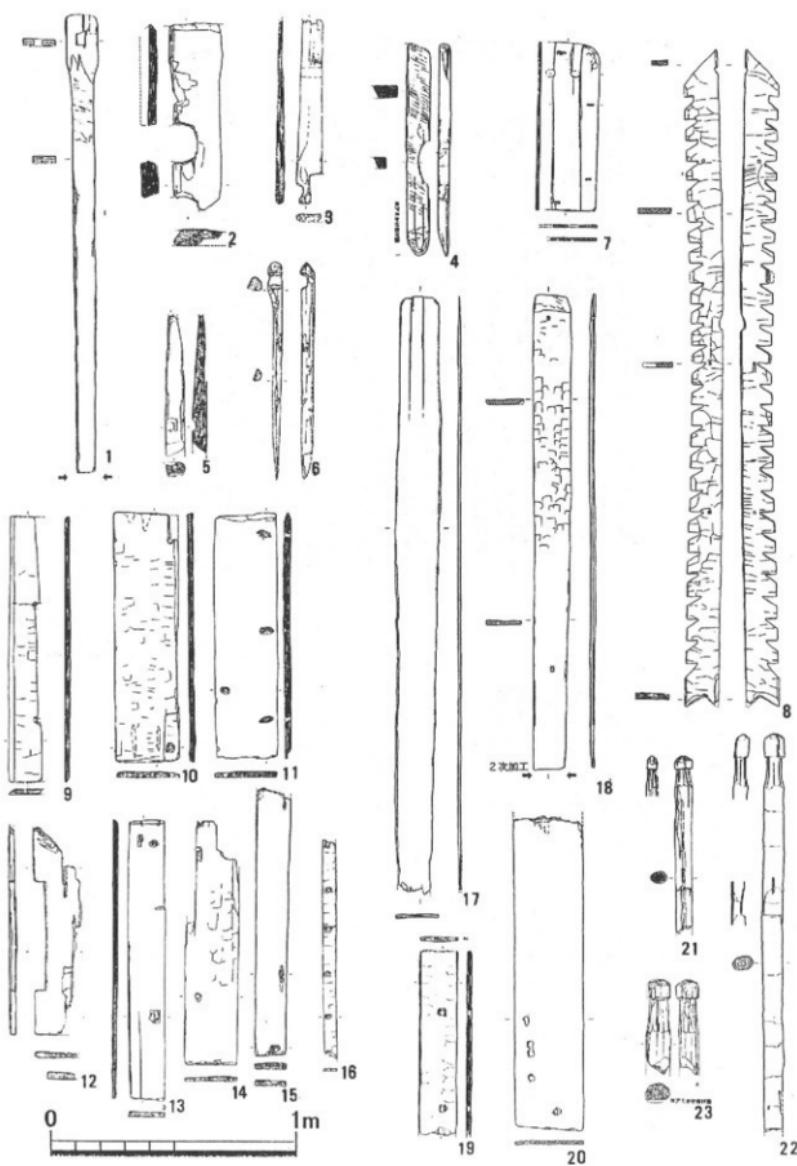
所在地：松江市山代町・大草町 弥生時代中期後葉以降

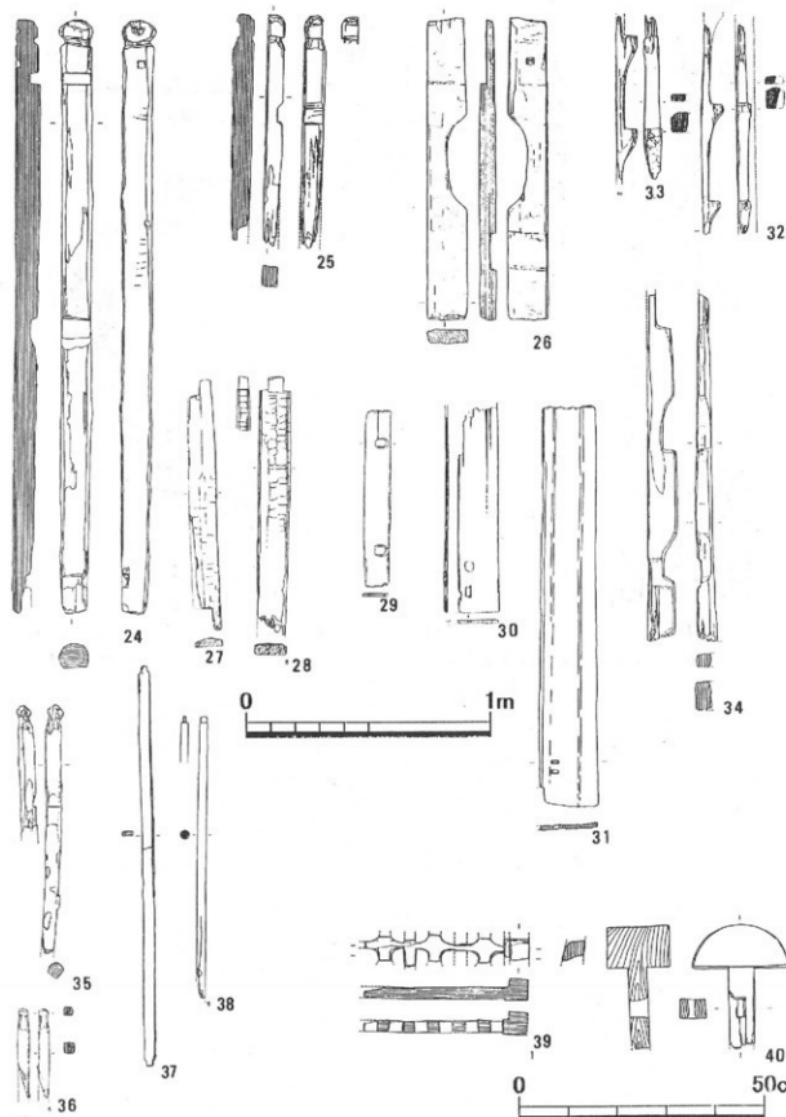


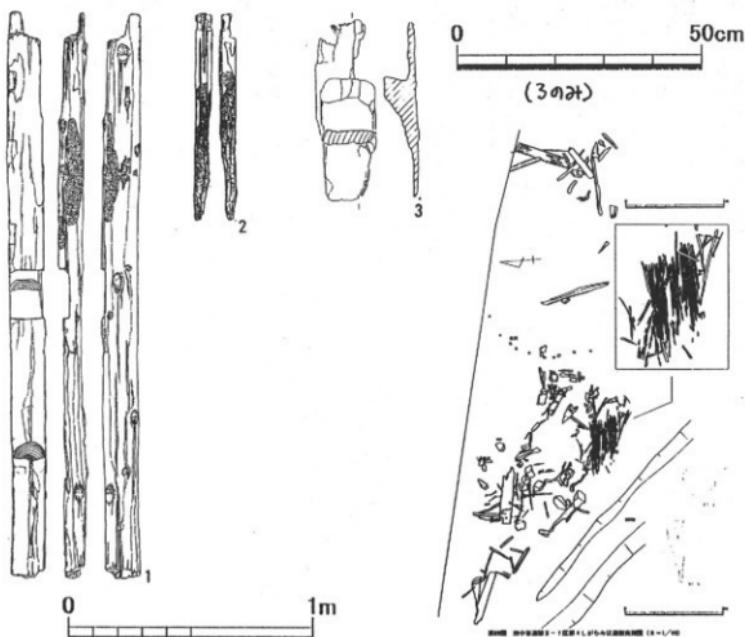
番号	遺跡名	報告書の特因 番号	種別	地区・遺構・ 層位	時代	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	その他 寸法 (cm)	備考
布田1	布田	787	板材	河道2層	弥生中期後葉以前	(89.6)	9.4	2.2		
布田2	布田	788	板材	河道2層	弥生中期後葉以前	90.7	9.2	2.5		間隔をおいて 2ヶ所の孔
布田3	布田	790	板材	河道2層	弥生中期後葉以前	(110.5)	8.8	4.0		
布田4	布田	942	板材	河道3層	弥生中期後葉以前	(28.3)	5.0	1.7		2条の溝 壁受け材か？
布田5	布田	174-2	板材	IVB区包含層	弥生中期後葉	(80.6)	4.0	2.0		
布田6	布田	174-3	楓木	IVB区包含層	弥生中期後葉	103.5			径6.0	
布田7	布田	176	組合せ材	IVB区包含層	弥生中期後葉	88.4	77.6	3.6		
大坪1	大坪	61-1	板材	Aグリッド	弥生中期後葉以前	(59.0)	9.0	0.9		

布田遺跡





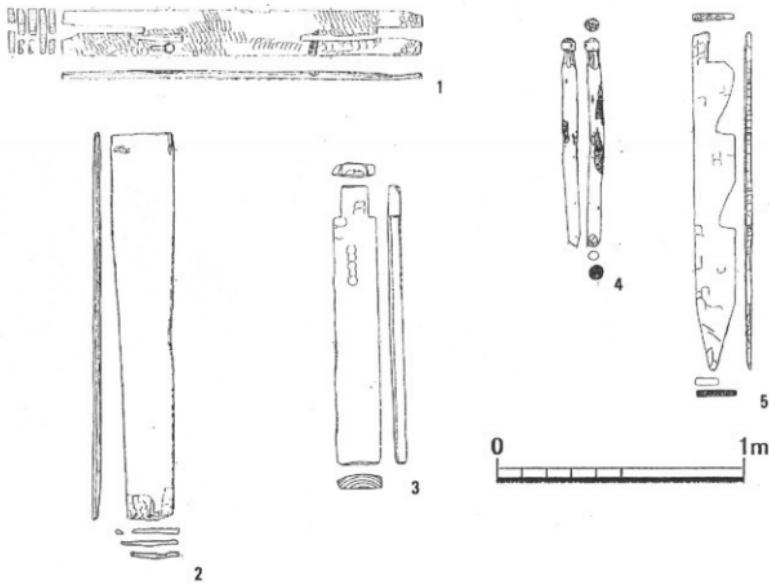




遺跡名：稗田遺跡

所在地：八東郡鹿島町

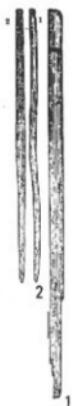
弥生時代後期

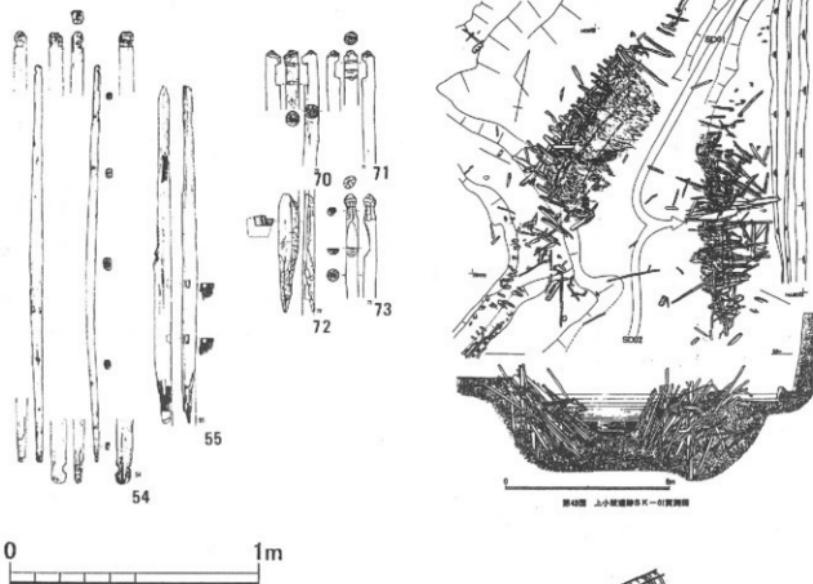


遺跡名：猪目洞窟遺跡

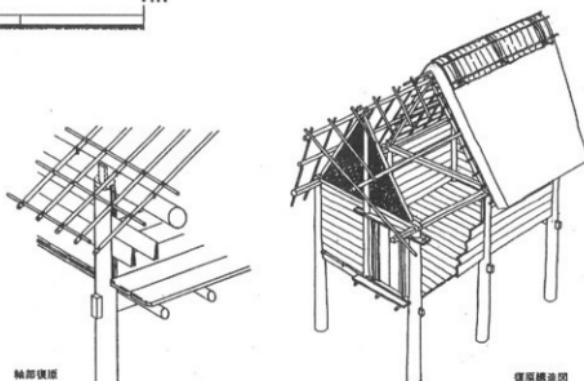
所在地：平田市猪目町

古墳時代中期





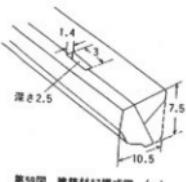
第43図 上小紋遺跡5K-01実測図



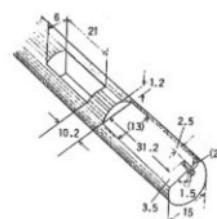
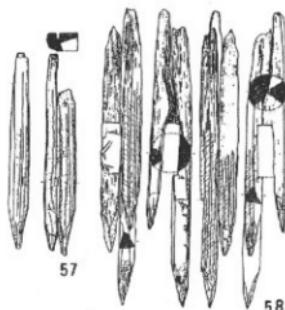
復原構造図 (文献33より)

図7 鳥取県上小紋遺跡出土建築部材と復原

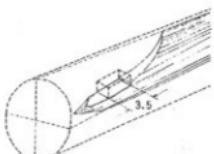
上小紋遺跡



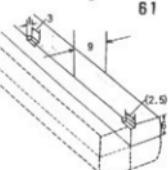
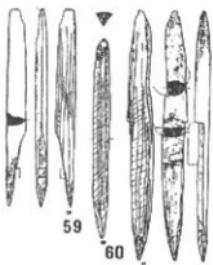
第57図 建築材57模式図 (cm)



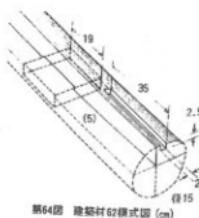
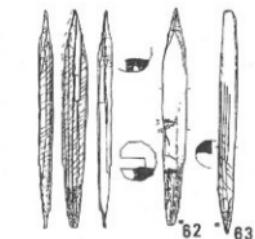
第58図 建築材58模式図 (cm)



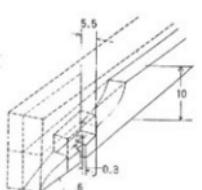
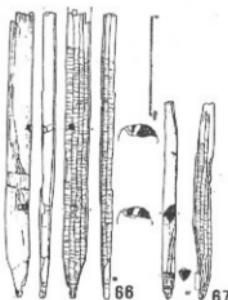
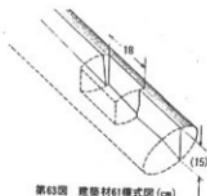
第62図 建築材59模式図 (cm)



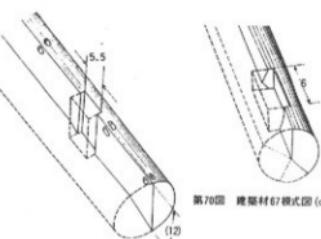
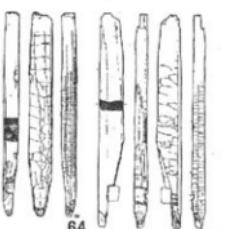
第64図 建築材61模式図 (cm)



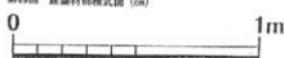
第64図 建築材62模式図 (cm)



第67図 建築材64模式図 (cm)



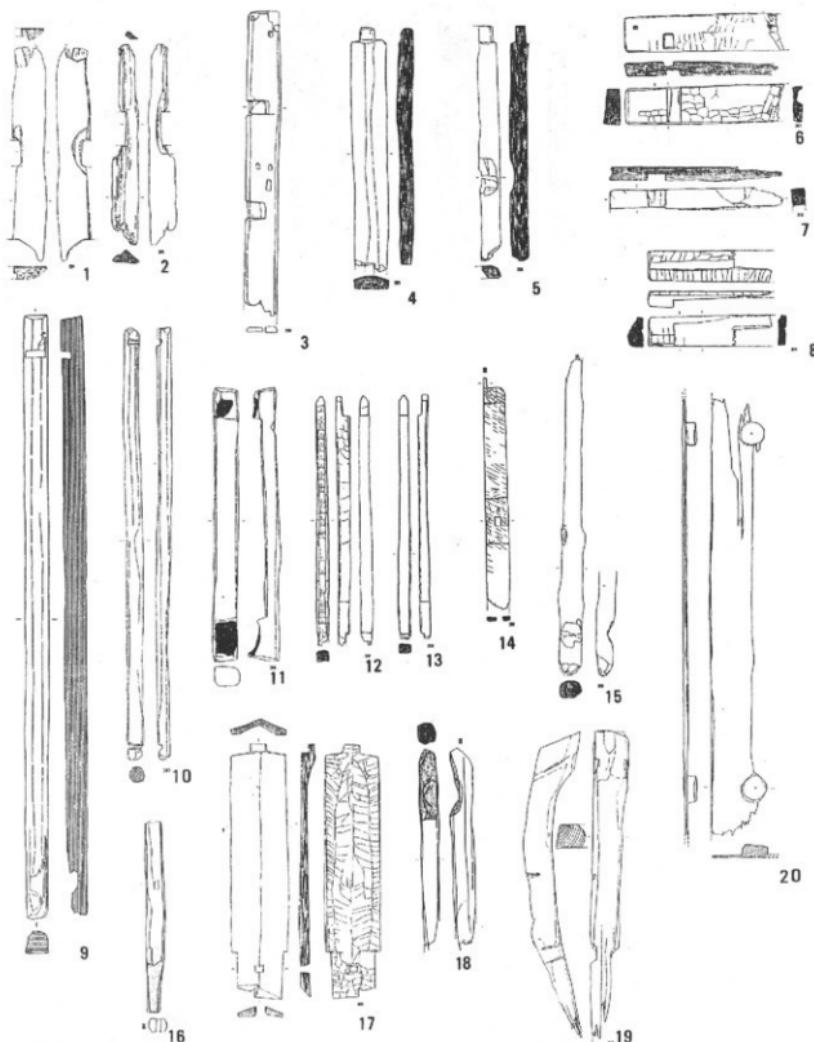
第69図 建築材65模式図 (cm)



遺跡名：五反配遺跡

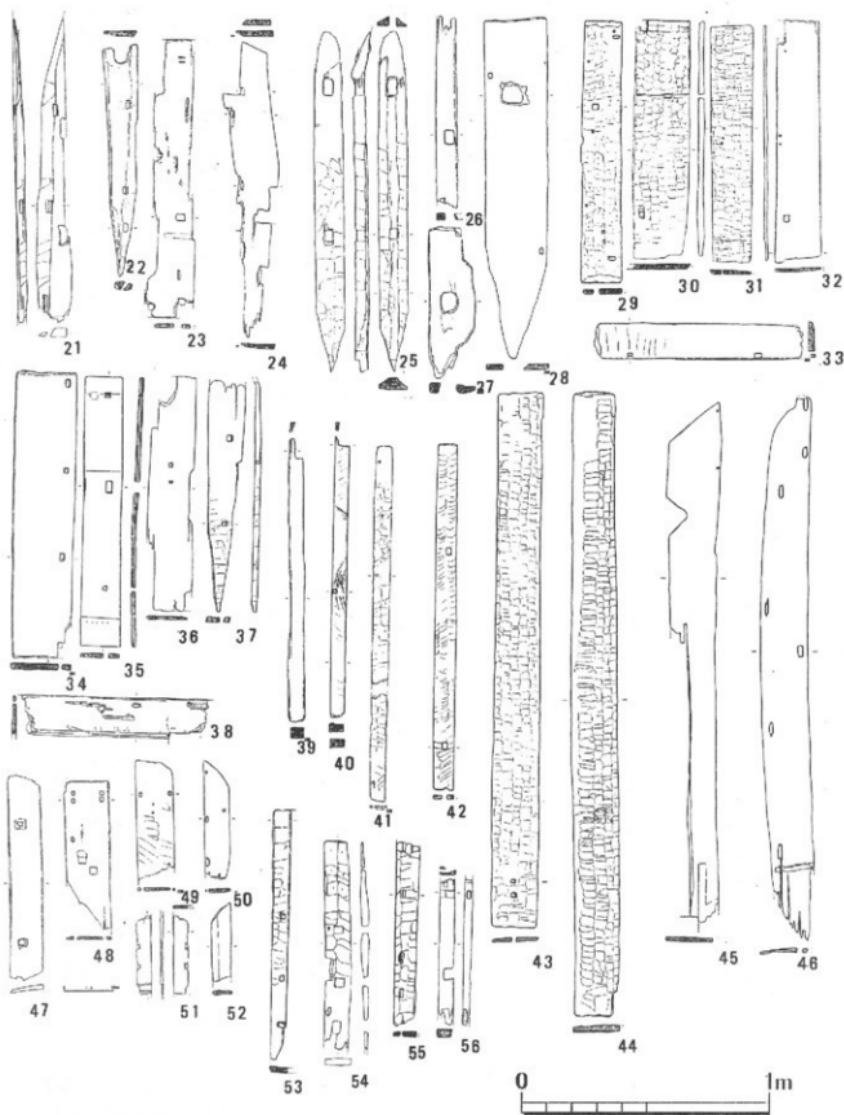
所在地：篠川郡大社町

弥生時代後期～古墳時代前期

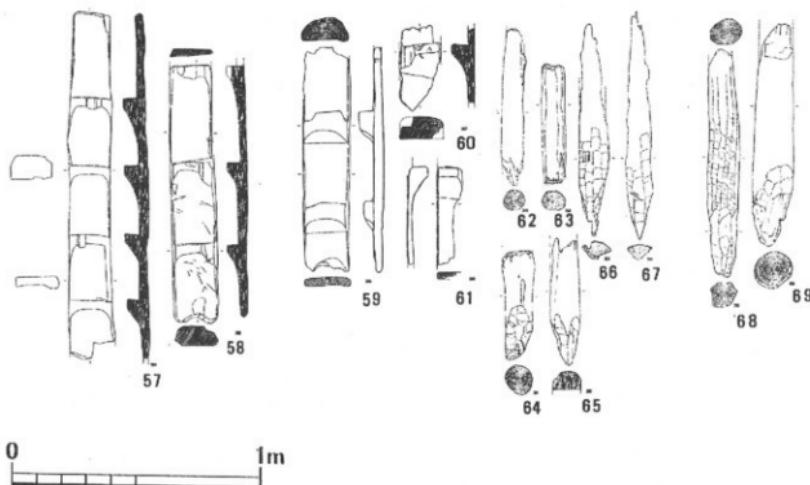


0 1m

五反配遺跡



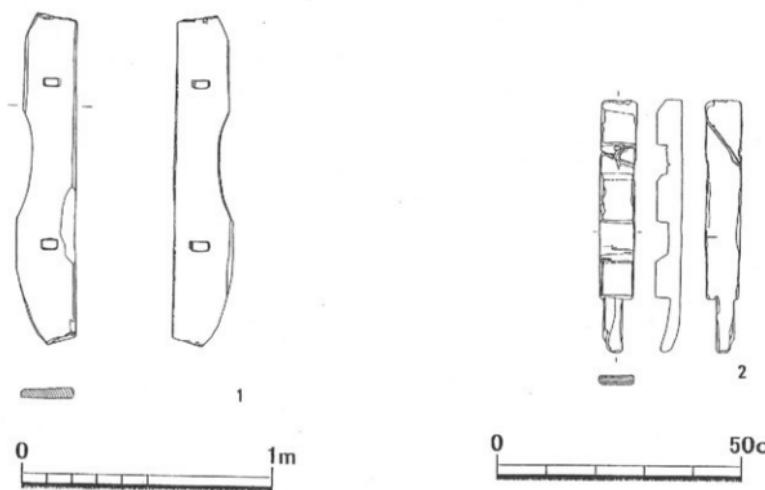
五反配遺跡

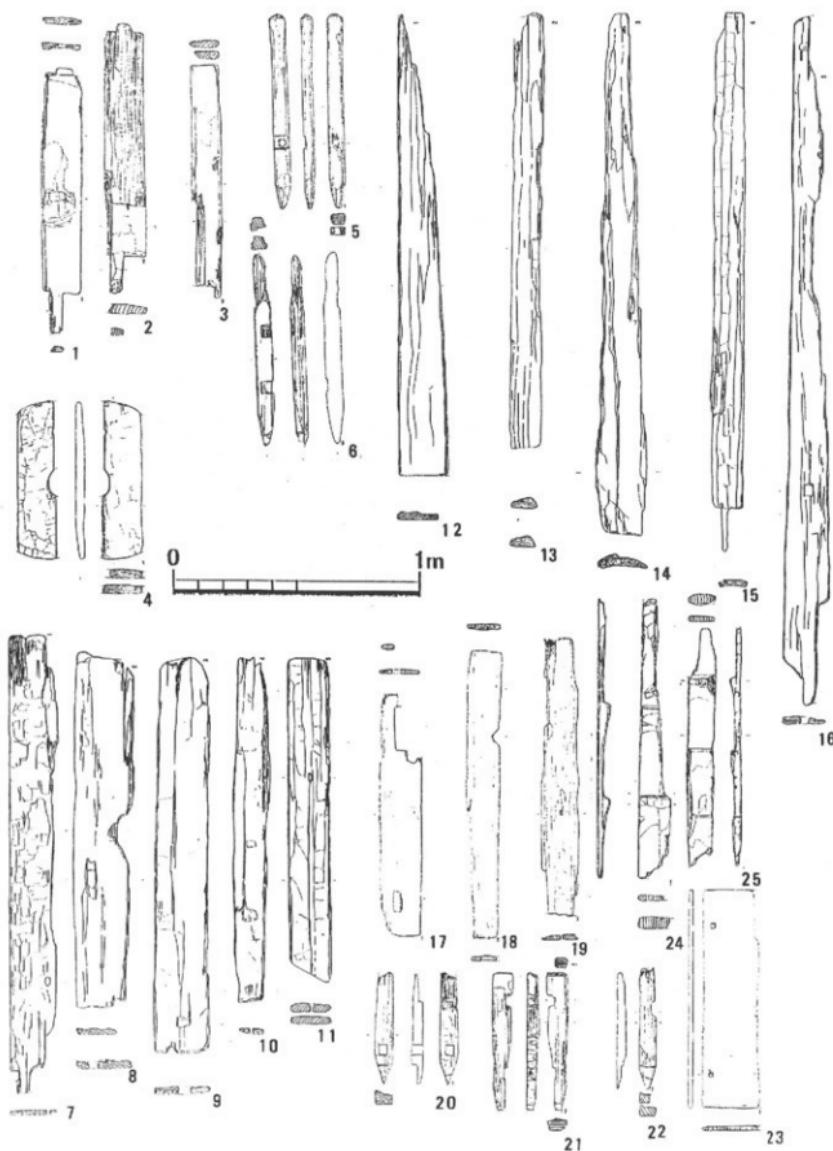


遺跡名：大倉IV遺跡

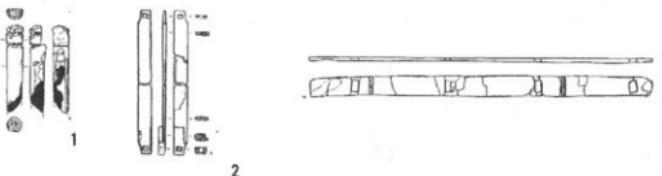
所在地：篠川郡斐川町

古墳時代後期以降





遺跡名：姫原西遺跡 所在地：出雲市姫原町 弥生時代後期～古墳時代前期



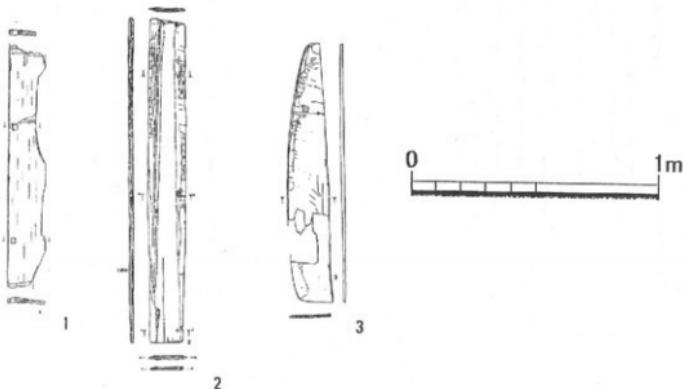
遺跡名：天神遺跡 所在地：出雲市上塙治町 弥生時代中期後葉

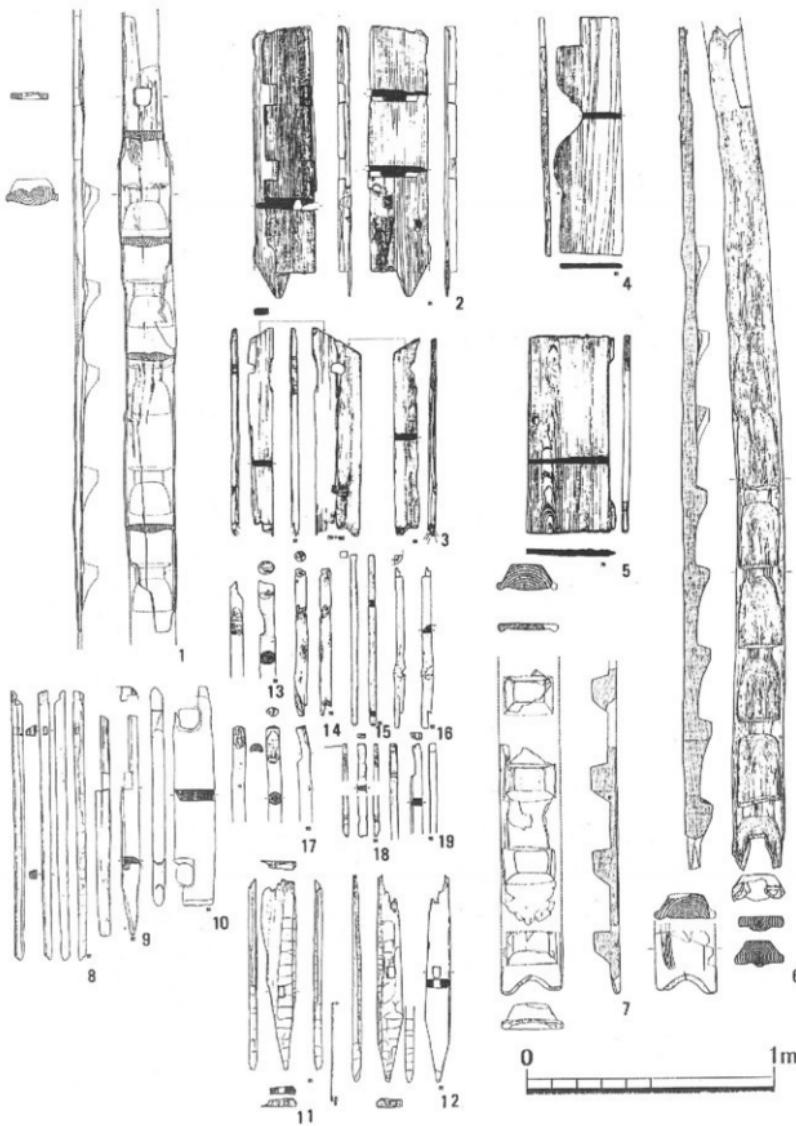


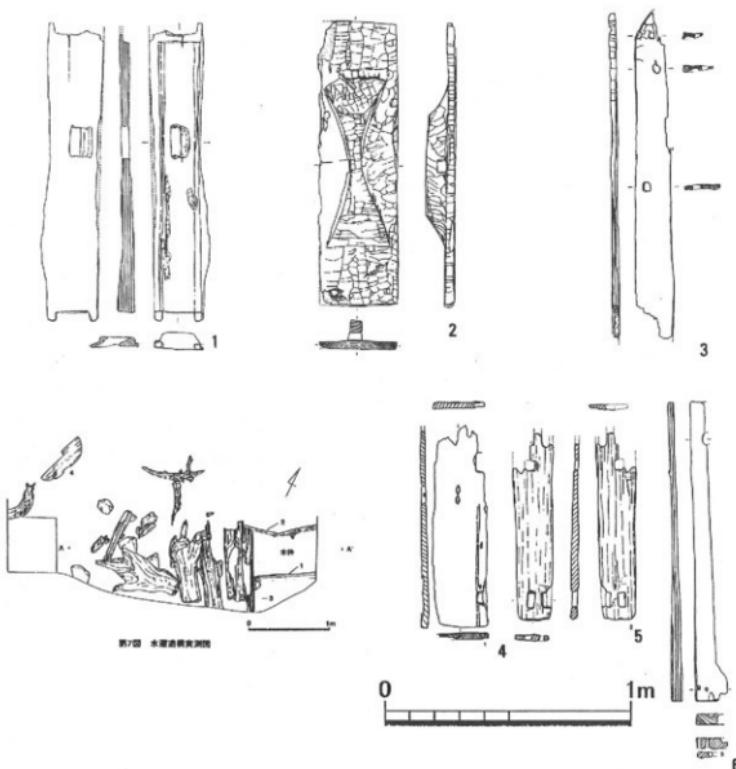
番号	遺跡名	母台番号の跡回 番号	種別	地区・遺 場・層位	時代	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	その他の寸 法	樹種	備考
姫原西1	姫原西	119-7	垂木	10e層	弥生後期～古墳初期				径:6.0	ツバキ属	焦げた部分あり
姫原西2	姫原西	136-5	板材	17層	弥生後期～古墳初期	58.8	5.4	3.0	穿孔の間は 53.4	スギ	
姫原西3	姫原西	130-7	板材	10c層	弥生後期～古墳初期	138.4	8.8	1.6	穿孔の間は 33.6～39.2	トネリコ属	間隔をおいて4 カ所の孔
天神1	天神7次	88-33	板材		弥生中期後葉	91.0	6.5	2.5		スギ	間隔をおいて 2ヶ所の孔
藏小路西1	藏小路西	40-3	板材	A区河道	古墳前期末以前	(105.5)	15.9	2.7			孔2ヶ所
藏小路西2	藏小路西	223-2	板材	F2区河道	古墳前期	140.3	15.8	1.5			長辺に沿って 3ヶ所の孔
藏小路西3	藏小路西	223-3	板材	F2区河道	古墳前期	106.4	18.0	1.5			側面が張を描く

1

遺跡名：藏小路西遺跡 所在地：出雲市渡櫻町 古墳時代前期

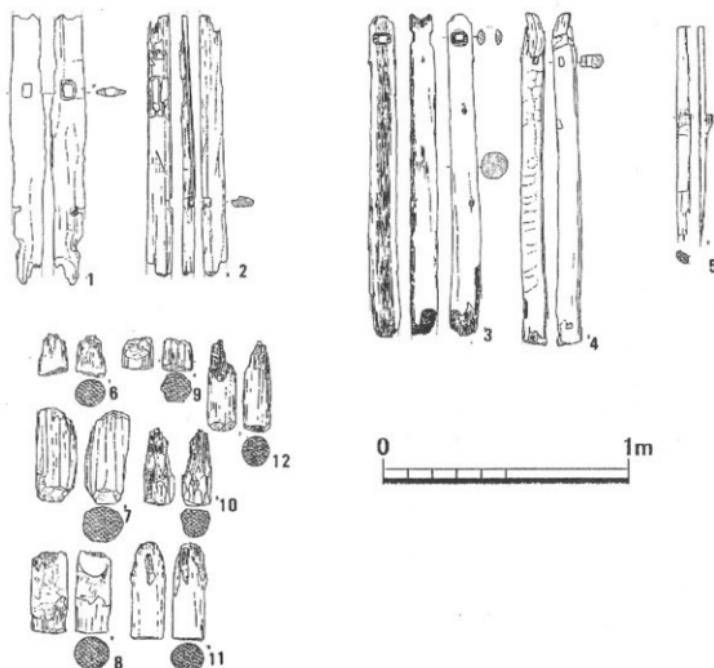




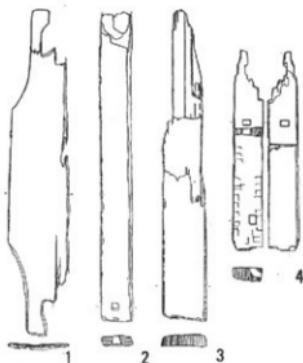


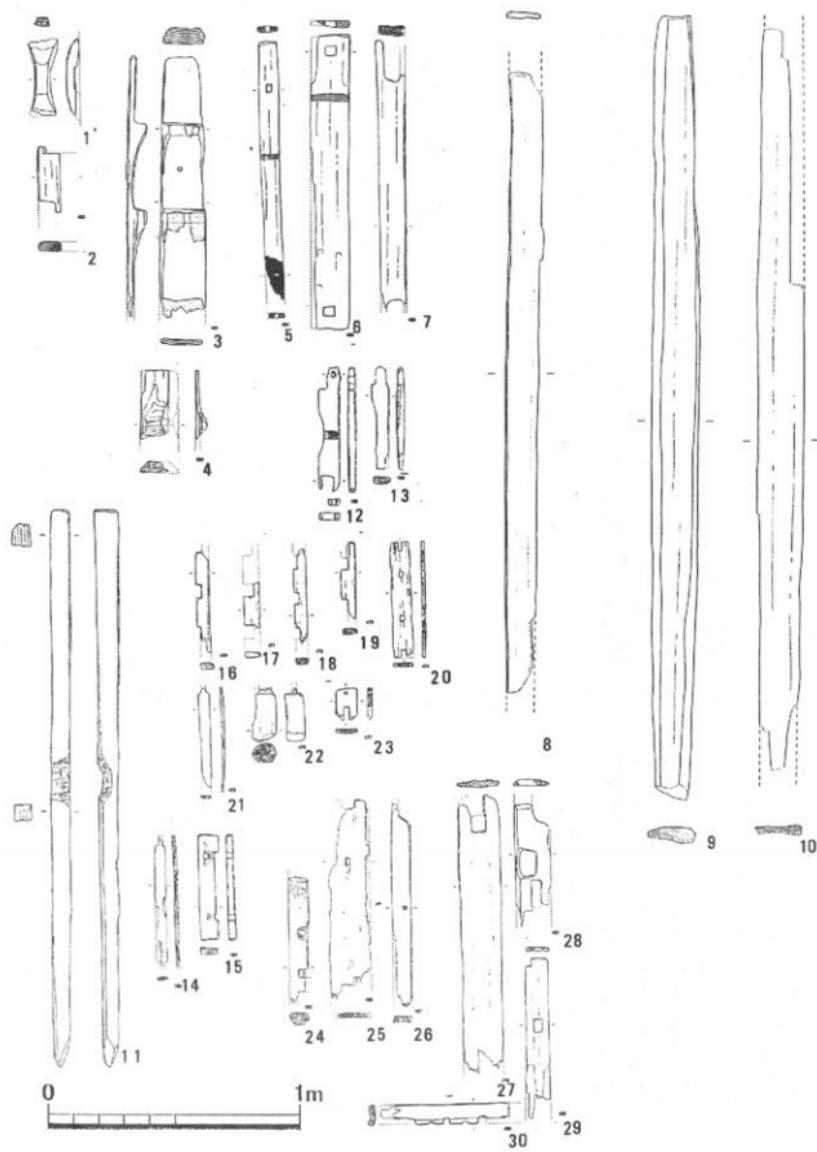
挿図番号	遺跡名	報告書の挿図番号	種別	地区・遺構・層位	時代	長さ	幅	厚さ	樹種	備考
石田1	石田	19-127	板材？	Bゾーン	古墳中期	(121.7)	23.0	7.0		中央に短軸に沿って斜めのぼぞ孔
石田2	石田	31-321	屏	Bゾーン2区	古墳中期	117.0	32.6	3.5	モミ属	門を作り出す
石田3	石田	31-323	板材	Bゾーン2区北	古墳中期	(133.0)	15.0	3.2		
石田4	石田	8-1	板材	Aゾーン水溝まり	古墳中期末	(84.8)	22.0	3.0		板材に転用
石田5	石田	8-2	板材	Aゾーン水溝まり	古墳中期末	(76.8)	16.2	3.2		板材に転用
石田6	石田	8-3	板材	Aゾーン水溝まり	古墳中期末	125.8	13.6	4.5		板材に転用

遺跡名：夫手(それで)遺跡　所在地：松江市手角町　古墳時代中期～後期



遺跡名：本庄川流域条里遺跡　所在地：松江市本庄村　弥生時代後期？

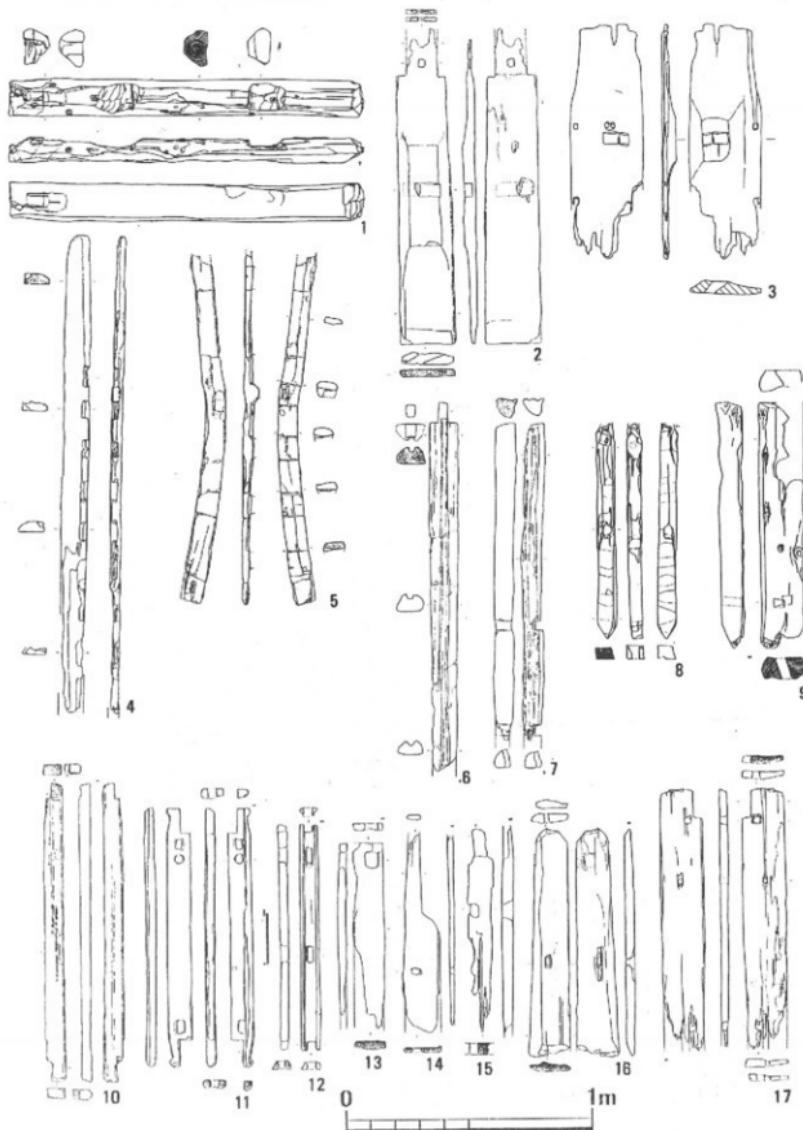




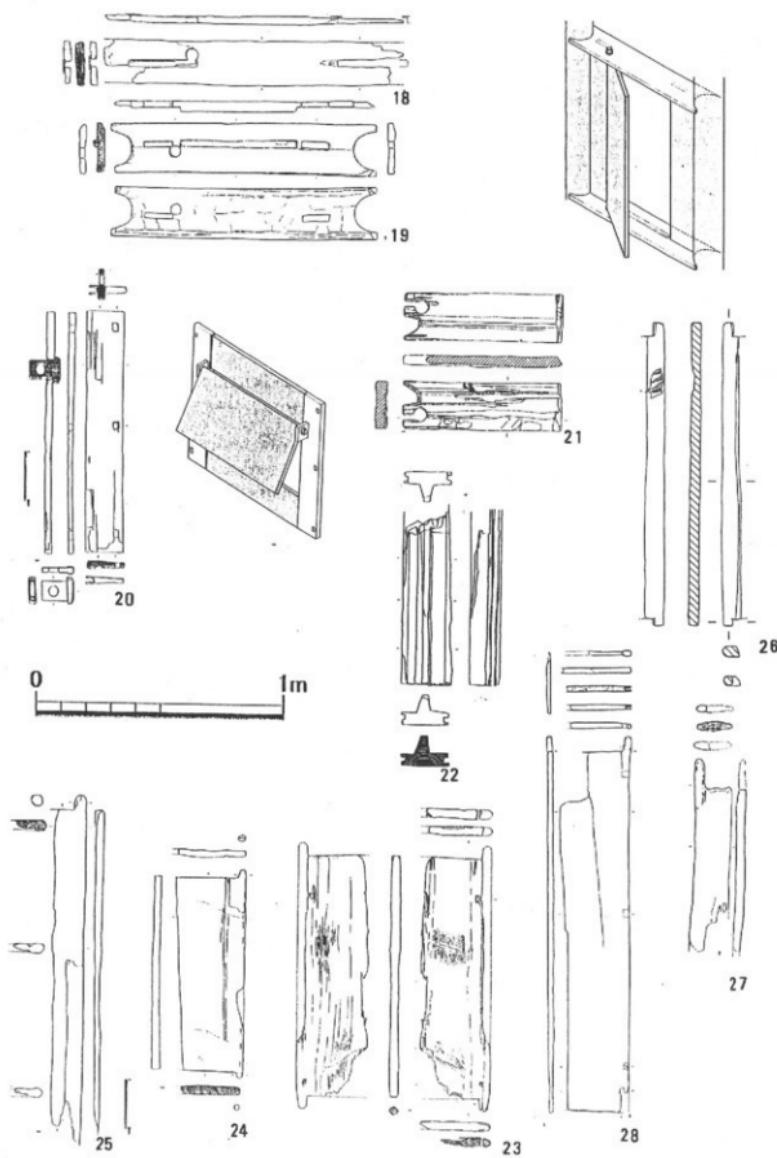
遺跡名：三田谷 I 遺跡

所在地：出雲市上塙治町

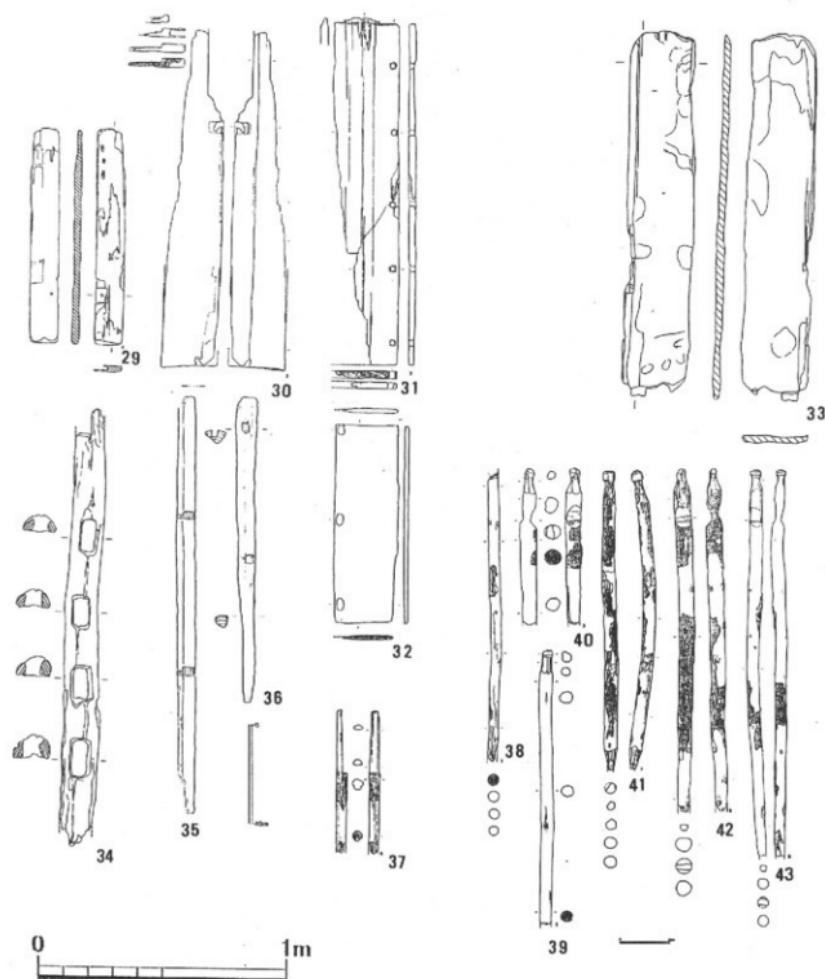
古墳時代後期以降

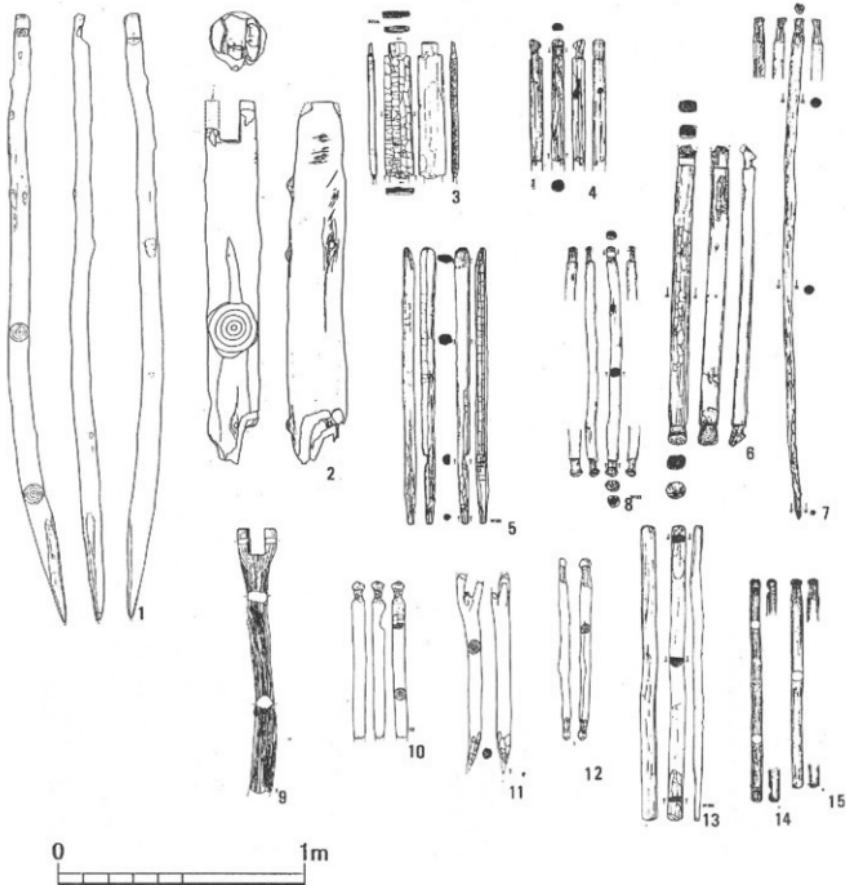


三田谷 I 遺跡



三田谷 I 遺跡





岡山県の概要

扇崎 由

山陽地方では、建築材の出土遺跡が岡山県下に集中し、なおかつ弥生中期から後期の建築材が大半であるので、時代別の特徴を細かく対比できる状況ではない。

縄文時代の建築材はあきらかなものはない。

弥生時代前期の資料は、岡山市百間川原尾島遺跡からはしごが1点出土しているのみである。カバノキ類似種の半裁材を用いている。

弥生時代中期では、岡山市百間川今谷遺跡・百間川兼基遺跡・南方（済生会）遺跡から建築材が出土している。扉板・はじご・又柱・横架材・垂木・有孔板・斜め切りの板材などがある。仕口は輪薙込・ほぞ・ほぞ孔・斜めほぞ孔・欠込・相欠・斜め相欠・抉り・溝・貫通孔・非貫通孔などがみられる。木取りは心持ち・半裁・又部・柵目・板目それぞれがあるが、管見の限りでは辺材部のみの使用はない。南方（済生会）遺跡の建築材・雑木類には、マツ属不明・ニヨウマツ類・モミ属・ツガ属・スギ・コウヤマキ・ヒノキ科・ヒノキ属・アスナロ属・マキ属・イヌガヤ・イチ・カヤ・ヤナギ属・クヌギ節・コナラ節・アカガシ亜属・クリ・シイノキ属・ムクノキ・エノキ属・ニレ属・ケヤキ・ヤマグワ・イチジク属・クスノキ科・サクラ属・モモ・ユズリハ属・ゴンズイ属・ツバキ属・サカキ属・ヒサカキ属がある（藤井ほか2003）。

弥生時代後期では、岡山市津島遺跡・倉敷市上東遺跡・総社市窪木遺跡などから出土している。柱・支柱・横架材・垂木・板・扉板・蹴放し・まぐさ・ほしご・有孔板・斜め切りの板などがみられ、貫穴のある柱・かんぬきのある扉板・長押（台輪）がこの時期から出現する。仕口では輪薙込・貫穴・ほぞ・ほぞ孔・欠込・相欠・抉り・貫通孔・非貫通孔・溝などがみられる。木取りは、心持ち・半裁・又部・柵目・板目それぞれがある。樹種では、ニヨウマツ類・アカマツ・モミ属・ツガ属・スギ・コウヤマキ・ヒノキ科・ネズミサシ・ヒノキ・マキ属・ブナ属・コナラ節・カシワ・アカガシ亜属・クリ・シイ属・スダジイ・ツラジイ・ケヤキ・カツラ・ヤブツバキ・ヒメシャラ・サカキ・ウリカエデ・シャシャンボなどが用いられている。又柱は広葉樹が使われるが、ほぞ組の柱は針葉樹ニヨウマツ類が用いられている。津島遺跡では貫穴柱・支柱・はしご・板・垂木・横架材・壁などを構成するとみられる構造材などがまとまって出土し、高床建物の復原がされている。

弥生時代後期末から古墳時代初期では、スギ・マツ・エノキ属の有孔板が出土している。

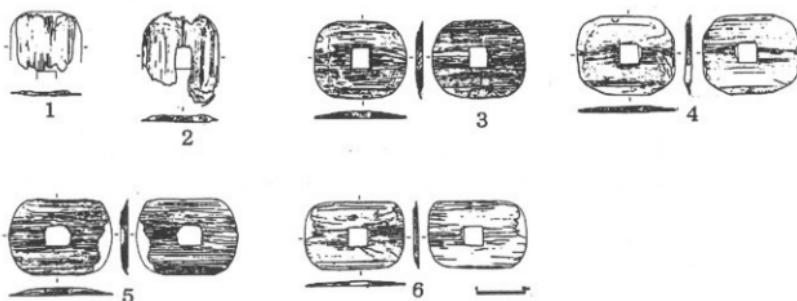
古墳時代前期では欠込のあるモミの横架材、コナラのはしご・カヤの柱などがある。

古墳時代後期から飛鳥時代には、モミのまぐさ・ヒノキ亜科の扉板などがあり、板材や丸太材などにイヌガヤ・タブノキ・クヌギ節・アカガシ・クリ・タブノキ・ヤマザクラ?・クマシデ属が使われている。

仕口総括表

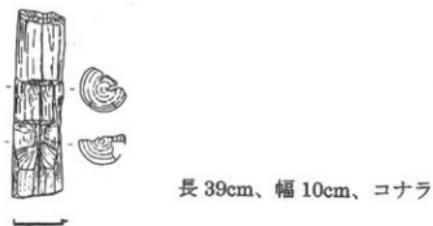
時代	貫穴	欠込	相欠	ほぞ	輪薙込	溝	抉り	非貫通孔	渡りあご
弥生中期	○	○	○	○	○	○	○	○	
弥生後期	○	○	○	○	○	○	○	○	
古墳	○	○	○	○					

遺跡名：斎富遺跡 所在地：岡山県赤磐郡山陽町 古墳後期～飛鳥
文献：『斎富遺跡』 1996 岡山県教育委員会



- 1 ねずみ返し、長 24.3cm、24.1cm、ヤマザクラ?
- 2 ねずみ返し、長 36.9cm、31.5cm、ヤマザクラ?
- 3 ねずみ返し、長 38.1cm、32cm、ヤマザクラ?
- 4 ねずみ返し、長 39.8cm、32.5cm、ヤマザクラ?
- 5 ねずみ返し、長 41.5cm、31.6cm、ヤマザクラ?
- 6 ねずみ返し、長 40.9cm、28.6cm、ヤマザクラ?

遺跡名：百間川米田遺跡 所在地：岡山県岡山市 古墳時代初頭
文献：『百間川米田遺跡4』 2002 岡山県教育委員会



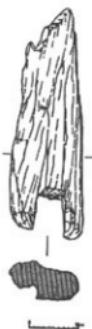
長 39cm、幅 10cm、コナラ

遺跡名：百間川今谷遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代中期

文献：『百間川兼基遺跡1百間川今谷遺跡1』 1982 岡山県教育委員会



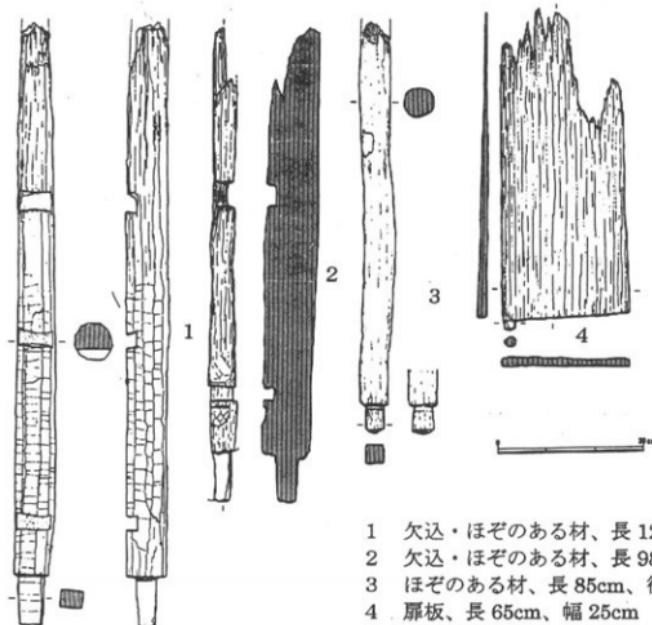
輪縫込みのある材、長 47cm、径 14cm

遺跡名：百間川兼基遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代中期

文献：『百間川兼基遺跡1百間川今谷遺跡1』 1982 岡山県教育委員会



1 欠込・ほぞのある材、長 124cm、径 7.5cm

2 欠込・ほぞのある材、長 98cm、幅 11cm

3 ほぞのある材、長 85cm、径 6 cm

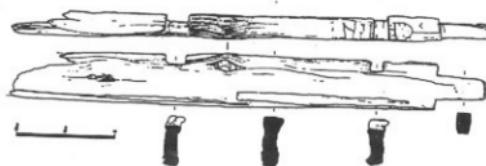
4 扉板、長 65cm、幅 25cm

遺跡名：百間川沢田遺跡

所在地：岡山県岡山市

古墳時代前期

文献：『百間川沢田遺跡2百間川長谷遺跡2』 1985 岡山県教育委員会



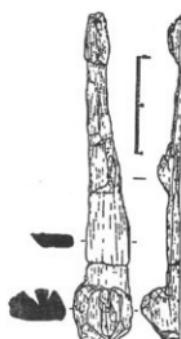
欠込・ほぞのある材、長 96.7cm、幅 11cm、モミ

遺跡名：百間川沢田遺跡

所在地：岡山県岡山市

古墳時代前期

文献：『百間川沢田遺跡2百間川長谷遺跡2』 1985 岡山県教育委員会



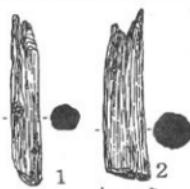
はしご、長 68cm、幅 11.9cm、コナラ

遺跡名：百間川沢田遺跡

所在地：岡山県岡山市

古墳時代前期

文献：『百間川沢田遺跡2百間川長谷遺跡2』 1985 岡山県教育委員会



1 柱根、長 35.5cm、径 6 cm、カヤ

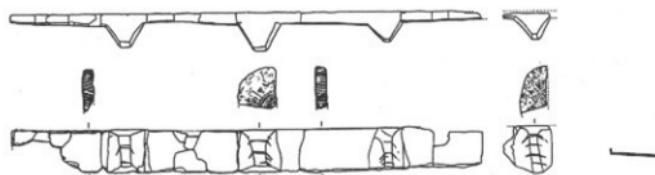
2 柱根、長 36cm、径 9 cm、カヤ

遺跡名：百間川原尾島遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代前期

文献：『百間川原尾島遺跡4』 1995 岡山県教育委員会



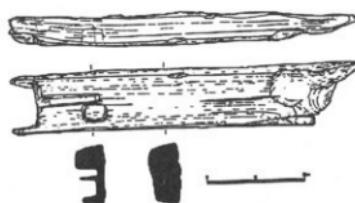
はしご、長 115cm、幅 10.6cm、カバノキ属類似種

遺跡名：百間川原尾島遺跡

所在地：岡山県岡山市

古墳時代後期

文献：『百間川原尾島遺跡2』 1984 岡山県教育委員会



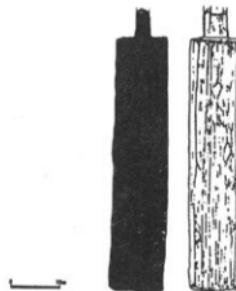
まぐさ材、長 70.5cm、幅 12.3cm、モミ

遺跡名：百間川原尾島遺跡

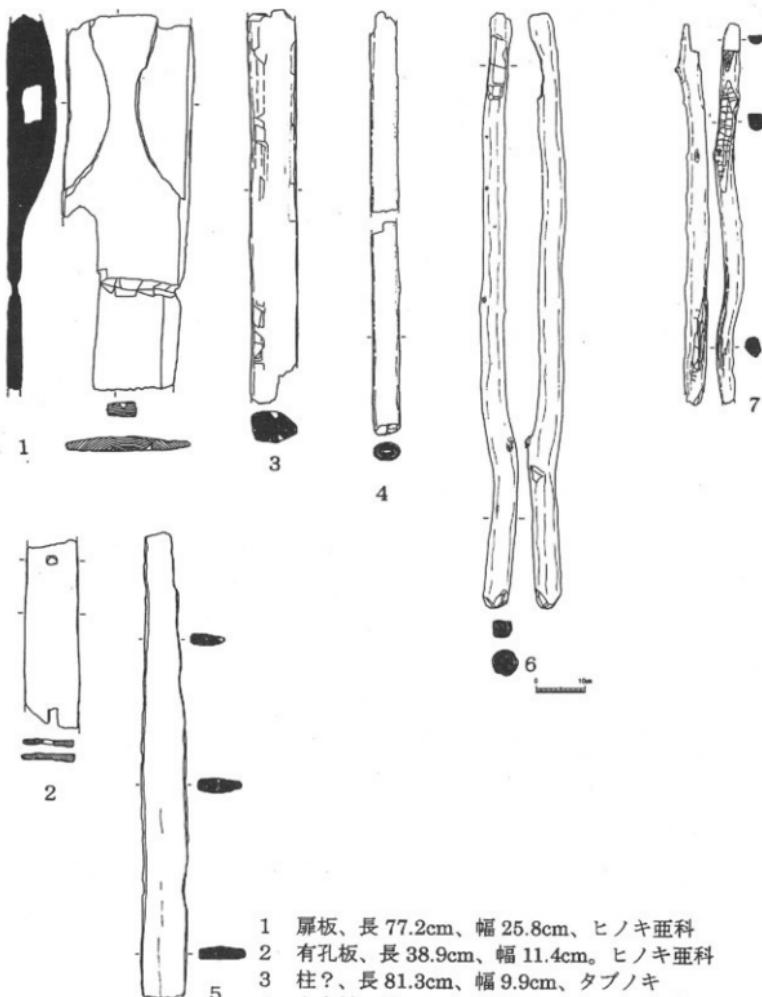
所在地：岡山県岡山市

古墳時代後期

文献：『旭川放水路(百間川)改修工事に伴う発掘調査1』 1980 岡山県教育委員会

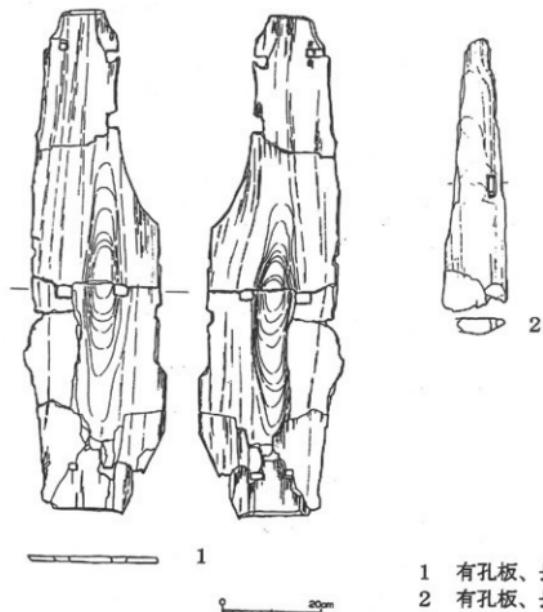


ほぞ・ほぞ孔のある材、長 58cm、径 11cm、アカガシ



- 1 扉板、長 77.2cm、幅 25.8cm、ヒノキ亜科
- 2 有孔板、長 38.9cm、幅 11.4cm。ヒノキ亜科
- 3 柱？、長 81.3cm、幅 9.9cm、タブノキ
- 4 丸太材、長 43.6cm、径 5.4cm、クマシデ属
- 5 板、長 96.1cm、幅 9.4cm、クリ
- 6 欠込のある材、長 123.8cm、径 6.6cm、コナラ属クヌギ節
- 7 相欠のある材、長 157.7cm、径 9.1cm イヌガヤ

遺跡名：津島岡大遺跡　所在地：岡山県岡山市　弥生後期～古墳初頭
文献：『津島岡大遺跡 11—第 10・12 次調査』 2003 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター



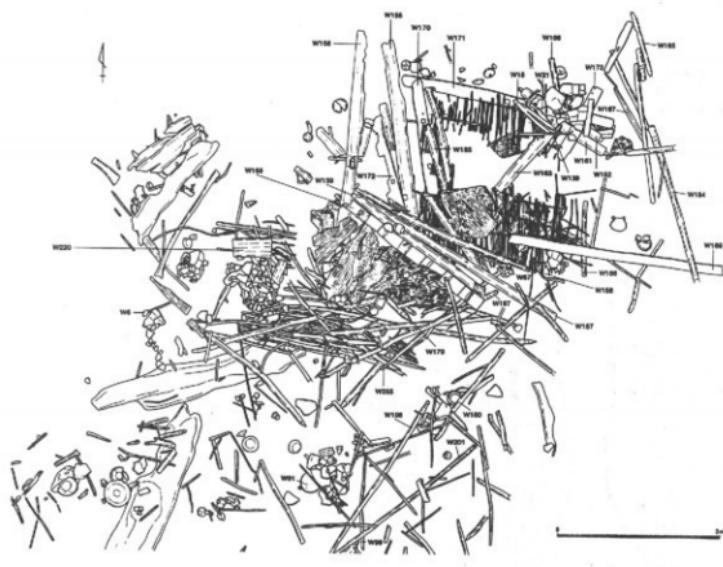
1 有孔板、長 103cm、幅 27cm、エノキ属
2 有孔板、長 56.5cm、幅 13.6cm

遺跡名：津島遺跡

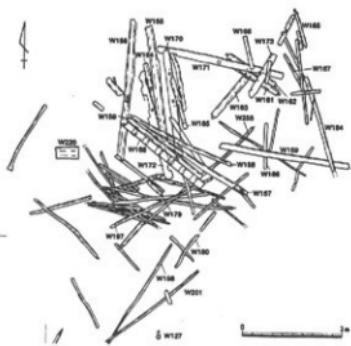
所在地：岡山県岡山市

弥生時代後期

文献：『津島遺跡4』 2003 岡山県教育委員会



図版1 北岸遺物出土状況



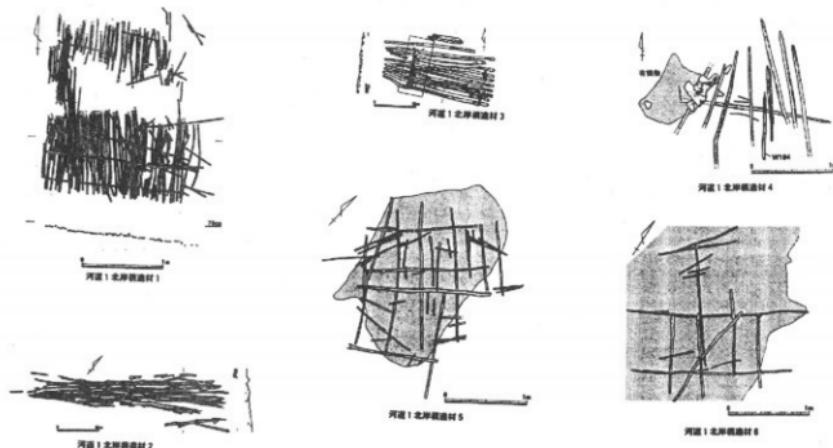
図版1 北岸遺物出土状況

遺跡名：津島遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代後期

文献：『津島遺跡4』 2003 岡山県教育委員会



構造材 1、長 215cm、幅 180cm、スダジイ

構造材 2、長 245cm、幅 50cm、

構造材 3、長 135cm、幅 70cm、ブナ科・コナラ節

構造材 4

構造材 5、長 250cm、幅 180cm

構造材 6、長 230cm、幅 220cm、アカガシ亞属・スダジイ



1 有孔板、長 31.6cm、幅 22.0cm

2 有孔板、長 21.2cm、幅 9.3cm

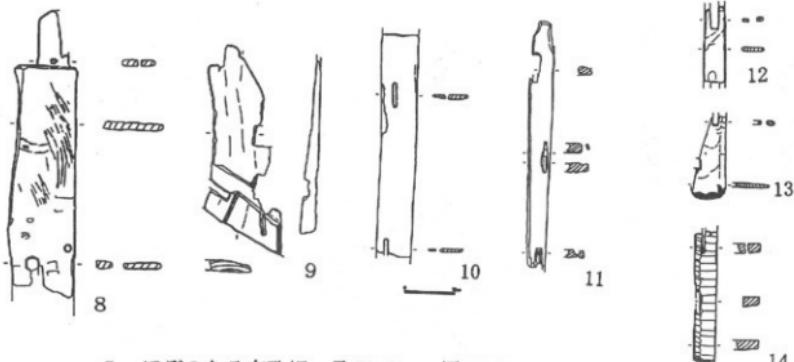
3 有孔・溝板、長 14.0cm、幅 7.4cm

4 有孔板、長 14.0cm、幅 9.2cm

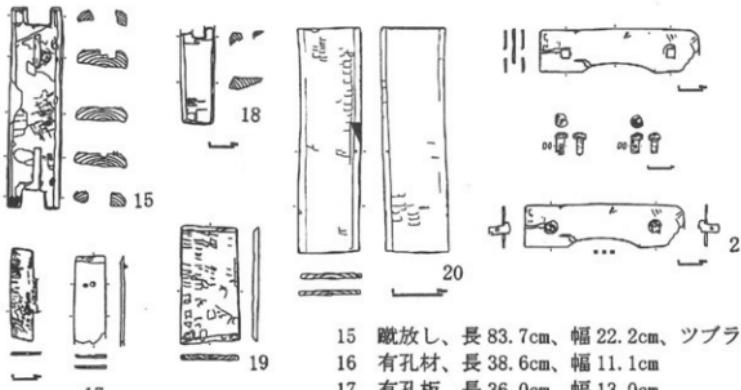
5 有孔板、長 22.5cm、幅 15.2cm、アカガシ亞属

6 有孔板、長 32.9cm、幅 15.7cm

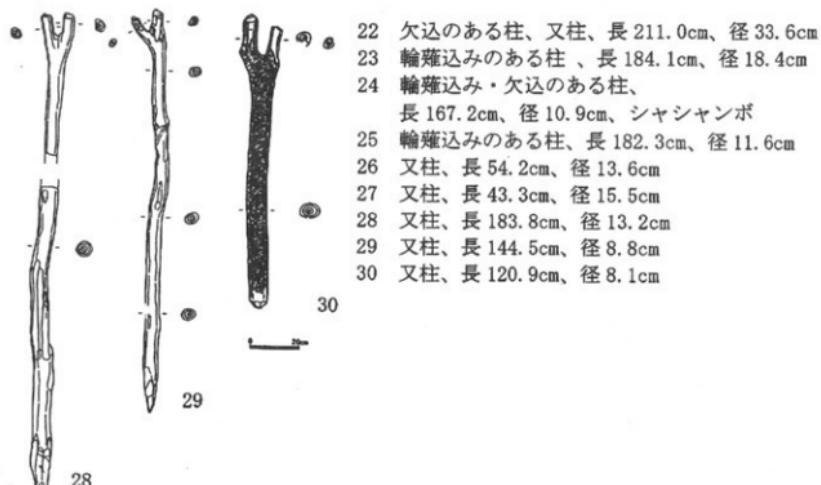
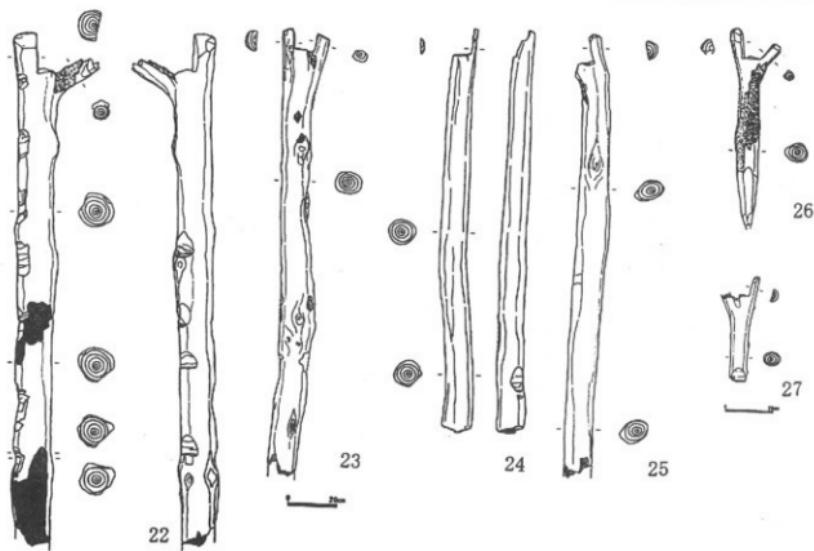
7 有孔板、長 27.5cm、幅 18.7cm



- 8 ほぞのある有孔板、長 59.2cm、幅 13.6cm
 9 斜め切りした溝のある有孔板、長 42.9cm、幅 16.0cm
 10 有孔板、長 45.8cm、幅 7.5cm
 11 溝のある有孔板、長 50.6cm、幅 4.9cm
 12 有孔板、長 15.9cm、幅 4.3cm
 13 有孔板、長 17.2cm、幅 6.8cm
 14 有孔板、長 27.1cm、幅 4.5cm



- 15 砲放し、長 83.7cm、幅 22.2cm、ツブラジイ
 16 有孔材、長 38.6cm、幅 11.1cm
 17 有孔板、長 36.0cm、幅 13.0cm
 18 ほぞ穴のある材、長 40.4cm、幅 13.5cm
 19 板、長 49.3cm、幅 24.4cm
 20 有孔板、長 92.7cm、幅 25.7cm、ウリカエデ
 21 組み合わせ材、長 65.0cm、幅 17.9cm、スダジイ

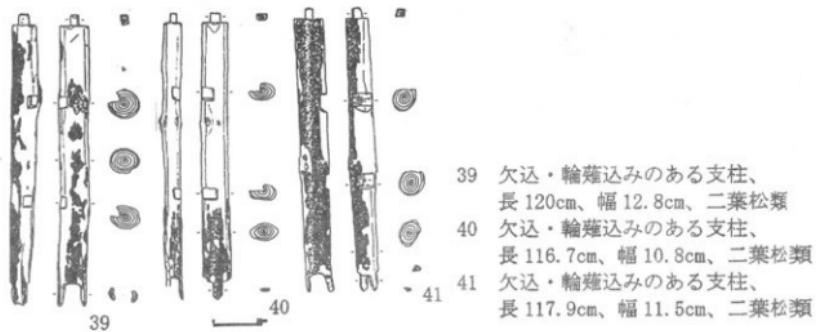
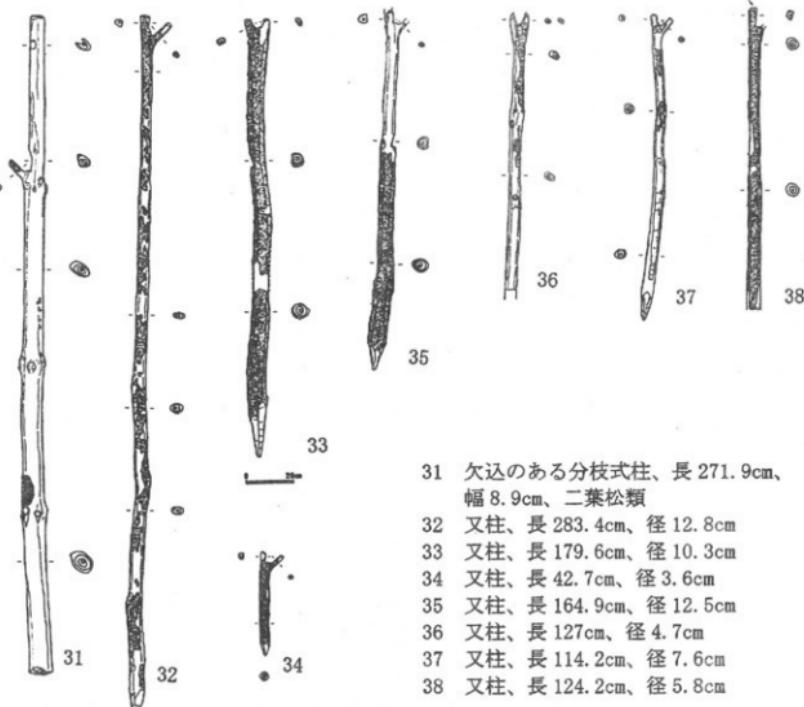


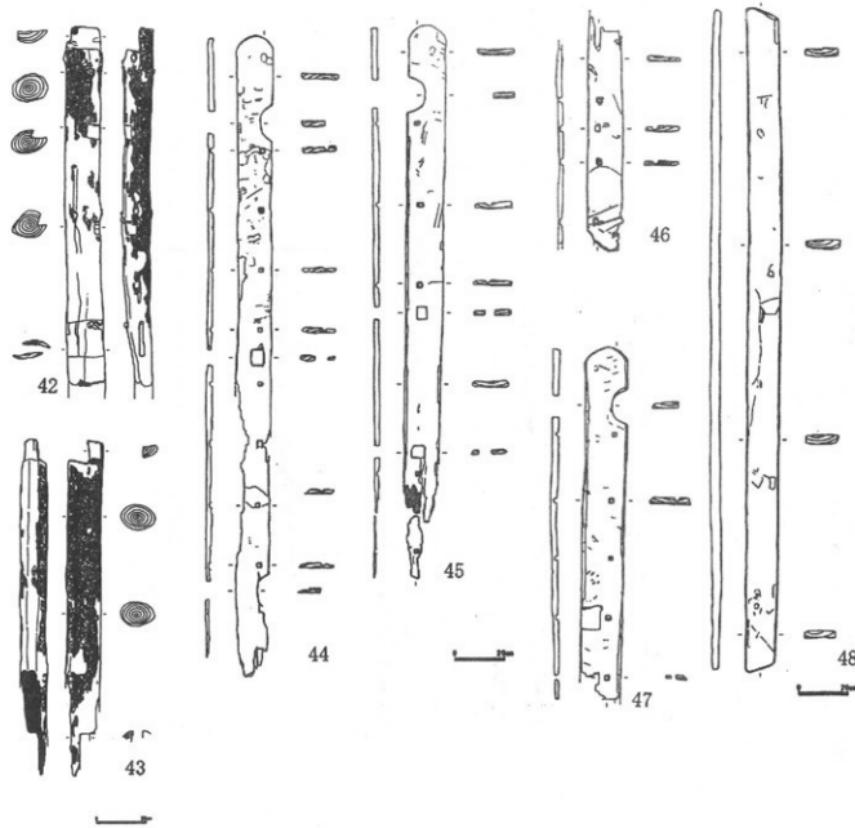
遺跡名：津島遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代後期

文献：『津島遺跡4』 2003 岡山県教育委員会





42 貫・ほぞ・欠込のある柱、長235cm、径16.1cm、針葉樹

43 貫・ほぞのある柱、長285cm、径13.7cm、二葉松類

44 ほぞ穴・えつり孔・円形繰り込みのある板、長262.8cm、幅15.0cm、コナラ節

45 ほぞ穴・えつり孔・円形繰り込みのある板、長201.8cm、幅14.5cm、コナラ節

46 ほぞ穴・えつり孔のある板、長97.7cm、幅14.4cm、クリ

47 えつり孔・円形繰り込みのある板、長143.8cm、幅17.0cm、スダジイ

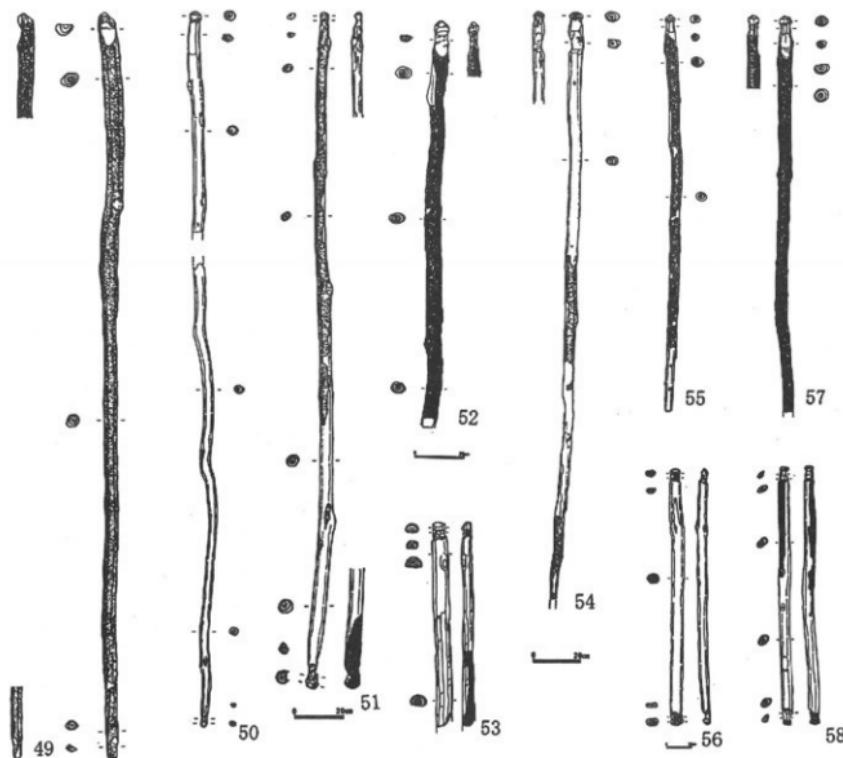
48 斜め切りのある板、長248.5cm、幅13.7cm、クリ

遺跡名：津島遺跡

所在地：岡山県岡山市

弥生時代後期

文献：『津島遺跡4』 2003 岡山県教育委員会



49 垂木、長 309.5cm、径 7.0cm

51 垂木？長 277.2cm、径 5.8cm

53 垂木？長 83.8cm 径 6.7cm

55 垂木？長 162.6cm、径 4.7cm

57 垂木？長 163.6cm、径 6.0cm

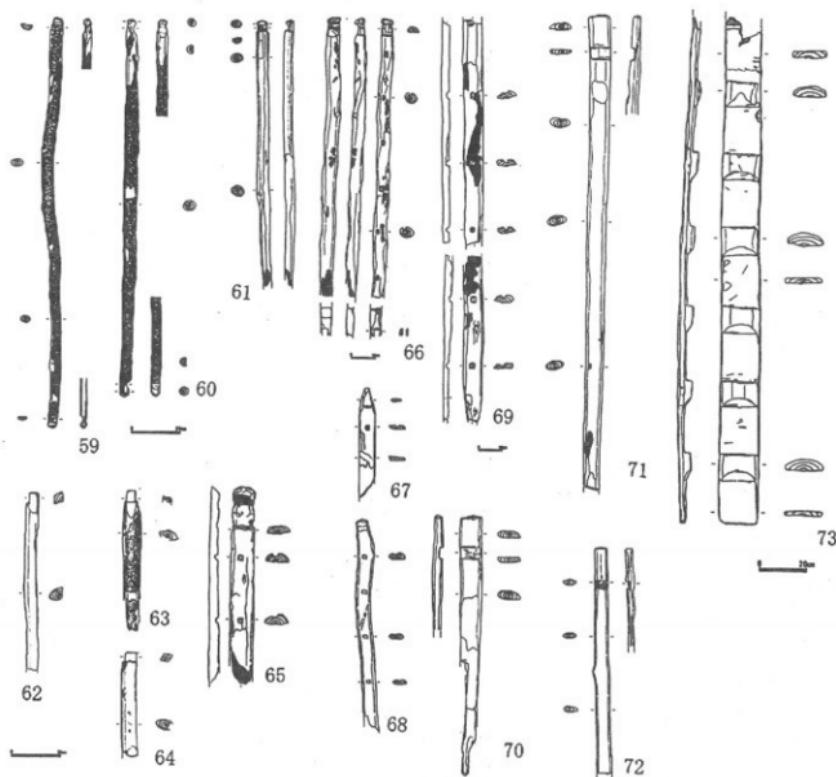
58 垂木？長 107.3cm、径 4.3cm、ヒメシャラ

50 垂木？長 282.4cm、径 6.0cm

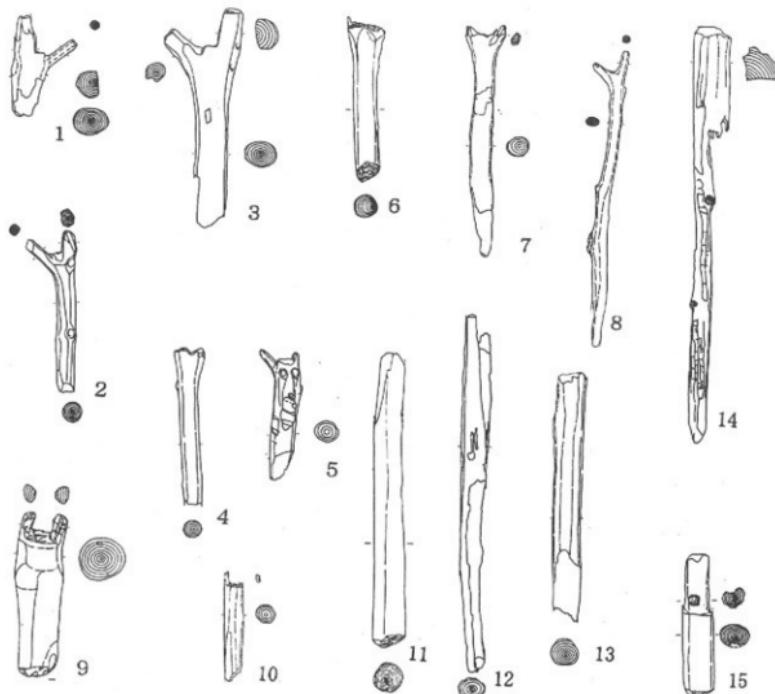
52 垂木？長 168.8cm、径 6.8cm

54 垂木？長 242.3cm、径 5.7cm

56 垂木？長 106.3cm、径 4.8cm、クヌギ節



- 59 垂木? 長 169.9cm、径 4.8cm、スダジイ
60 垂木? 長 159.6cm、径 5.0cm、クヌギ節
- 61 垂木? 長 109.8cm、径 5.2cm
62 ほぞのある材、長 73.3cm、幅 5.3cm
- 63 ほぞのある材、長 43.4cm、径 7.2cm
64 ほぞのある材、長 57.8cm、径 7.8cm
- 65 栓穴のある材、長 81.4cm、幅 9.4cm、クヌギ節
66 栓穴のある材、長 125.5cm、幅 5.4cm
- 67 栓穴のある材、長 45.3cm、幅 6.4cm、クヌギ節またはコナラ節
68 栓穴のある材、長 87.5cm、幅 6.8cm、コナラ節?
- 69 栓穴のある材、長 155.7cm、幅 8.9cm、アカガシ亜属
70 長 107.7cm、幅 8.9cm、ヒサカキ
71 長 196.4cm、幅 8.8cm、ヒサカキ
- 72 材、長 93.5cm、幅 5.6cm、ヒサカキ
73 はしご、長 207.4cm、幅 15.7cm、クリ



- 1 又柱、長 41.5cm、径 14.3cm
- 2 又柱、長 67.4cm、径 8 cm
- 3 又柱、長 90.5cm、径 14cm
- 4 又柱、長 64.8cm、径 8 cm、広葉樹
- 5 又柱、長 53.8cm、径 10.5cm
- 6 又柱、長 68.2cm、径 10cm
- 7 又柱、長 96.0cm、径 9 cm、広葉樹
- 8 又柱、長 122.5cm、径 6 cm
- 9 輪窓込のある柱、長 67.4cm、径 19.7cm、広葉樹
- 10 輪窓込のある柱、長 45.3cm、径 7.5cm
- 11 柱、長 121.0cm、径 13.6cm、広葉樹
- 12 柱、長 148.8cm、径 12cm、
- 13 柱、長 102.2cm、径 12.8cm、広葉樹
- 14 柱、長 173.3cm、幅 14.5cm、広葉樹
- 15 柱、長 58.8cm、径 12.4cm、広葉樹